

2021年9月期
関西大学学位審査論文

他者操作方略に関連するパーソナリティ要因の検討

関西大学大学院 心理学研究科

心理学専攻

17D8504 黄 夢荷

論文要旨

本論文は、他者操作方略を取りうる人がどういう人たちであるかを明らかにするために、他者操作方略尺度に影響するさまざまなパーソナリティ要因を検討したものである。

本論文は7章から構成されている。第1章・第2章では、研究の背景として、操作の辞書の定義に始まり、倫理学における操作、情報・広告・催眠における心理的操作、境界性パーソナリティ障害、情動操作尺度、他者操作方略尺度、サイコパシー特性、マキャベリアニズム、愛着スタイル、孤独感、共感性について述べた。続いて第3章～第6章では、中国と日本において調査を繰り返し、他者操作方略尺度に影響するさまざまなパーソナリティ要因を検討した。第7章では総合考察を行った。

要旨は以下の通りである。

第1章・第2章では、理論的背景について整理し、本論文の目的を述べた。操作という言葉自体は中立的であるが、本研究では他者操作方略を、「利己的で高圧的に他者をコントロールして自己の利益を得ようとする行動」と「他者からのケアを引き出そうとする行動」という、二つの側面をもつと定義し(寺島・小玉,2004)、他者操作方略尺度によって測定される4つの方略、すなわち「自己優越的感情操作」「自己卑下的感情操作」「自己優越的行動操作」「自己卑下的感情操作」について検討した。他者操作方略は、先行研究によって、(1)認知処理のリソースに余裕がなくなるほど、(2)対人ストレスが高まるほど、他者操作方略は増加する。そして、(3)他者操作方略が成功することで、自尊心が高まったり、社会適応が維持されたりすることが示唆されている。本研究では、操作と関連の深い Dark Triad (以下はDT) の特性を中心に、愛着不安や孤独感を促進要因として、共感性や感覚処理感受性を抑制要因として仮定し、他者操作方略に対する影響を検討した。

第3章(研究1)では、中国人31,049名を対象に、Dark Triad Dirty Dozen (DTDD; Geng, 2015) と他者操作方略尺度(寺島・小玉, 2007)を実施し、両者の間に正の相関があることを報告した。

第4章(研究2)では、中国人319名を対象に、Dark Triad Dirty Dozen (DTDD; Geng, 2015)、他者操作方略尺度(寺島・小玉, 2007)、多次元共感性尺度 (Multidimensional Empathy Scale, MES; 鈴木・木野, 2008)、Experiences in Close Relationship Inventory (ECR; Li & Kato, 2006)を実施し、DTと他者操作方略の間に(媒介して)、見捨てられ不安や自己指向的反応の高まりがあることを報告した。

第5章(研究3)では、日本人200名を対象に、日本語版 Dark Triad Dirty Dozen (田村・小塩・田中・増井・Jonason, 2015)、他者操作方略尺度(寺島・小玉, 2004)、UCLA 孤独感尺度短縮版 (Igarashi, 2019)を実施し、DTと他者操作方略(特に自己優越的感情操作・自己卑下的感情操作)の間に(媒介して)、孤独感の高まりがあることを報告した。

第6章(研究4)では、研究5の予備調査として、日本人300名を対象に、感覚処理感受性(Highly Sensitive Person Scale: HSPS-J19 高橋, 2016)、日本語版対人反応性指標(Interpersonal Reactivity Index: IRI-J, 日道他, 2017)、情動伝染(Basic Empathy Scale; Carré, Stefaniak, D'ambrosio, Bensalah, & Besche-Richard, 2013)を実施し、感覚処理感受性が、対人反応性指標・情動伝染と正の相関をもつことを報告した。

同じく第6章(研究5)では、日本人200名を対象に、感覚処理感受性(Highly Sensitive Person Scale: HSPS-J19 高橋, 2016)、日本語版対人反応性指標(Interpersonal Reactivity Index: IRI-J, 日道他, 2017)、情動伝染(Basic Empathy Scale; Carré, Stefaniak, D'ambrosio, Bensalah, & Besche-Richard, 2013)、被影響性(Multidimensional Empathy Scale: MES; 鈴木・木野, 2008)を実施し、(感覚処理感受性の)美的感受性と他者操作方略の間に正の相関があることを報告した。また、(感覚処理感受性の)易興奮性と他者操作方略(自己卑下的行動操作・自己卑下的感情操作)の間に(媒介して)、被影響性や個人的苦痛の高まりがあることを報告した。

第7章では、総合考察を行った。研究1~研究5で明らかになった、他者操作方略の特徴は、次の通りである。「自己優越的感情操作」は、自己の誇大的な(grandiose)側面によって生じ、また、孤独感の高まりによって生じることが示唆された(研究3)。「自己卑下的感情操作」は、不安や孤独を解消するために、他者の気持ちを惹こうとして、相手からケアを引き出そうとする操作であり、社会適応的な機能をもつと示唆された(研究3, 研究5)。「自己優越的行動操作」は(他の操作に比べて)、サイコパシー傾向やマキャベリアニズムの影響が強く、コミュニケーションの暗黒面としての「The操作」と考えられた(研究1)。「自己卑下的感情操作」は、サイコパシー傾向やマキャベリアニズムの影響が(ナルシズムに比べて)強く(研究2)、コミュニケーションの暗黒面としての操作に近い一方で、被影響性・個人的苦痛が高まることで、生じやすくなることも示唆された(研究5)。これらをふまえて、他者操作方略を生じさせるメカニズムを「暗黒説」と「不安・孤独低減説」の2つで考察した。

目次

第一部 操作と他者操作方略、他者操作方略に影響する要因	7
第一章 操作とは	8
第1節 はじめに	8
第2節 操作の辞書的定義	9
第3節 倫理学における操作	9
第4節 情報、広告、催眠と心理的操作	10
第5節 境界性パーソナリティ障害と心理的操作	11
第6節 他者操作方略尺度	12
第7節 日常生活における他者操作方略尺度	14
第二章 他者操作方略とパーソナリティ要因	16
第1節 情動操作とサイコパシー	16
第2節 マキャベリアニズム	17
第3節 Dark Triad	18
第4節 パーソナリティと愛着スタイル、孤独感、共感性	19
第5節 愛着スタイル、孤独感、共感性と他者操作	20
第6節 本研究の目的と意義	21
第二部 調査	24
第三章 研究1 Dark Triad と他者操作方略の関連	25
第四章 研究2 愛着、多次元共感性、Dark Triad と他者操作方略の関連	36
第五章 研究3 Dark Triad、孤独感と他者操作方略の関連	48
第六章 研究4・研究5 感覚処理感受性、共感性と他者操作方略の関連	54
第一節 研究4 感覚処理感受性と共感性の関連	54
第二節 研究5 感覚処理感受性、共感性と他者操作方略の関連	59
第三部 総合考察	68
第七章 考察と展望	68
第1節 研究1～研究5のまとめ	68
第2節 他者操作の特徴	69
第3節 他者操作の暗黒説	70

第4節	他者操作の不安・孤独低減説	72
第5節	DV（依存）関係と卑下操作・感情操作	73
第6節	他者操作研究のこれから	74
引用文献		77
謝辞		86
附録		87

初出一覧

第一章

書き下ろし

第二章

書き下ろし

第三章

書き下ろし（未発表データ）

第四章

黄 夢荷・串崎真志 (2021). サイコパシーの他者操作方略——愛着スタイルと共感性の影響の検討—— 関西大学心理学研究, 12, 1-5.

第五章

書き下ろし（未発表データ）

第六章

黄 夢荷 (2020a). 感覚処理感受性と共感性の関連 ライフケアジャーナル, 11, 37-40.

黄 夢荷 (2020b). 感覚処理感受性と他者操作方略の関連——共感性の影響を含めたアンケート調査—— 関西大学大学院心理学叢誌, 20, 45-50.

第七章

書き下ろし

第一部 操作と他者操作方略、他者操作方略を影響する要因

第一章 操作とは

第1節 はじめに

日常生活において、私たちは他者とさまざまな相互作用をしている。支え合い、助け合い、慰め合い、愛し合う。ときには嘘をついたり、人を欺いたり、傷付けてしまうこともあるだろう。このような相互作用の背景には、何らかの対人的な欲求があると思われる。例えば、人に認められたい、自分を見て欲しいなど、他者を「自分の思い通りにしたい」という気持ちは、誰しも持っているものだ。

このように考えると、「自分の思い通りにしたい」という気持ちは、人間関係において、大きな比重を占めるといえる。友達に助けて欲しいと言うことも、恋人に対する愛着欲求も、もっというなら、親が子どもをしつけることも、子どもが親に物をねだることも、そうかもしれない。個人だけではない。例えば企業は、人々に商品を買ってもらうことが目的である。学校は子どもたちに勉強してもらうこと、国は国民に納税してもらうことが重要である。自分のため、人のため、社会のためなど、目的はそれぞれであっても、他者を操ることは、日常生活の中に、ごくふつうに存在している。社会はある意味で、「操作し合っている」ことで成り立っていると考えてよいだろう。

「操作」という言葉自体は、中立的な言葉である。しかし、ある対象を操ることは、その対象のあるべき姿や取るべき選択に影響する。ときには、その対象の利益を害する場合さえあるだろう。したがって、操作は、マイナスなイメージを伴うことが多い。後述するように、操作を不道徳的と見る場合もある。操作の不道徳的な面としては、他者を操作することで、利益を得たり、大きな損失を負わせたりすることがあげられる。

例えば、電話による特殊詐欺は、被害者の身近な人物を装い、被害者に助けを求め、お金などを搾取する（注 1）。あるいは、テロリズムは、暴力によって、政治変換を起こそうとする政治的な行為である（中村, 2007）。不道徳的な操作では、偽の情報で人々を騙したり、傷つけたりして、激しい感情を呼び起こす。そのダメージは個人だけでなく、企業や国単位に影響し、歴史に残る事件にさえなりうる。

筆者は、ヒトの社会性を考えるうえで、「操作」は欠かせない要素だと考えている。操作は、良くも悪くも人間関係に必要なものだ。本論文では、特に、人間関係を築く際、自らの欲求を満たすために、操作という手法（すなわち他者操作方略）を取りやすい人に焦点を当てる。他者操作方略を取りうる人がどういう人たちであり、人間関係において、どのような意味をもつのかを、5つの調査を通して探求する。

第2節 操作の辞書的定義

最初に、操作という概念の辞書的定義を見ておこう。三省堂の『大辞林第三版』においては、①機械・器具などを動かして、作業させること。(例：レバーを～する) ②自分に都合の良い結果が得られるように手を加える。(例：帳簿を～して利益を隠す) と、二つの意味を挙げている。また、Cambridge University Press の英語辞書によると (Cambridge University Press, 2020)、manipulation は *controlling someone or something to your own advantage, often unfairly or dishonestly* と定義されている。動詞の *manipulate* は *to control something or someone to your advantage, often unfairly or dishonestly* と意味付けされている。

さらに操作は、物を操作すること、環境を操作すること、人を操作すること、という操作の標的によって分けられる。また、操作で得られる結果 (*an Ideal Response vs. Non-Ideal Response*)、操作の手段 (*Paternalistic vs. Non-Paternalistic*)、操作の複雑度、行動と感情の操作、感情と信念 (*beliefs*) の操作、オープンな操作と隠蔽された操作などの分類も可能である (Coons & Weber, 2014, p.58)。これらのことから、操作が、ヒトのさまざまな社会的活動に関連することがわかる。

第3節 倫理学における操作

操作の概念は、心理学だけでなく、倫理学でも研究されてきた。例えば、Coons & Weber (2014) によると、操作が道徳的かどうかは、「嘘」を含んでいるかどうかに関連する (p.120)。虚偽の情報を提供することや、情報を選別し、一部しか伝えない状況は、被操作者が取りうる選択肢に影響する。したがって、情報操作は道徳的責任を背負っており、嘘は非道徳的であると考えられる (p.175)。

倫理学者の Buss, S. (2005) は、操作は、被操作者に損害をもたらす場合があるので、不道徳の成分が多くなると主張する。ただし、操作は被操作者の選択権を無くすわけではなく、選択肢には影響しないと指摘した (p.208)。そして、Coons & Weber (2014, p.69) によれば、状況によっては、自分の意志と別に、操作したとみなされる可能性もある。例えば、A が B に対して影響力をもっていて、それとは関係なく B に損害が生じた場合、A に操作の事実がなくても、第三者は A が B を操作したとみるだろう。

同じく倫理学者の Noggle, R. (2020) の“*The Ethics of Manipulation*”では、どのような場合に、操作が不道徳かを議論している。Noggle によると、操作は基本的に不道徳であるが、操作で得られた結末次第では道徳的にもなりうるという。例えば、Tさんは捕らえられたテロリストで、街に爆弾を隠していて、彼女の好ましい行動は、爆発するまでその場所を秘密にしておくことだとする。そして、FBIの尋問官で、爆発する前に爆弾の場所を明かすように

Tさんに要求したとする。尋問官がTさんを操ることに成功したら、多くの罪のない命が救われるだろう。これは結果論的な見方であるが、この場合、尋問官がテロリストを操ることが、バランス的には間違っていないとなる。

さらに、Faden, R. R., & Beauchamp, T. L. (1986) の “*A History and Theory of Informed Consent*” では、医療場面の同意の有効性を、操作という観点から議論している。医師が「もしあなた（患者）が薬を使わないなら、（私は）不満を感じる」と患者にはっきり伝え、患者は「薬を使わないほうがいいと思うが、薬を使うことで、医者とよりいい関係を築くことができる」と思ったならば、患者は、医師の権威と圧力によって行動したことになる。Faden, R. R., & Beauchamp, T. L. (1986) は、このような状況も、「操作」を構成すると主張している (p.258)。同様に考えると、欺瞞、教化、誘惑も操作的といえる。操作は、脅迫と同じくらい支配力をもつ場合もあれば、説得と同じくらいの力しかない時もある。操作はこの間にあるという (p.259)。

第4節 情報、広告、催眠と心理的操作

ここからは、心理的な操作 (psychological manipulations) について見ていきたい。心理学者の Braiker, H. B. (2004) によると、psychological manipulation は社会的な影響力の1つであり、騙しや卑怯な手段を通じて、他者の行為と思考を変える力を指す。

心理学において、操作は、情報、広告、臨床場面に関して議論されてきた。例えば、近年、オンライン・コミュニティにおける情報・心理的操作 (informational and psychological manipulations : IPM) が注目されている (Peleschysyn, Holub, & Holub, 2017, 2018)。IPM は情報伝達のメカニズムや手段を利用して、人の潜在意識に影響を与え、その人の視点や態度を変えたり、行動を左右したりするという操作である。オンライン・コミュニティにおける IPM は、テキストとそれに付随する手段 (顔文字など) を用いて達成される。オンライン・コミュニティは、大量の不特定ユーザーが、膨大な閲覧を行っており、操作の影響は大きい。観測、特定、予防に向けて研究が進んでいる。

もう一つは、広告の心理的操作である。Danciu (2014) は、現代の広告技術は操作的になっており、消費者の選択の自由を制限していると懸念する。例えば、選択的注意、選択的歪み、選択的保持、プライミング効果などで、サブリミナル・メッセージ (subliminal message) を伝え、潜在的動機を生じさせること (creating a subconscious motivation) が可能である (Dissanayake & Jayasinghe, 2016)。参考までに、Singh (2019) による、広告の説得技法スペクトルを下記に示しておく (Table 1)。

Coercition/Force	Manipulation	Rational persuasion	Factual information
Threat	Deceitful advertising	Logical arguments	Qualities
Physical violence	Fallacious arguments		Price
	Emotive persuasion		Display

臨床場面に関しては、催眠における操作が議論されてきた。アメリカ心理学会第 30 部会（催眠部門）の定義によると、「催眠は、治療の専門家と研究者によって行う治療のプロセスで、その間に感覚、知覚、思想と行動の変革が伴う...」「1つの意識状態であり、注意力が集中し、周囲への意識が減少し、“意見”への反応が強まれる」と定義されている（注2）。催眠は、同意、注意の変化、暗示（consent, change of focus, and suggestion）の3つを必ず含む。同意の上で行う催眠には、強制性がなく、したがって、脅迫とは別の概念である。マスメディアでは、催眠を心理的操作と結びつけやすいが、催眠は人の心そのものにある力だと考えられている（Aguado, 2015）。

第5節 境界性パーソナリティ障害と心理的操作

次に、境界性パーソナリティ障害（borderline personality disorder: BPD）と心理的操作の問題を取り上げてみたい。BPDは、『*Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, 5th edition*』（DSM-5）の10種類のパーソナリティ障害のうち、B群（演技的、感情的、移り気な様子）の一つとして位置付けられている。DSM-5の診断基準では、不安定で激しい人間関係、不安定な自己像、顕著な衝動性、持続的な空虚感など、9個の項目から5つ以上を満たす必要がある。

松見（2007）によると、BPDの成因は、①家庭感情（過干渉か、放任主義あるいは育児に無関心な親）、②社会的病因（社会変化、性役割の変化などの適応不全）、③素因に分けられる。BPDは、孤独に対する耐性が低く、あらゆることに対して情緒不安定で、物事を両極端に判断し、心の変化が掴みにくいという。

さらに、BPDは、他者を自己と一体化しやすいという特徴がある（松見, 2007）。例えば、BPDにとって、治療者は職務上、理想化されやすい。しかし治療者も人間であって、完璧ではないため、BPDの理想通りにはならない。BPDは他者に対して「中間」という評価がなく、あらゆることを両極端に判断するため、治療者が理想でないと分かったとたん、評価を急激に下げる。そして自分の思い通りに行くように、操作し始める。BPDの人は相手の心を読むことが上手いこともあり、治療者はBPDの操作性に振り回されがちである。

このように、操作はBPDの対人関係の特徴である（田村・井上, 2009）。BPDの患者は、自殺企図や自傷行為で周りの人たちを脅したり、他者を罰することがしばしば見られる（Lubid, 2018）。実際、BPD患者の自殺率は3%~10%で、精神疾患の中で自殺率が高いグ

ループの中にある (Linehan et al., 2006; Soloff & Chiappetta, 2012; Soloff & Fabio, 2008)。したがって、BPD のカウンセリングでは、その「投影」に巻き込まれないよう、少し距離を取ることも大切であろう。

さらに、BPD 患者の操作は、ときに彼女たちを不遇にする。例えば、Gremillion (2003) は、摂食障害をもつ BPD 患者が、状態が安定したらすぐに退院させられることを報告した。また、Bowers (2002) によると、操作とラベル付けられた行動として、脅迫、身体的暴力、嘘があった。

一方で、BPD の操作を、操作として定義づけるべきではないという主張もある。例えば、Potter (2006) は、BPD 患者を客観的に観察し、彼らが苦しんでおり、医者への援助を必要としていると指摘した。また、Sulzer (2015) は、22 人の臨床家 (精神科医、心理師、ソーシャルワーカー) にインタビューを行った。その結果、確かに BPD 患者は難しい (difficult) とラベルされ、そのような難しさに対して、操作的 (manipulative) という言葉が使われていた。とはいえ、ある女性患者は、毎日病院に電話して、自殺すると言いつけたが、2 年をかけても自殺しなかった。このことから、BPD の操作は、臨床家の注意を惹きつけるためかもしれない。あるいは、BPD の操作を、苦しい感情への対処法として考えることもできるだろう。

第 6 節 他者操作方略尺度

ここからは、他者操作方略という概念について見ていきたい。他者操作方略は、臨床群 (境界性パーソナリティ障害) における操作 (manipulation) という特徴と、健常群における操作的な行動特徴としてマキャベリアニズム (後述) を踏まえた概念である。そして、「利己的で高圧的に他者をコントロールして自己の利益を得ようとする行動」と「他者からのケアを引き出そうとする行動」という、二つの側面があると仮定される (寺島・小玉, 2004)。

寺島・小玉 (2004) は 402 名の大学生に質問紙調査を実施し、次の 4 因子からなる他者操作方略尺度を作成した。本研究においても、第三章以降で用いるので、それらの定義と項目例を以下に示しておく。

①自己優越的感情操作

定義：自分が相手よりも上の立場にたって自らの優越性をアピールすることで、他者に何らかの感情を喚起させようとする操作

項目例：「すごいね」と言ってもらおうとして自分のすごいと思うところをアピールする

②自己卑下的感情操作

定義：自分が相手よりも下の立場にたって自らの能力や状況を低く見積もったものをアピ

ールすることで、他者に何らかの感情を喚起させようとする操作

項目例：相手になぐさめてもらおうとして自分の不運を大げさにぼやく

③自己優越的行動操作

定義：自分が相手よりも上の立場にたって自分の優越性をアピールすることで何かをしてもらおうとする操作

項目例：頼みごとをことわりなくくさせようとして相手への昔の貸しをもちだす

④自己卑下的行動操作

定義：自分が相手よりも下の立場にたって自らの能力や状況を低く見積もったものをアピールすることで何かをしてもらおうとする操作

項目例：自分の仕事を手伝ってもらおうとしていかにも困っているふりをする

優越的な操作は、相手の行動を「コントロールする」、卑下的な操作は、相手の行動を「引き出す」という側面が強い。そして、他者操作方略には性差がある。男性は女性に比べて、自己優越的行動操作が高く、女性は男性に比べて、自己卑下的感情操作を使う傾向が高い（寺島・小玉, 2004）。

ところで、他者操作方略は、どのような要因で増加するのだろうか。寺島・小玉（2006a）は、認知処理スタイルと他者操作方略との関連を検討した。その結果、抗ストレス認知傾向尺度の鷹揚さ（項目例：小さなことにはこだわらないほうだ。多少のことではへこたれない。ここ一番という時にはすごく集中する）が低いほど、自己卑下的感情操作は増えることがわかった。同様に、抗ストレス認知傾向尺度の不屈さ（項目例：ものごとがうまく行かないときでも何とかしようとねばってみる。ダメかも知れないと思うことでも一応トライしてみる。が弱音を吐くような場面でも何とかやり過ごせる）が低いほど、自己卑下的行動操作が増えていた。

また、寺島・小玉（2007a）は、対人ストレスと他者操作方略との関連を検討した。その結果、対人ストレスイベント尺度の対人葛藤が高いほど、自己優越的行動操作が増え、対人摩耗が高いほど自己卑下的感情操作が増え、対人劣等が高いほど自己卑下的行動操作が増えていた。

一方、寺島・小玉（2008a）は、他者操作の適応的側面にも注目している。すなわち操作は、「他者から確実にサポートを得るために用いられる方略」（p.40）でもある。そこで、大学生 263 名を対象に、他者操作方略尺度と General Health Questionnaire-28 を実施した。その結果、他者操作方略を全体として見ると、高操作群は低操作群に比べて、社会的活動（いつもより忙しく活動的な生活を送る）が障害されていた。ところが行動操作に限って見ると、行動操作が高い群は（高操作群に比べて）、社会的活動が障害されていなかった。このことは、高い行動操作によって、他者から道具的サポートを引き出すことができたと考えられる。

さらに、上述の寺島・小玉（2007a）においても、自己優越的感情操作が多いほど、自尊心が高かった。これも、自己優越的な操作によって、他者からの情緒的サポートをうまく引き出したと考察できるだろう。ただし、寺島・児玉（2007b）においては、逆の因果関係、つまり自尊心が他者操作方略に影響するというモデルを検証している。

寺島・小玉（2006a）によると、他者操作方略を増加させる動機は、社会的スキルが高いか低いかにによって、異なると報告している。すなわち、社会的スキル高群においては（Kiss-18で測定）、同調（みんなと同じでいたい）や被愛願望（みんなから愛されたい）の欲求が高いほど、自己卑下の感情操作・自己卑下の行動操作が増えていた。このことは、他者と広くかかわりたいという、積極的で適応的な動機によって他者操作が行われることを示唆している。

以上をまとめると、(1) 認知処理のリソースに余裕がなくなるほど、(2) 対人ストレスが高まるほど、他者操作方略は増加する。そして、(3) 他者操作方略が成功することで、自尊心が高まったり、社会適応が維持されたりすることが示唆される。

第7節 日常生活における他者操作方略尺度

もう一つ、日常生活における他者操作方略についても見ておきたい。木川・今城（2018b）は、寺島・小玉（2004）と異なる視点から、親密な人間関係に限らず、学校や職場での他者操作をも測定しうる、「日常生活における他者操作方略尺度」を作成した。これは、次の3因子（46項目）で構成されている。

①圧力

項目例：やってほしい行為をするまで、その人を無視する。こうしなければだめだ、と頭ごなしに押し付ける。高圧的に要望を伝える。威圧的に制止する。

②策略

項目例：そうさせるために、都合の悪いことは隠す（嘘）。その行為を依頼する真意は明かさず、だまして行わせる（嘘）。依頼するとき、媚びを売る（追従）。下手（したて）に出て伝える（追従）。

③率直

項目例：その行為をしてほしくない理由を説明する。そうするメリットを提示する。素直にお願いする。

木川・今城（2018c）は、日常生活における他者操作方略尺度と対人ストレス尺度との関連を検討した。その結果、圧力を用いた他者操作が多いほど、対人葛藤・対人過失が高

く、策略を用いた他者操作が多いほど、対人摩耗・対人過失が高かった。この他者操作方略尺度の特徴は、率直という、(押しえついたり策を弄したりするのではなく)自分の依頼を素直に伝える方略が含まれていることである。そして、率直を用いた他者操作が多いほど、人生満足度が高くなることが報告されている(木川・今城, 2018c)。他者操作行為を行うことで、他者から何かを得ると同時に、自分の人生に対する満足感が高まる効果がある。他者操作は大切な社会行動の一つにもなり得る。

さらに、木川・今城(2020)によると、どの他者操作方略を使うかは、相手の地位によって異なる。例えば、上位者に対しては(下位者に比べて)、媚びを売ったり、下手に出たりという、策略(追従)方略が使われやすい。また、上位者の同性に対しては(上位者の異性に比べて)、策略(嘘)が使われやすい。このように、他者操作方略の研究においては、性差の検討も必要である。そこで本研究の第六章(研究4)では、性差についても検討する。これらの研究は、率直方略まで含めた他者方略が、日常生活で広く用いられていることを意味する。他者方略は日常生活において、重要なコミュニケーションの一つである。それに影響する要因を探ることは、私たちの相互的な人間関係の一端を解明することにつながるだろう。

注

- 1 千葉県警察ウェブサイト https://www.police.pref.chiba.jp/seisoka/safe-life_fraud-refund.html
- 2 アメリカ心理学会第30部会 <https://www.apa.org/about/division/div30>

第二章 他者操作方略とパーソナリティ要因

第1節 情動操作とサイコパシー

さて、心理学では、操作をパーソナリティ特性として捉えることもある。例えば、情動操作 (emotional manipulation: EM) という特性が、そうである。Austin, Farrelly, Black, & Moore (2007) によると、高い感情知能 (emotional intelligence: EI) の持ち主は、他者の感情を読み取ったり、それを管理したり、自分の行為をコントロールすることで、他者を自分に合わせるといった暗黒面 (dark side) をもっているという。すなわち、EI は、利用目的によって、操作的になる可能性も否定できない。

これをふまえて、Austin, Farrelly, Black, & Moore (2007) は、情動操作尺度 (emotional manipulation scale) を開発した。「情動操作傾向」(emotional manipulation: 項目例 I know how to embarrass someone to stop them behaving in a particular way)、「情動スキルの不足」(poor emotion skills: 項目例 I am not very good at motivating people)、「他者に対する感情を隠す能力」(concealment: 項目例 When someone has made me upset or angry, I tend to downplay my feelings) という、3 因子で構成されていた。このうち、情動操作傾向は、Big five の神経症傾向 (neuroticism)、外向性 (extraversion)、開放性 (openness) とごく弱い負の相関をもち、調和性 (agreeableness)、統制性 (conscientiousness) とごく弱い正の相関をもっていた。

もう一つのパーソナリティ特性は、サイコパシー特性である。サイコパシー (psychopathy) の研究は、Karpman, B. まで遡る。Karpman (1948) はサイコパシクなパーソナリティ (psychopathic personality) を提唱した。その後、Hare, R. D., McPherson, L. M., & Forth, A. E. (1998) は別の観点から、サイコパシーを診断する Psychopathy Checklist-Revised (PCL-R) を作成し、利己的で無責任で搾取的な側面 (selfish, remorseless, and exploitative use of others) と、慢性的に不安定で反社会的な生活様式 (chronically unstable and antisocial life-style) という2 因子にわけて定義付けた。しかし、いままでの PCL-R は犯罪歴があるもののみ診断されるため、Levenson, Kiehl, & Fitzpatrick (1995) は、犯罪歴を含まない自己記入式の尺度として、一次性・二次性サイコパシー尺度 (Primary and Secondary Psychopathy Scales: PSPS) を作成した。一次性サイコパシー (Primary psychopathy: PP) には、嘘をつきやすい (inclination to lie)、無責任 (lack of remorse)、冷淡さ (callousness)、操作性 (manipulativeness) など、二次性サイコパシー (Secondary psychopathy: SP) には衝動性 (impulsivity)、欲求不満に耐えられない (intorelance of frustration)、怒りっぽさ (quick-temperedness)、長期目標の欠如 (lack of long-term goals) などの特性で構成された。

そして、Neumann, Hare, & Newman (2007) によると、サイコパシー特性は、操作的行為

と関連があるという。Grieve & Mahar (2010) は2つの調査を実施して、サイコパシーと EM (上述) の関連を検討した。サイコパシー特性は、Levenson, Kiehl, & Fitzpatrick (1995) の尺度を用いて、一次性サイコパシー (悪意的で、操作的で、冷淡で、欺瞞的で、無慈悲な行動が見られる) と二次性サイコパシー (衝動性、不安、および反社会的行動がある) を測定した。その結果、EM は一次性サイコパシーと二次性サイコパシーともに正の相関があった。また、男性においては、一次性サイコパシー、EI (emotional intelligence) は EM と正の相関があり、女性においては、一次性サイコパシー、二次性サイコパシー、EI は EM と正の関連があった。

また、Gough (2016) は、245名の女性と136名の男性を調査し、男性において一次性サイコパシー、マキャベリズム、ナルシシズム (grandiose narcissism) は、EM と正の相関をもち、女性において、一次性サイコパシー、サディズム、ナルシシズム (grandiose narcissism と vulnerable narcissism) は、EM と正の相関をもっていた。他にも、Grieve, March, & Van Doorn (2019) によると、男性の男性役割 (masculine gender roles) は EM と正の相関があり、女性の男性役割は EM と正の相関があり、女性の女性役割は EM と負の相関があった。また、女性において、一次性サイコパシー、二次性サイコパシー、感情知能 (emotional intelligence) は、EM と正の相関があった。

上述したように、EM は EI の暗黒面 (dark side) であり、他者操作能力の一つである。とはいえ、操作するかしないかというハンドルは、その人自身が握っている。そこで、それを測るため、Hyde & Grieve (2014) は EM 意欲 (emotional manipulation-willingness) と EM 知覚能力 (emotional manipulation-perceived ability) という概念を提唱した。その結果、一次性サイコパシーは、EM 意欲と EM 知覚能力に正の相関をもち、二次性サイコパシーは、EM 意欲のみに正の相関があった。同様に、Hyde & Grieve (2018) は、仕事場面と日常場面における EM を検証した。労働者 567 名に調査した結果、職場関連悪意 EM 意欲 (work-related malicious EM willingness)、不誠実 (disingenuousness)、全般悪意 EM 意欲 (general malicious EM willingness) という3因子が抽出された。男性は職場関連悪意「他者に罪悪感を感じさせる」(Use your emotional skills to make others feel guilty)、女性は不誠実「誰かを自分の言う通りにさせる」(Reassure people so that they are more likely to go along with what you say) の項目に、因子負荷量が高かった。以上のことから、(1)情動操作はパーソナリティの特性である。(2)サイコパシーは操作的なパーソナリティで、情動操作との関連は性差によって左右される。

第2節 マキャベリアニズム

さて、操作に類似するパーソナリティ特性として、第一章では、情動操作傾向 (EM) とサイコパシー特性を概説した。これらに加え、操作にもっとも類似するパーソナリティ特性として、マキャベリアニズム (Machiavellianism) がある。マキャベリアニズムの概念は、16

世紀の政治家 Niccolo Machiavelli の名前に由来し、統治者の操作的な対人戦略を意味する (Jones & Paulhus, 2009)。Christie, R., & Geis, F. L. (1970) は、著書 “*Studies in Machiavellianism*” で、マキャベリアニズムを政治学だけでなく、人の社会行動にも適用し、マキャベリアニズム尺度を開発した。そこでは、マキャベリアニズムは、利己的で、不道徳で操作性が強いパーソナリティとして定義されている。例えば、Rada, de Lucas Taracena, & Rodriguez (2004) によると、反社会性パーソナリティ障害の患者は、統制群に比べて、マキャベリアニズム尺度第4版 (Mach-IV) の得点が高い。なお、日本語版に関しては、中村ら (2011) がマキャベリアニズム尺度を翻訳し、信頼性と妥当性を確認している。

マキャベリアニズム尺度は、Big Five パーソナリティの開放性 (openness) や調和性 (agreeableness) と負の相関をもつ (Carton & Egan, 2017)。あるいは、調和性 (agreeableness) と負の相関、神経症傾向 (neuroticism) と正の相関をもつ (下司・橋本・小塩, 2015)。

そして、Carton & Egan (2017) によると、マキャベリアニズムが高いほど、親密関係における感情的虐待 (multidimensional measure of emotional abuse: MMEA で測定。項目例 You/your partner belittled the other person in front of other people. You/your partner drove recklessly to frighten the other person) が高い。

また、Brewer & Abell (2015) によると、マキャベリアニズムが高いほど、同性に対する競争心が高く (Scale for Intra-Sexual Competition で測定。項目例 I can't stand it when I meet another man who is more attractive than I am)、異性に対するネガティブな誘導 (intra-sexual negative inducements : 情動操作やコミットメント操作) が高かった。

さらに、Brewer & Abell (2017) によると、マキャベリアニズムが高いほど、パートナーとの関係に対して満足度が低く (Relationship Satisfaction Scale で測定。項目例 In general, how satisfied are you with your relationship. To what extent has your relationship met your original expectations)、信頼度が低く (Trust in Close Personal Relationships Scale で測定。項目例 I can rely on my partner to keep the promises he/she makes to me)、関係維持の意欲も低かった (Commitment Scale で測定。項目例 I feel completely attached to my partner and our relationship)。

以上をまとめると、マキャベリアニズムは、人を思い通りにするために、嘘や騙しも躊躇しないという強い操作であり、(1)マキャベリアニズムが高いほど、親密な関係において強い感情操作が増加し、その結果、(2)親密な関係は破綻に向かうことが示唆される

第3節 Dark Triad

前文で述べたように、サイコパシーとマキャベリアニズムは定義上、操作的な特性を含んでいる。そして、この2つにナルシシズムを加えた3つの反社会的パーソナリティをまとめて、Dark Triad (以下はDT) と呼ぶ (Paulhus & Williams, 2002)。

DT と他者操作に関連する先行研究では、向社会的資源管理方略 (prosocial resource control strategies : 私は資源を得るために、他者に報酬を約束する) と強制的 (coercive

resource control strategies：私は資源を得るために、他者を支配する）という2つの方略が含まれている。資源管理方略（resource control strategies）は、DTと有意な相関がみられた（Zeigler-Hill, Southard, & Besser, 2014）。

そして、3つのパーソナリティを個別に検討するとDTのサイコパシー傾向は、高い衝動性とリスク追求（risk seeking）をもち、低い共感性と不安という特徴をもつ（Paulhus & Williams, 2002）。マキャベリアニズムは非道徳的で、操作的なパーソナリティとされる（Christie & Geis, 1970）。そして、ナルシシズムは優越性、自己満足、虚栄心、自己顕示的な特徴をもつ（Raskin & Terry, 1988）。

ここでは、ナルシシズムと他者操作の関連について、補足しておこう。下司・小塩（2019）の研究では、DT尺度のマキャベリアニズムとサイコパシー傾向は、他者操作方略のすべての下位因子と正の相関がみられた。しかし、ナルシシズムは（自己優越的感情操作を除いて）有意な相関はみられなかった。

DTの3つのパーソナリティは、お互いに正の相関があるため（田村・小塩・田中・増井・Jonason, 2015）、他者操作方略との相関がみられてもよいはずである。寺島・小玉（2004）は、DSM-IV（American Psychiatric Association, 1994）をふまえ、自己愛性人格障害には自己優越的な側面があり、境界性パーソナリティ障害には自己卑下的な側面があるという。実際、自己愛人格目録短縮版（小塩, 1998）で測定した注目・賞賛欲求（項目例「私には、みんなの注目を集めてみたいという気持ちがある」「私は、みんなからほめられたいと思っている」）は、他者操作方略の卑下性感情操作、優越性行動操作、優越性感情操作に影響（最も高い影響は優越性感情操作）していた（寺島・小玉, 2007b）。

操作的なDTは、反社会的と認知される一方で、社会に適応する面も検討されてきた。嘉瀬・上野・下司（2019）の研究では、DTのライフスキルを検討し、マキャベリアニズムはDM（decision making：計画性や論理的思考で問題解決）のみに正の相関であり、ナルシシズムはDM、IR（interpersonal relationship skill：他者へ共感し、共感を言動で表現する対人関係スキル）、EC（effective communication skill：考えを他者に効果的に使えるコミュニケーションスキル）、CE（coping with emotion：情動を効果的に抑える情動対処スキル）のすべてのライフスキルと正相関であった。DTのマキャベリアニズムとナルシシズムは操作的でありながら、ある程度のライフスキルを用いて、一定の社会適応能力があると考察された。しかし、サイコパシー傾向はDM、IR、CE共に負の相関を示し、計画性と共感性のなさや衝動的な面を加えて、社会不適応になることが示唆されている。本研究では、その背後にある要因を含めて、DTの他者操作方略を深く検討する。

第4節 パーソナリティと愛着スタイル、孤独感、共感性

前文で他者操作に関連するパーソナリティに関して紹介したが、本節ではパーソナリティの特性を更に深掘りする。まず、愛着スタイルとDTの関連を検討したイタリアの研究では、

サイコパシー傾向と親密な絆 (attachment bonds) を検討しサイコパシー傾向が高いほど、無秩序型の愛着経験 (disorganized attachment) を経験していたと報告された (Schimmenti, A., Passanisi, A., Pace, U., Manzella, S., Di Carlo, G., & Caretti, V., 2014)。また、前文で述べたように、愛着スタイルの不安と回避が高いほど、マキャベリアニズム得点が高かった。

孤独感と DT の関連は前文で述べたように、孤独感とマキャベリアニズム、サイコパシー傾向はそれぞれ正の相関であった。特にサイコパシーに関しては、意外かもしれないが、サイコパシー傾向や冷淡な特性 (callous and unemotional traits) は、孤独感と正の相関がある (Berg et al., 2013; Masui, 2019; Zhang, Zou, Wang, & Finy, 2015)。サイコパシー傾向者にも、少し変わっているが親和欲求はある (atypical social affiliation) というのが、最近の見解である (Viding & McCrory, 2019)。

共感性と DT にかんしては、サイコパシー傾向は定義上で、低い共感性の特性があるとみなされる。前文で述べたように、DT のほかのパーソナリティにも共感の欠如がみられ、全体的に感情的共感と認知的共感に問題があると指摘された。パーソナリティの操作性はパーソナリティそのものから来るのだろうか？本研究ではこれらについて探求したい。

第5節 愛着スタイル、孤独感、共感性と他者操作

他者操作と関連があるパーソナリティ (愛着スタイル、孤独感、共感性) を前文で紹介した。本節は逆手を取って、他者操作方略は、どのような要因で増えるのを検討する。その一つに、愛着スタイル (attachment style) があげられる。

愛着スタイルは Ainsworth, Blehar, Waters, & Wall (1978) が提唱した幼児の愛着3つの分類 (安定型、アンビバレント型、回避型) に由来する。成人の愛着スタイルは親密な対人関係の体験尺度 (Experiences in Close Relationship inventory: ECR) で測る。ECR は愛着対象に見捨てられかもしれないという不安と、親密性から回避することの2つの因子で構成される。成人の愛着スタイルは、親の養育方式と関わりと指摘されていた (谷口・西谷, 2012)。愛着スタイルと操作の関連といえば、愛着スタイルの不安が高いほど、マキャベリアニズム尺度得点は高かった (Jonason, Baughman, Carter, & Parker, 2015)。一方、愛着スタイル (Experiences in Close Relationship で測定) の回避 (avoidance) が高いほど、マキャベリアニズム尺度得点は高かったという報告もある (Ináncsi, Láng, & Bereczkei, 2015)。

他者操作方略に影響する要因として、もう一つ、孤独感があげられる (Berg et al., 2013)。孤独感は心理学において、様々な定義づけされているが、日本において落合 (1974) は「自分が孤独 (ひとり) だと感じる」と広義的な孤独感に定義した。海外では、「個人が経験している人間関係は、その個人が望んでいる関係に比べて、下回っていると感じる時に生じる感情である」という定義があった (Peplau, L. A., & Perlman, D., 1979)。落合 (1974) では、人間同士お互いを理解し共感し合えるだと思っているかどうかと、それぞれの個別性を気付いたかどうかで、4つのタイプに分けた。A型は他者と理解・共感しあえると考え

同時に、他者と自分の個別性を気づいていない。B型は他者と共感し合えないと考えて、自分と他者の個別性に気づいていない。C型は共感し合えないと考えて、自分と他者の個別性に気づいている。D型は人間同士がお互い理解し合って共感していると思いながら、個別性を気づいている。芝崎（2019）の研究では、D型は最も孤独感を感じると示唆された。孤独感と操作の関連について、Zhang, Zou, Wang, & Finy（2015）によると、孤独感とマキャベリアニズム、自己愛傾向、サイコパシー傾向の相関係数はそれぞれ、 $r_s = .30, -.05, .24$ であった。Masui（2019）によると、孤独感とマキャベリアニズム、自己愛傾向、サイコパシー傾向の相関係数はそれぞれ、 $r_s = .04, -.15, .41$ であった。すなわち、孤独感が高まるほど、他者操作が増えると考えられる。

他者操作方略に影響する要因として、さらにもう一つ、共感があげられる。共感性とは、他者の心理状態を正しく理解する認知的な側面と、他者の心理状態にたいする代理的な情動反応の側面と定義されている（鈴木ら, 2000）。近年では、それをベースに他者指向性—自己指向性の弁別に焦点を当てて、多次元共感性という概念が提唱されている（鈴木・木野, 2008）。多次元共感性尺度（MES）は「他者指向的反応」「自己指向的反応」「被影響性」「視点取得」「想像性」という5つの下位尺度を設定した。DTのサイコパシー傾向とマキャベリアニズムは共感との負が相関が確認されている（黄, 2017）。また、Hepper, Hart, & Sedikides（2014）では、ナルシズムの高群は一般群と比べて共感性が低いことが示した。先行研究によると、サイコパシー特性やマキャベリアニズムは感情的共感（*affective empathy*）と負の相関をもち（Wai & Tiliopoulos, 2012）、とりわけ多次元共感性でいう共感的配慮（*empathic concern*）と負の相関をもつ（Jonason & Kroll, 2015）。また、DTが感情的共感と認知的共感（*cognitive empathy*）どちらにも負の相関をもつという報告もある（Jonason & Krause, 2013）。すなわち、共感性が高いほど、他者操作は減少すると考えられる。パーソナリティとしての操作性は、愛着スタイル、孤独感、共感の影響を受けるのだろうか？本研究では、それについても検証していきたい。

第6節 本研究の目的と意義

本研究では、他者操作方略を取りうる人がどういう人たちであるかを明らかにするために、他者操作方略尺度に影響するパーソナリティ要因を検討していく上で、パーソナリティ以外の要因を加えて、総合的に検討する。

第三章では、冷淡な性格であるサイコパシー特性が高いほど、他者操作方略が増加するかどうかを検討する。上述したように、サイコパシー特性は情動操作傾向（EM）と正の相関をもつことがわかっている。したがって、この仮説は支持されると予測できる。

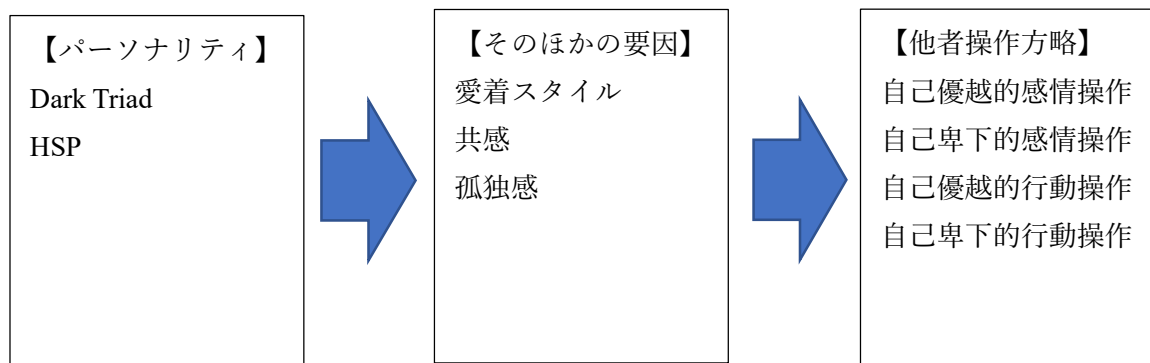
第四章では、愛着スタイルの不安が高いほど、他者操作方略が増加するかどうかを検討する。上述したように、境界性パーソナリティ障害患者は人を操作しがちであること、対人ストレスが多いほど他者操作方略は増えることがわかっている。これらの背景には、他者に対

する特性的な不安が存在すると思われる。したがって、この仮説は支持されると予測できる。

第五章では、孤独感の影響を加味する。上述したように、対人ストレスが多いほど他者操作方略は増えることがわかっている。これは、対人ストレスが多いと周囲から孤立し、孤独感が増すことが背景にあり、その孤独感を他者操作方略で解消しようとするためと思われる。上述したように、マキャベリアニズムは孤独感と正の相関をもつことがわかっている。したがって、この仮説は支持されると予測できる。そして、DTが高いほど、他者操作方略が増加するかどうかを、日本人のサンプルで検討する。DTは、社会的に嫌われやすい特性 (socially aversive traits) として知られるもので、マキャベリアニズム、自己愛傾向、サイコパシー傾向の3つを含む(下司・小塩, 2017)。この仮説は、下司・小塩(2019)によって既に確認されており、本研究ではそれを追試する形で行う。

第六章では、共感性が高いほど、他者操作方略が減少するかどうかを検討する。上述したように、サイコパシー特性やマキャベリアニズムは共感性と負の相関をもつことがわかっている。したがって、共感性は他者操作方略を抑制すると予測できる。さらに本研究では、共感性と関連の深い感覚処理感受性の影響も加味して、検討したい。

以上をまとめると、次のように図示できる。



最後に、本研究の意義について述べる。木川(2016)は、他者操作に関する研究をレビューし、「日常生活においては操作対象者との関係性を対等に捉え、平等で正直な技法で自らの要求を叶えようとすることは多々ある」といい(p.395)、「説得的コミュニケーションにおける両面呈示や相手から情報を引き出すことを目的に返報性を期待して行われる自己開示の体をとった自己呈示などの社会心理学的な理論も、他者操作方略として解釈し、その内部で分類することも可能であろう」(p.395)と述べている。

筆者は、他者操作を、ヒトの社会性を考えるうえで欠かせない要素だと考えている。他者操作方略は、良くも悪くも人間関係に必要なものである。他者操作方略を取りやすい人は、自らの欲求を満たすために、他者操作を用いて人間関係を築こうとする。そこには、自らの不安や孤独感を解消したいという欲求や動機もあるだろう。そして、なんらかの社

会適応を得ることが可能かもしれない。第七章の考察と展望では、このような他者操作方略の適応的側面についても考察する。

第二部 調査

第三章 研究1 Dark Triad と他者操作方略の関連

第1節 問題と目的

第一章・第二章で述べたように、DTは定義上、操作的な特性を含んでいる。DT尺度については、日本語版（田村・小塩・田中・増井・Jonason, 2015）の他に、中国語版においても、信頼性と妥当性が確認されている（Geng, Sun, Huang, Zhu, & Han, 2015）。

前文で述べたように、サイコパシー傾向は、高い衝動性と低い共感性と不安という特徴をもつパーソナリティである。マキャベリアニズムは非道徳的で、操作的なパーソナリティとされる。そして、ナルシシズムは優越性、自己満足、虚栄心、自己顕示的なであり、3つのパーソナリティは相関関係があるという報告もあった。

中国のDT研究では、性差において、ナルシシズムの性差を確認されてないが、男性のマキャベリアニズムとサイコパシー傾向の得点は女性より高い（ $p < 0.01$ ）という結果があった（郭, 2017）。日本にも同じ報告があった（下司・小塩, 2017）。中国人でDTが高い人は、恋愛関係において傷ついたときに復讐する傾向が高いと同時に、ナルシシズムのみは回避か、消極的な対応を取ると報告された（韓, 2016）。ナルシシズムだけが、ほかのパーソナリティと異なる結果を示している。

以上のことから、DT尺度におけるナルシシズムと他者操作方略の関連について、もう一度検討する余地がある。そこで研究1では、下司・小塩（2019）の結果を、中国で再現できるかどうかを検討し（研究3では、日本における調査で再検討する）、特にナルシシズムと他者操作方略の関連に注目する。

第2節 方法

参加者 ソーシャルメディア (sina weibo) を経由し、31,049名 (男性：3,060名、女性：27,267名、未記入：722名) の参加者が回答した。実施時期は2017年11月～12月であった。

質問紙 (1)Dark Triad Dirty Dozen (DTDD; Geng, 2015) からマキャベリアニズム4項目 (項目例「私は、あまり自分のあやまちを認めることがない」)、サイコパシー傾向4項目 (項目例「私は、どちらかというところ冷たで人の気持ちを気にしない」)、ナルシシズム4項目 (項目例「私は、他の人からの特別な好意を期待しがちだ」) を使用した。「1=全くあてはまらない」～「7=非常にあてはまる」の7件法で回答した。

(2)他者操作方略尺度 (寺島・小玉, 2007) を中国語に翻訳し、自己優越的感情操作4項目 (「感心してもらおうとしてひととは違うところをアピールする」)、自己優越的行動操作5項目 (「頼みごとをことわりなくくさせようとして相手への昔の貸しをもちだす」)、自己卑下的感情操作4項目 (「心配してもらおうとしてつらそうなふりをする」)、自己卑下的行動操作5項目 (「相手に仕事を代わってもらおうとして調子悪そうなふりをする」) を実施した。「1=全くしない」～「5=よくする」の5件法で回答した。

手続き 尺度の著者から同意を得て、他者操作方略尺度 (寺島・小玉, 2004) を中国語に翻訳した。その後、作成したアンケートを調査会社 (WJX.cn) に登録した。参加者は、任意の参加であることに同意したうえで、オンラインの回答フォーム (WJX.cn) に回答した。回答フォームはSNS上で拡散した。参加者には調査会社から報酬としてポイントが付与されるしくみであった。なお本研究は、著者の所属する部署の倫理審査を受け、承認を得た。

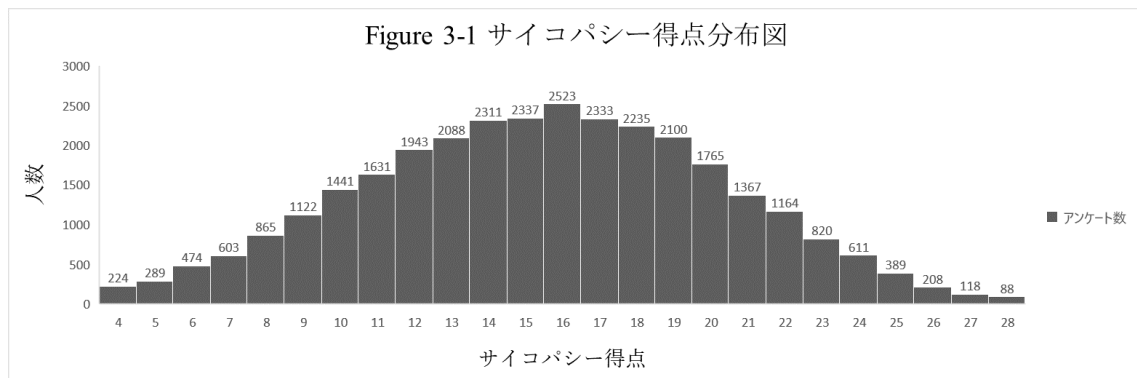
第3節 結果

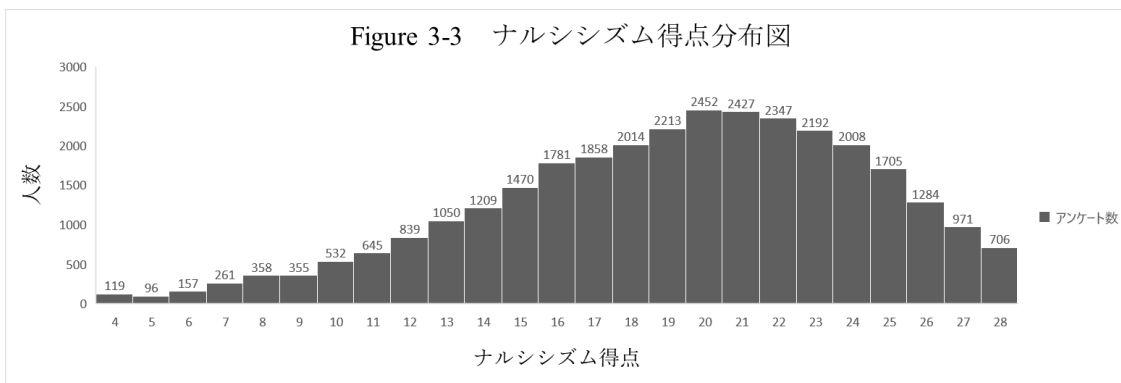
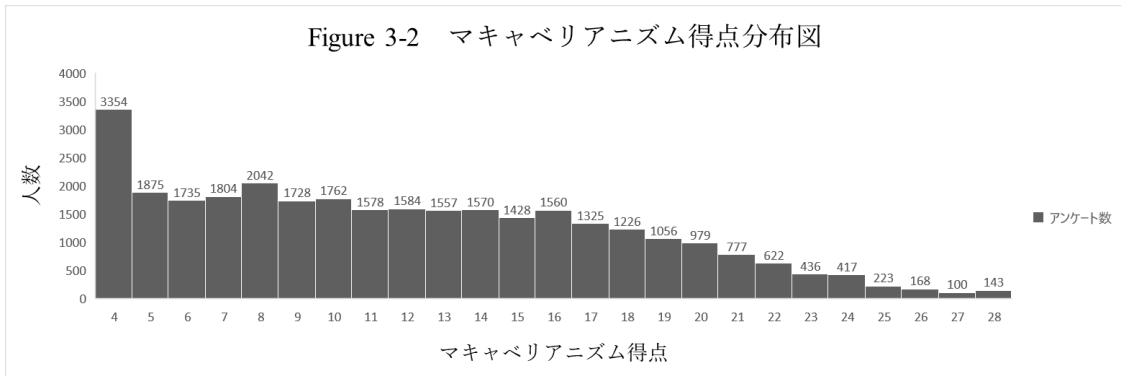
中国語版 DTDD と他者操作方略の下位尺度ごとに得点を算出した。全体、男性、女性それぞれについて、 α 係数、平均値と標準偏差を Table 3-1 に示した。

Table 3-1
DT と他者操作方略の記述統計

	全体($n=31,049$)			男性 ($n=3,060$)		女性 ($n=27,267$)	
	Average	Standard deviation	α	Average	Standard deviation	Average	Standard deviation
マキャベリアニズム	11.956	5.887	0.800	11.974	5.844	11.957	5.892
サイコパシー	15.483	4.791	0.519	15.554	4.841	15.452	4.780
ナルシズム	19.180	5.051	0.711	18.745	5.403	19.251	4.993
自己優越的行動操作	13.810	4.144	0.668	13.785	4.184	13.812	4.128
自己卑下の行動操作	12.490	5.224	0.871	12.391	5.373	12.502	5.195
自己優越的感情操作	12.805	4.579	0.816	13.084	4.667	12.790	4.560
自己卑下の感情操作	13.005	4.413	0.810	12.369	4.636	13.096	4.369

また、参加者のサイコパシー傾向、マキャベリアニズム、ナルシズム得点に関するヒストグラムを、Figure 3-1、3-2、3-3 に示した。





そして、DTDD の得点と他者操作方略の下位尺度の Spearman 相関関係を Table 3-2 に示した。本研究では、分布の歪みを考慮し、外れ値の影響を少なくするため、すべての研究で Spearman の順位相関係数を用いた。

Table 3-2

DTDD と他者操作方略尺度の相関関係

	自己優越的行動操作	自己卑下的行動操作	自己優越的感情操作	自己卑下的感情操作
マキャベリアニズム	.486**	.442**	.432**	.319**
サイコパシー	.392**	.347**	.384**	.298**
ナルシシズム	.350**	.296**	.450**	.358**

** $p < .01$

そして、下司・小塩（2019）にならって、他者操作方略の各下位尺度を目的変数とし、DT尺度を説明変数とする階層的重回帰分析を実施した。その際、相乗効果を見るために、Step 1でナルシズム、サイコパシー傾向、マキャベリアニズムを投入し、Step 2でナルシズム×サイコパシー傾向、マキャベリアニズム×ナルシズム、マキャベリアニズム×サイコパシー傾向の交互作用項を投入した。その結果を、Table 3-3, 3-4, 3-5, 3-6に示す。

Table 3-3 自己優越的行動操作とDark Triadの階層的重回帰分析(N=31,049)

		Step 1			Step 2				
		β		95% CI	β		95% CI		
Step 1	ナルシズム	.181	***	.140	.158	.184	***	.142	.160
	サイコパシー	.046	***	.028	.052	.048	***	.030	.053
	マキャベリアニズム	.388	***	.265	.282	.383	***	.260	.279
Step 2	PmoxNmo					-.001		-.002	.002
	MmoxNmo					.023	**	.001	.005
	MmoxPmo					.004		-.001	.002
	R^2	.270	***			.271	***		
	ΔR^2					.001	***		

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

Table 3-4 自己卑下の行動操作とDark Triadの階層的重回帰分析(N=31,049)

		Step 1			Step 2				
		β		95% CI	β		95% CI		
Step 1	ナルシズム	.141	***	.134	.158	.143	***	.136	.160
	サイコパシー	.037	***	.025	.055	.038	***	.026	.056
	マキャベリアニズム	.365	***	.312	.335	.360	***	.307	.331
Step 2	PmoxNmo					-.014		-.006	.000
	MmoxNmo					.040	***	.004	.009
	MmoxPmo					-.003		-.003	.002
	R^2	.216	***			.217	***		
	ΔR^2					.001	***		

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

Table 3-5 自己優越的感情操作とDark Triadの階層的重回帰分析(N=31,049)

		Step 1			Step 2				
		β		95% CI	β		95% CI		
Step 1	ナルシズム	.328	***	.287	.307	.332	***	.291	.311
	サイコパシー	.027	***	.013	.039	.028	***	.014	.039
	マキャベリアニズム	.291	***	.217	.236	.291	***	.216	.236
Step 2	PmoxNmo					.007		-.001	.004
	MmoxNmo					.037	***	.003	.007
	MmoxPmo					-.026	***	-.006	-.002
	R^2	.284	***			.285	***		
	ΔR^2					.001	***		

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

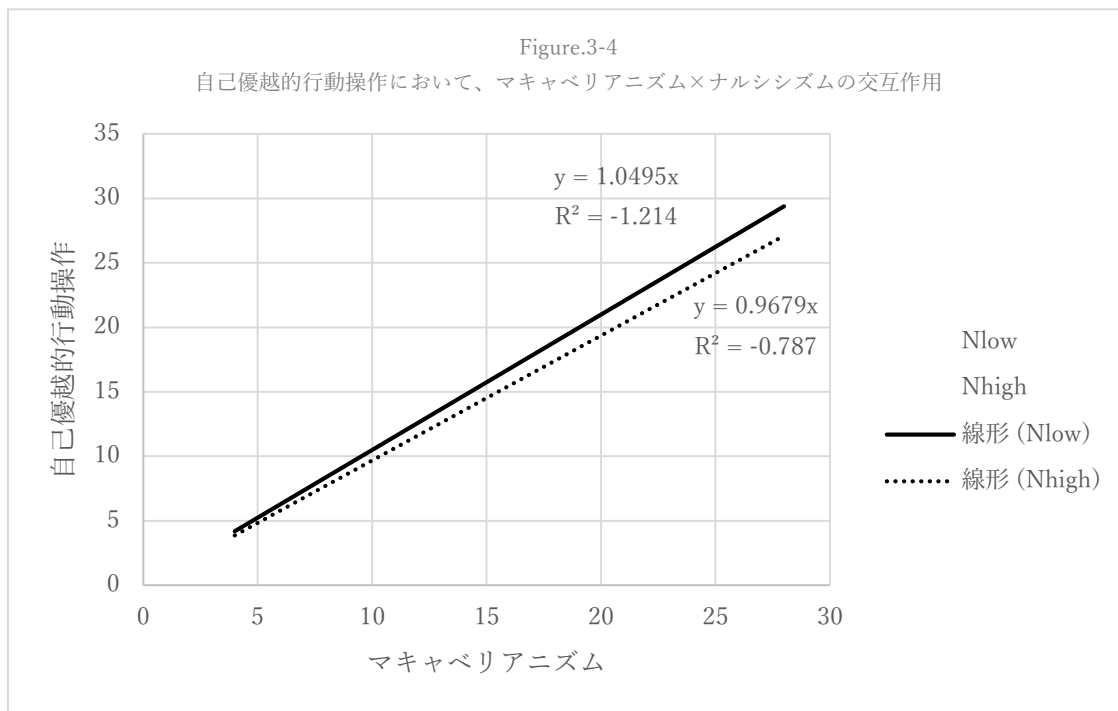
Table 3-6 自己卑下的感情操作とDark Triadの階層的重回帰分析(N=31,049)

		Step 1				Step 2			
		β		95% CI		β		95% CI	
Step 1	ナルシシズム	.268	***	.224	.245	.270	***	.226	.247
	サイコパシー	.032	***	.016	.043	.030	***	.014	.041
	マキャベリアニズム	.198	***	.139	.159	.202	***	.141	.162
Step 2	PmoxNmo					-.002		-.003	.002
	MmoxNmo					.039	***	.003	.008
	MmoxPmo					-.039	***	-.008	-.004
	R^2	.169	***			.169	***		
	ΔR^2					.001	***		

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

その結果、DTのナルシシズム、サイコパシー傾向、マキャベリアニズムは、他者操作方略の下位尺度のすべてに影響していた。

交互作用項に関しては、影響要因の得点を平均値で高群、低群に分けて、結果を統計した。自己優越的行動操作のマキャベリアニズム×ナルシシズム、自己卑下的行動操作のマキャベリアニズム×ナルシシズム、自己優越的感情操作のマキャベリアニズム×ナルシシズム、マキャベリアニズム×サイコパシー傾向、自己卑下的感情操作のマキャベリアニズム×ナルシシズム、マキャベリアニズム×サイコパシー傾向の影響が有意であった。しかし、標準化偏回帰係数はかなり小さく、実質的な影響はないと解釈した。2つの群の線形近似を出力し、以下であった (Figure 3-4, 3-5, 3-6, 3-7, 3-8, 3-9)。



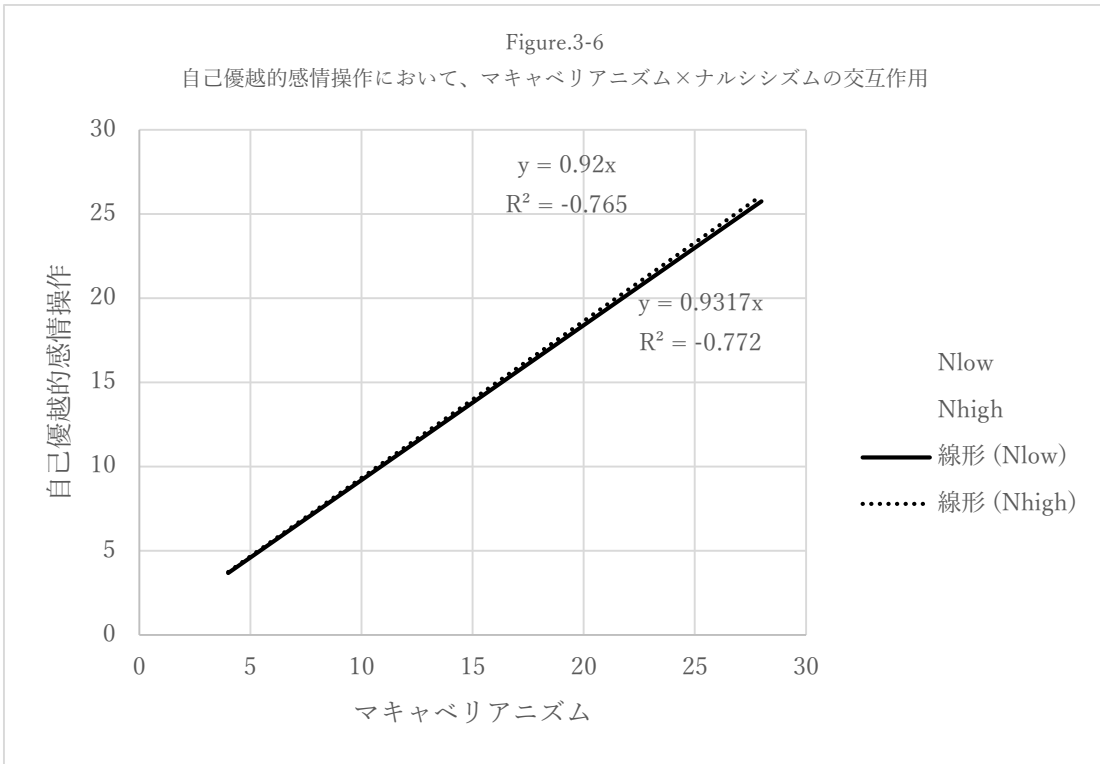
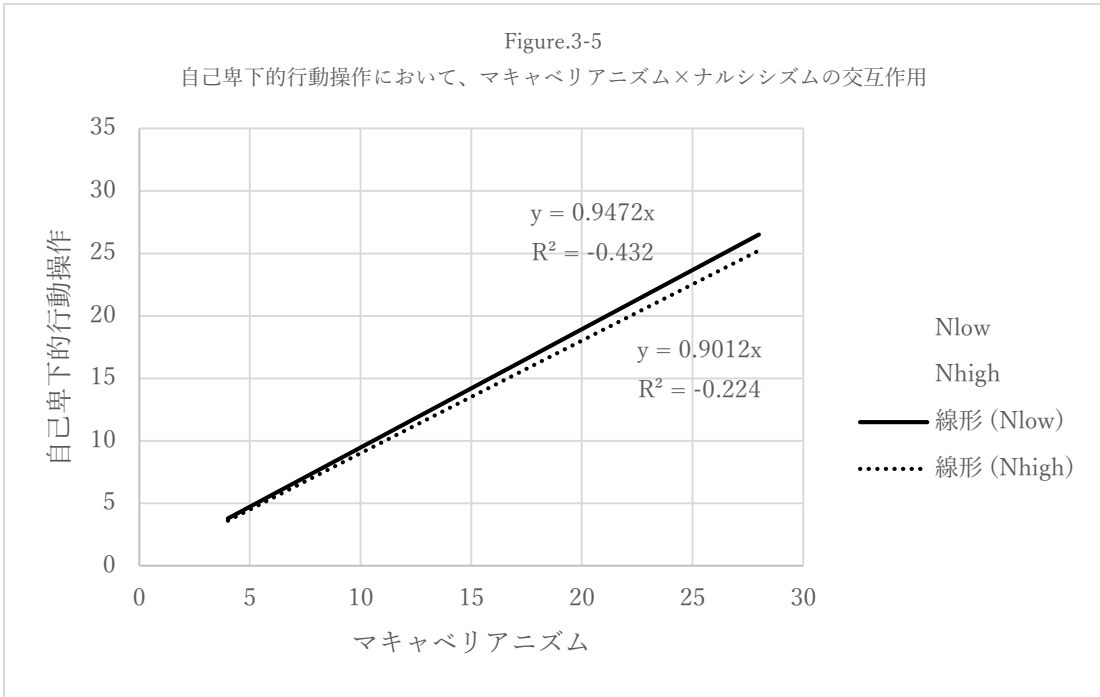


Figure.3-7

自己優越的感情操作において、マキャベリアニズム×サイコパシー傾向の交互作用

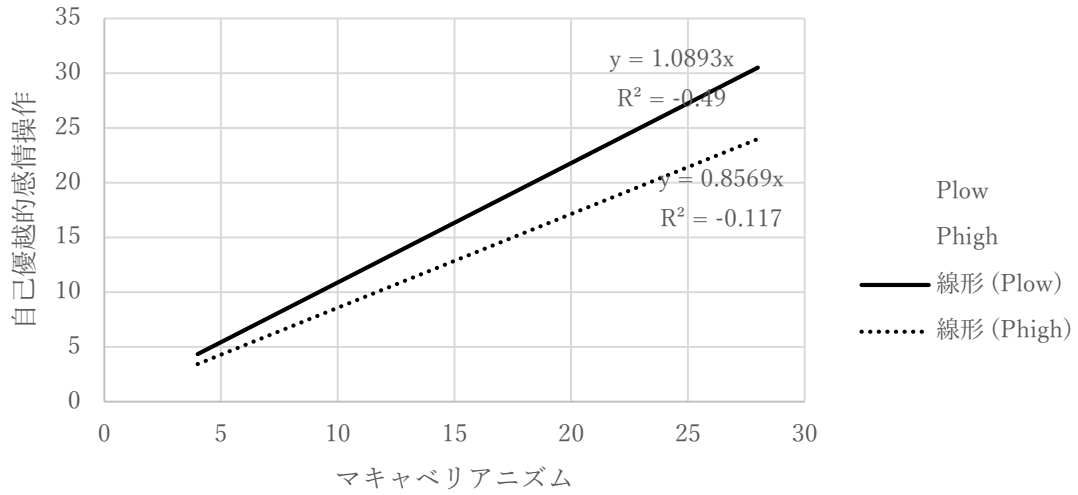


Figure.3-8

自己卑下的感情操作において、マキャベリアニズム×ナルシシズムの交互作用

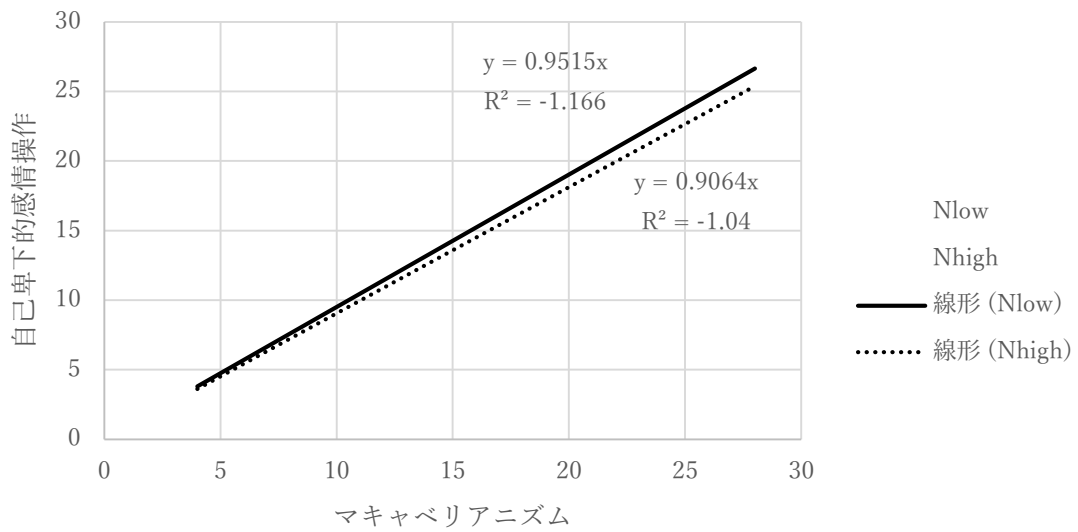
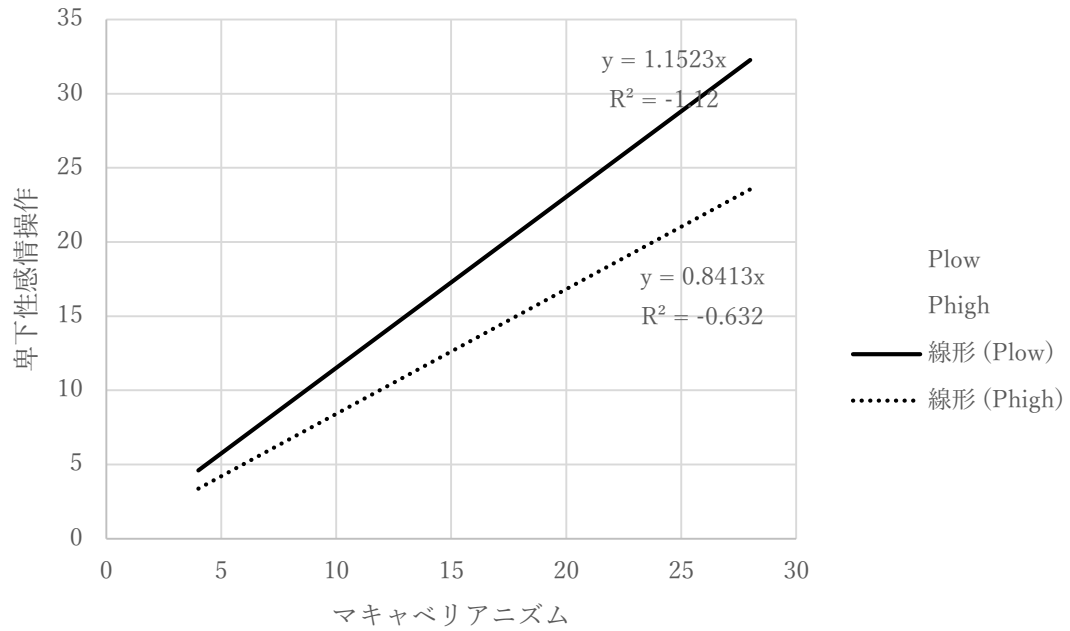


Figure.3-9

自己卑下的感情操作において、マキャベリアニズム×サイコパシー傾向の交互作用



第4節 考察

本研究は、中国で調査した 30,000 人以上のデータをもとに、DT と他者操作方略の関連を検討した。その結果、マキャベリアニズム、サイコパシー傾向については、下司・小塩 (2019) と同様の結果を得られた。そして、下司・小塩 (2019) と異なるが、ナルシズムについても相関を確認することができた。

ここでは、特に、ナルシズムと他者操作方略の関連について見てみよう。

中国人のサンプルにおいて、ナルシズムと他者操作方略の関連が見られたことについては、次のように考察できる。まず、ナルシズムの文化比較を行った研究では、個人主義が強い国 (individualistic country) ほど、ナルシズムが高いことが報告されている

(Foster, Campbell, & Twenge, 2003)。また、中国・日本・アメリカを比較した研究では、ナルシズムとタイプ A 性格 (hard-driving and competitive, speed and impatience) の相関係数は、中国 (それぞれ $r = .421, 470$) が日本 (それぞれ $r = .378, 456$) よりも強かった

(Fukunishi et al., 1996)。そして、夫婦のタイプ A 性格を半構造化面接で検討した研究では、両者がタイプ A である夫婦は (それ以外の組み合わせに比べて)、敵対・優位 (hostile dominant) な行動が高かった (Sanders, Smith, & Alexander, 1991)。これらのことから、中国においては (日本に比べて) ナルシズムとタイプ A 性格との関連が強いため、他者に対して優位な行動が現れやすいと考えられる。

一方、日本のサンプルにおいても、ナルシズムと他者操作方略の関連が見られる可能性はある (この点については、研究 3 で再検討する)。例えば、小西・田中 (2011) は、自己愛人格傾向尺度 (Narcissistic Personality Inventory-35; 小西・大川・橋本, 2006) と他者操作方略のすべての下位因子で、正の相関を報告している。小西・田中 (2011) によると、自己愛人格傾向が高い者は、他者からの賞賛欲求が強いため、自己優越的な操作を行いやすいと考察している。

確かに、研究 1 においても、ナルシズムは自己優越的感情操作 (「感心してもらおうとしてひととは違うところをアピールする」) との相関が最も高かった (Table 3-2)。そして、下司・小塩 (2019) においても、ナルシズムは自己優越的感情操作と唯一、有意な相関をもっていた。

さらに付け加えるならば、小西・田中 (2011) によると、自己優越的感情操作は (友人による評価の) 外向性や調和性と負の相関をもっていた。このことは、自己優越的感情操作は、しばしば周囲に違和感を生じさせ、対人場面で調和性の欠如をもたらすことを意味する。なぜ、そこまでして他者操作をするのだろうか。

小西・田中 (2011) は、自己愛人格傾向が高い人は、「高い自己肯定感と低い自尊心の不安定な共存から、自尊心が低下した場合の回復手段として、他者からのケアを求める自己

卑下行動操作または自己卑下感情操作を行う可能性」もあると解釈している。そこには、おそらく、他者への不信感があるのではないだろうか。

最近では、ナルシシズムの特徴として、他者への不信感（*distrustful self-reliance*：項目例 *I'm slow to trust people*）や反応的怒り（*reactive anger* 項目例 *I have at times gone into a rage when not treated rightly*）が注目されている（Truhan, Wilson, Möttus, & Papageorgiou, 2020）。

サイコパシー傾向についても、同様であるかもしれない。研究1の結果、サイコパシー傾向は、自己優越的行動操作（「頼みごとをことわりなくくさせようとして相手への昔の貸しをもちだす」）との相関が最も高かった（Table 3-2）。

おそらく、サイコパシー傾向やナルシシズムの高い人は、他者への信頼感が低いゆえに、操作すること以外に他者とつながる（他者からケアを引き出す）手段をもっていない可能性がある。研究2では、このようなDTのもつ他者不信について検討する。

第四章 研究 2 愛着、多次元共感性、Dark Triad と他者操作方略の関連

第 1 節 問題と目的

第三章で述べたように、Dark Triad (DT) は、マキャベリアニズム、ナルシシズム、サイコパシー傾向という 3 つの反社会的パーソナリティを含む概念である (Paulhus & Williams, 2002)。そして研究 1 において、DT は他者操作方略のすべての下位尺度と正の相関があることを確認した。

第四章では、サイコパシー傾向の高い者が他者を操作する理由 (メカニズム) について、考えてみたい。ここでは、2 つの仮説を取り上げる。

一つは、共感性の低さである。サイコパシー傾向は定義上、冷淡で、共感性が低いという特徴を含んでいる (下司・小塩, 2019)。そして実際、サイコパシー傾向は、認知的共感にも情動的共感にも有意な負の相関を示し、その数値は情動的共感のほうが大きいことが報告されている (Jonason & Krause, 2013)。

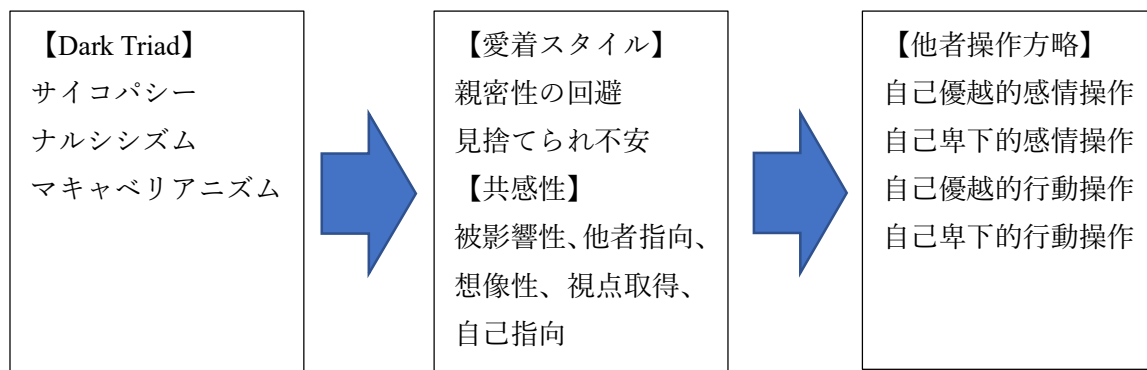
もう一つは、愛着が不安定なことである。前文で紹介した文献では、サイコパシー傾向が高いほど、無秩序型の愛着経験を経験していた。また、木川 (2016) によると、卑下的な操作方略は、特定の他者、特に親密性が高い他者に向けられるという。

マキャベリアニズムに関しては、マキャベリアニズムが高いほど、パートナーとの関係に対する満足度、信頼度、関係維持の意欲が低いという報告がある (Brewer & Abell, 2017)。DT の 3 つのパーソナリティは、お互いに正の相関があるため (田村・小塩・田中・増井・Jonason, 2015)、マキャベリアニズムもサイコパシー傾向と同様に、愛着が不安定になりやすく、親密関係を築くことが難しい可能性がある。

また、ナルシシズムに関しては、第三章で述べたように、小西・田中 (2011) が、自己愛人格傾向が高い人は、「高い自己肯定感と低い自尊心の不安定な共存から、自尊心が低下した場合の回復手段として、他者からのケアを求める自己卑下行動操作または自己卑下感情操作を行う可能性」を示唆している。ナルシシズムも、愛着の不安定さゆえに他者操作を行っている可能性がある。

そこで本研究では、DT の 3 つのパーソナリティが他者を操作するメカニズムとして、共感性と愛着スタイルが媒介していると仮定し、そのモデルを検討する。すなわち、マキ

マキャベリアニズム、サイコパシー傾向、ナルシシズムは、共感性と愛着スタイルに影響し、それらが他者操作方略につながると仮定する（下図、始発モデル）



第2節 方法

参加者 中国語を母語とする20～60代の319名（18～25歳：21.63%、26～30歳：30.41%、31～40歳：41.07%、41～50歳：5.33%、51～60歳：1.25%、60歳以上：0.31%）が参加した（男性137人、女性182人）。実施時期は2019年6月であった。

質問紙 (1)Dark Triad Dirty Dozen (DTDD; Geng, 2015)

(2)他者操作方略尺度（寺島・小玉, 2007）を中国語に翻訳し、使用した。

(3)多次元共感性尺度（Multidimensional Empathy Scale, MES; 鈴木・木野, 2008）を中国語に翻訳し、被影響性5項目（項目例「自分の感情はまわりの人の影響を受けやすい」）、他者指向的反応5項目（項目例「悲しんでいる人を見ると、なぐさめてあげたくなる。」）、想像性5項目（項目例「空想することが好きだ」）、視点取得5項目（項目例「常に人の立場に立って、相手を理解するようにしている」）、自己指向的反応4項目（項目例「他人の成功を素直に喜べないことがある」）を使用した。「1=全く当てはまらない」～「5=すごく当てはまる」の5件法で回答を求めた。

(4)Experiences in Close Relationship Inventory (ECR; 李・加藤, 2006) から親密性回避18項目（項目例「私は恋人に何でも話す」）、見捨てられ不安18項目（項目例「私は見捨てられるのではないかと心配だ」）を使用した。「1=全く当てはまらない」～「5=非常によく当てはまる」の7件法で回答を求めた。

手続き アンケート調査会社（WJX.cn）にアンケート登録し、調査を依頼した。参加者は、任意の参加であることに同意したうえで、オンラインの回答フォーム（WJX.cn）に回答した。指定の人数（300人）に達するまで先着順で回答し、参加者には調査会社から報酬としてポイントが付与されるしくみであった。なお本研究は、著者の所属する部署の倫理審査を受け、承認を得た。

第3節 結果

各尺度の α 係数を確認したところ、サイコパシー傾向、ナルシシズム、MESと他者操作方略尺度のすべての下位因子で内的整合性が低かった($\alpha < .8$)。しかし研究2は、研究1の結果と比較する意味もあるため、このまま分析を進めることにした。

各尺度間の Spearman 順位相関係数を算出した (Table 4-1、拡大した図を別紙で添付)。マキャベリアニズムは親密性回避 ($r = .305, p < .001$) と見捨てられ不安 ($r = .248, p < .001$) と正の相関があり、MESの被影響性 ($r = .187, p < .01$)、他者指向的反応 ($r = -.213, p < .001$)、自己指向的反応 ($r = .217, p < .001$) と有意な相関があった。

サイコパシー傾向は親密性回避 ($r = .364, p < .001$) と見捨てられ不安 ($r = .171, p < .01$) と正の相関があり、MESの他者指向的反応 ($r = -.364, p < .001$)、視点取得 ($r = -.22, p < .001$) と自己指向的反応 ($r = .277, p < .001$) と有意な相関があった。

ナルシシズムは見捨てられ不安 ($r = .239, p < .001$) と正の相関があり、MESの被影響性 ($r = .299, p < .001$)、他者指向的反応 ($r = .159, p < .001$)、想像性 ($r = .371, p < .001$) と自己指向的反応 ($r = .31, p < .001$) と有意な相関があった。DTはECR、MESと他者操作方略のすべての下位尺度と有意な正相関であった。

次に、サイコパシー傾向、ナルシシズム、マキャベリアニズム、DTのそれぞれを始発とする始発モデルをパス解析した。

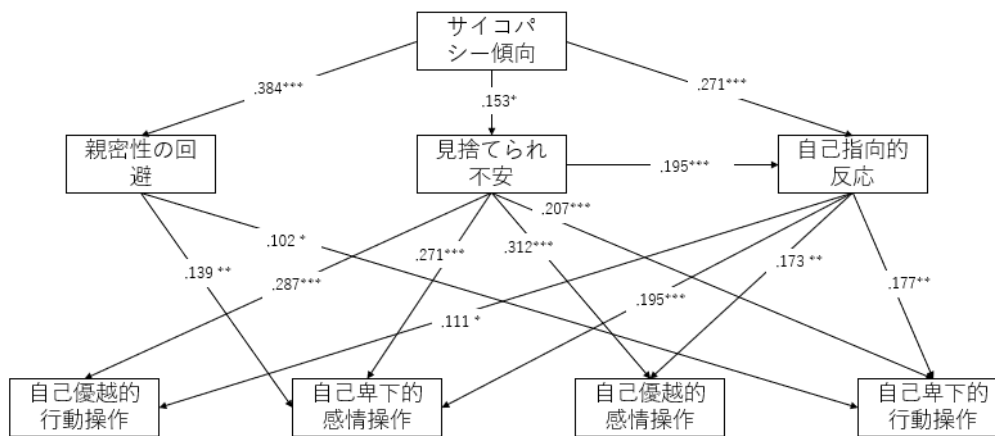
最初に、サイコパシー傾向について見てみよう。修正指数に従ってパスを削除し、適合度が最もよくなるモデルを見出した。その結果を Figure 4-1 に示す。適合度は $RMR = 1.130$, $GFI = .992$, $AGFI = .961$, $CFI = .995$, $RMSEA = .036$ であった。

サイコパシー傾向が高いほど、親密性の回避が高くなり ($\beta = .384$)、自己卑下的行動操作 ($\beta = .102$) が高かった。サイコパシー傾向が高いほど、自己指向的反応が高くなり ($\beta = 0.271$)、自己優越的行動操作 ($\beta = .111$)、自己優越的感情操作 ($\beta = .173$)、自己卑下的行動操作 ($\beta = .177$)、自己卑下的感情操作 ($\beta = .195$) が高くなっていた。また、サイコパシー傾向が高いほど、見捨てられ不安が高くなり ($\beta = .153$)、自己優越的行動操作 ($\beta = .287$)、自己優越的感情操作 ($\beta = .312$)、自己卑下的行動操作 ($\beta = .207$)、自己卑下的感情操作 ($\beta = .271$) が高くなっていた。ちなみに、サイコパシー傾向から他者操作方略の直接パスも消えた。

Table 4-1 各尺度のSpearman順位相関係数 ($n=319$)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1. マキババリスム	0.604	9.01	441											
2. マイコンジ一傾向	0.581	9.09	375	0.470										
3. アルシシズム	0.785	18.77	473	0.941	0.083									
4. 親戚の回避	0.779	19.89	505	0.915	0.167	0.077								
5. 親戚の回避	0.778	19.85	505	0.914	0.167	0.074	0.077							
6. 親戚で不安心	0.882	21.79	17.05	0.948	0.171	0.239	0.286	0.282						
7. 排他性	0.654	15.95	2.80	0.187	0.006	0.239	0.286	0.282	0.103	**				
8. 排他性傾向	0.66	19.45	2.78	-0.213	-0.364	0.159	0.286	0.282	0.103	**	0.181	**		
9. 排他性傾向	0.791	19.38	550	0.960	-0.371	0.171	0.286	0.282	0.103	**	0.181	**	0.019	
10. 排他性傾向	0.791	19.38	550	0.960	-0.371	0.171	0.286	0.282	0.103	**	0.181	**	0.019	
11. 自己指図的反応	0.529	15.15	2.66	0.217	0.277	0.319	0.407	0.407	0.195	***	0.274	***	0.205	***
12. 自己指図的行動操作	0.61	15.15	3.76	0.370	0.195	0.263	0.382	0.382	0.089	***	0.296	***	0.188	**
13. 自己指図的行動操作	0.795	13.55	4.54	0.383	0.253	0.242	0.388	0.388	0.219	***	0.237	***	0.182	***
14. 自己指図的行動操作	0.775	13.55	4.54	0.383	0.253	0.242	0.388	0.388	0.219	***	0.237	***	0.182	***
15. 自己指図的行動操作	0.735	10.63	3.71	0.327	0.252	0.251	0.388	0.388	0.184	***	0.184	***	0.203	***

Note: * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

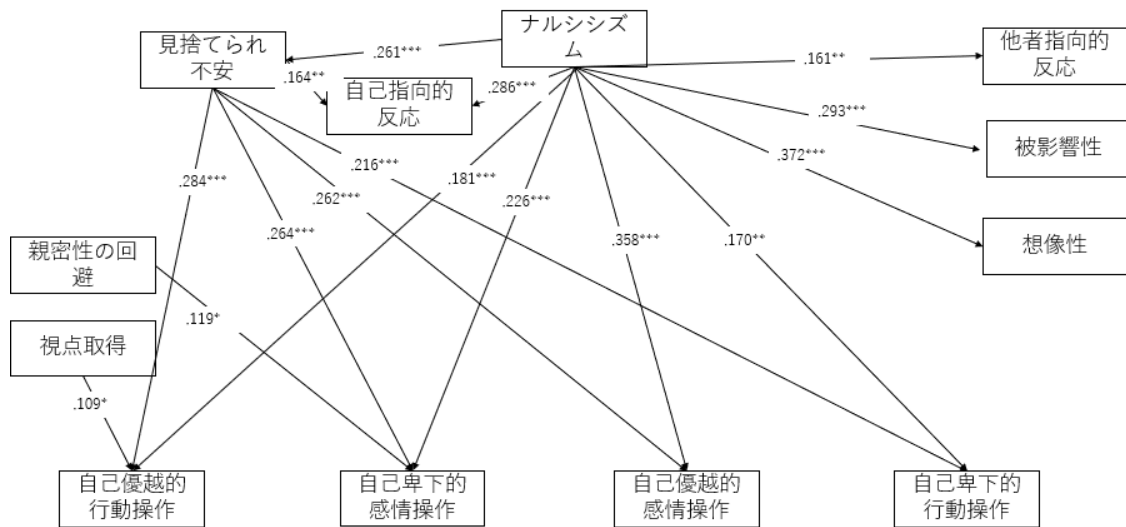


RMR = 1.130, GFI = .992, AGFI = .961, CFI = .995, RMSEA = .036, AIC = 67.832, CAIC = 206.023
 *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

Figure 4-1 サイコパシー傾向と他者操作方略のモデル

次に、ナルシシズムについての結果を Figure 4-2 に示す。適合度は RMR = 3.253、GFI = .890、AGFI = .800、CFI = .798、RMSEA = .112 であった。

ナルシシズムは、すべての他者操作に対して、直接効果・間接効果ともに見られた。間接効果については、ナルシシズムが高いほど、見捨てられ不安 ($\beta = .261$) が高くなり、自己優越的行動操作 ($\beta = .284$)、自己優越的関係操作 ($\beta = .262$)、自己卑下的行動操作 ($\beta = .216$)、自己卑下的関係操作 ($\beta = .264$) が高くなっていった。また、ナルシシズムと他者操作の直接的なパスがあり、自己優越的行動操作 ($\beta = .181$)、自己優越的関係操作 ($\beta = .358$)、自己卑下的行動操作 ($\beta = .170$)、自己卑下的関係操作 ($\beta = .226$) であった。

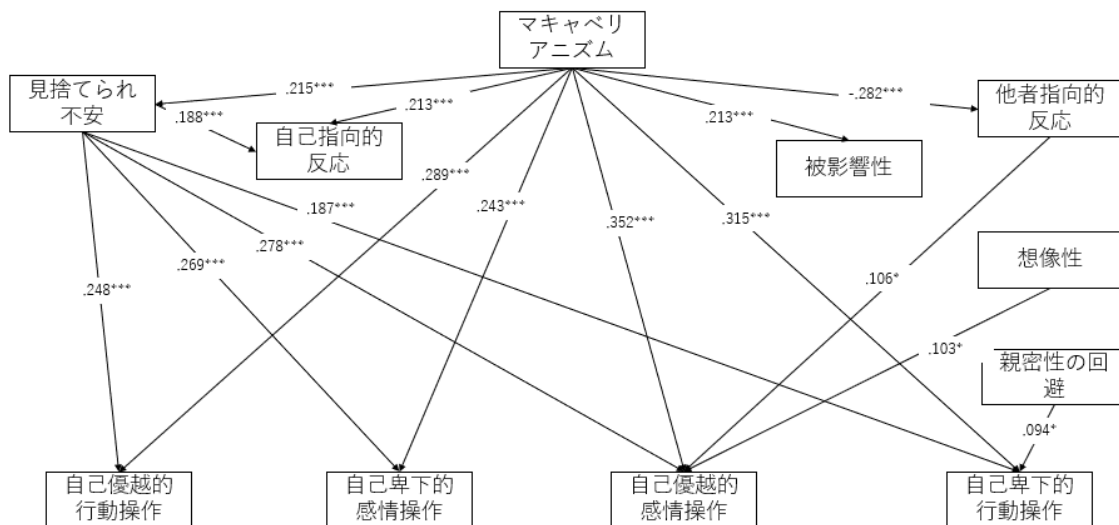


RMR = 3.253, GFI = .890, AGFI = .800, CFI = .798, RMSEA = .112, AIC = 284.798, CAIC = 451.580
 *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

Figure 4-2 ナルシシズムと他者操作方略のモデル

そして、マキャベリアニズムは、すべての他者操作に対して、直接効果・間接効果ともに見られた。適合度は RMR = 4.453、GFI = .905、AGFI = .805、CFI = .800、RMSEA = .124 であった。結果を Figure 4-3 に示す。

マキャベリアニズムが高いほど、見捨てられ不安が高くなり ($\beta = .215$)、自己優越的行動操作 ($\beta = .248$)、自己優越的感情操作 ($\beta = .278$)、自己卑下の行動操作 ($\beta = .187$)、自己卑下の感情操作 ($\beta = .269$) が高くなっていった。マキャベリアニズムが高いほど、他者指向的反応が低くなり ($\beta = -.282$)、自己優越的感情操作 ($\beta = .106$) が高まる。他には、マキャベリアニズムから他者操作方略の直接パスが見られた、自己優越的行動操作 ($\beta = .289$)、自己優越的感情操作 ($\beta = .352$)、自己卑下の行動操作 ($\beta = .315$)、自己卑下の感情操作 ($\beta = .243$) であった。

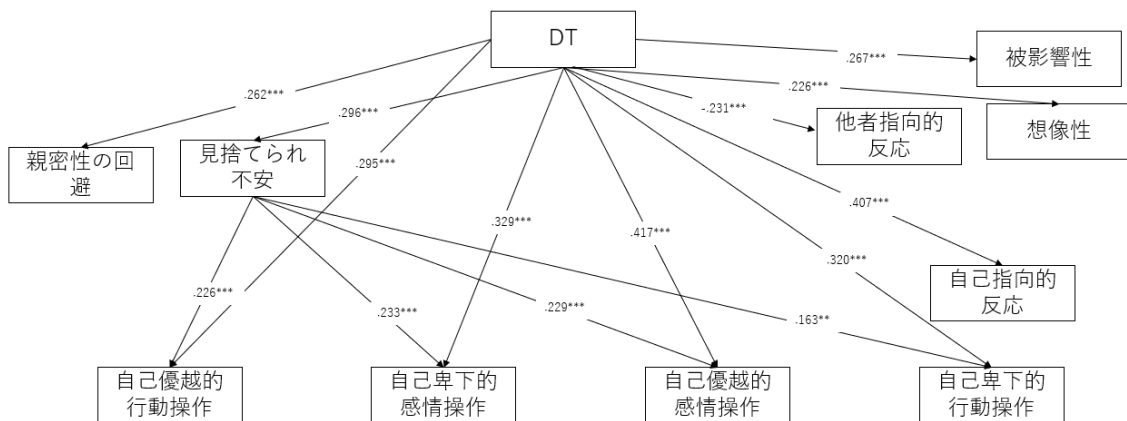


RMR = 4.453, GFI = .905, AGFI = .805, CFI = .800, RMSEA = .124, AIC = 256.527, CAIC = 418.544
 *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

Figure 4-3 マキャベリアニズムと他者操作方略のモデル

DT 全体は、すべての他者操作に対して、直接効果・間接効果ともに見られた。適合度は RMR = 2.438、GFI = .916、AGFI = .837、CFI = .853、RMSEA = .106 であった。結果を Figure 4-4 に示す。

DT が高いほど、見捨てられ不安が高くなり ($\beta = .262$)、自己優越的行動操作 ($\beta = .226$)、自己優越的的感情操作 ($\beta = .229$)、自己卑下的行動操作 ($\beta = .163$)、自己卑下的感情操作 ($\beta = .233$) が高くなっていた。DT と他者操作方略の直接パスが見られた、自己優越的行動操作 ($\beta = .295$)、自己優越的的感情操作 ($\beta = .417$)、自己卑下的行動操作 ($\beta = .320$)、自己卑下的感情操作 ($\beta = .329$) であった。

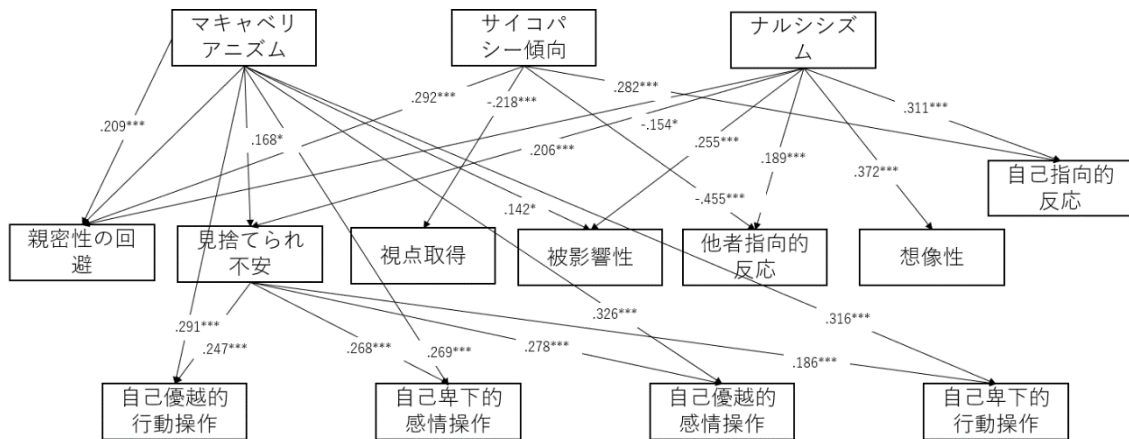


RMR = 2.438 ,GFI = .916,AGFI= .837,CFI = .853, RMSEA = .106,AIC = 219.619,CAIC = 372.105
 *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

Figure 4-4 DTと他者操作方略のモデル

最後に、マキャベリアニズム、サイコパシー傾向、ナルシシズムを同時投入した。マキャベリアニズムはすべての他者操作に対して、直接効果・間接効果ともに見られた。ナルシシズムは間接効果のみがあった。適合度は RMR=3.485、GFI=.897、AGFI=.798、CFI=.527、RMSEA=.115であった。結果を Figure 4-5 に示す。

マキャベリアニズムが高いほど、見捨てられ不安が高くなり ($\beta=.168$)、自己優越的行動操作 ($\beta=.247$)、自己優越的感情操作 ($\beta=.278$)、自己卑下的行動操作 ($\beta=.186$)、自己卑下的感情操作 ($\beta=.286$) が高くなっていた。マキャベリアニズムと他者操作方略の直接パスが見られた、自己優越的行動操作 ($\beta=.291$)、自己優越的感情操作 ($\beta=.326$)、自己卑下的行動操作 ($\beta=.316$)、自己卑下的感情操作 ($\beta=.269$) であった。ナルシシズムが高いほど、見捨てられ不安が高くなり ($\beta=.206$)、自己優越的行動操作 ($\beta=.247$)、自己優越的感情操作 ($\beta=.278$)、自己卑下的行動操作 ($\beta=.186$)、自己卑下的感情操作 ($\beta=.286$) が高くなっていた。



RMR = 3.485, GFI = .897, AGFI = .798, CFI = .527, RMSEA = .115, AIC = 412.195, CAIC = 612.333
 *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

Figure 4-5 DTそれぞれと他者操作方略のモデル

第4節 考察

研究2の目的は、マキャベリアニズム、サイコパシー傾向、ナルシシズムが、なぜ他者操作するのかというメカニズムを、共感性の低さと愛着スタイルの不安定さという要因から検討することであった。DT全体の関連も検討し、3つのパーソナリティを同時投入もした。

その結果、単独投入では、サイコパシー傾向は、愛着スタイルの見捨てられ不安と、共感の自己指向的反応によって、他者操作が促進されていること、ナルシシズムも見捨てられ不安によって他者操作が促進されていることが明らかになった。同時投入では、ナルシシズムの見捨てられ不安によって他者操作への促進効果が確認できた。

もう少し細かく見ていこう。下司・小塩（2019）と同様、サイコパシー傾向はすべての他者操作方略と有意な正の相関があった（Table 4-1）。そして、親密性回避が高くなることで、自己卑下的な操作（「心配してもらおうとしてつらそうなふりをする」「相手に仕事を代わってもらおうとして調子悪そうなふりをする」）が促進されていた。これは、卑下的操作が、他者との関わりが少ない状況で行われやすいことと関連するかもしれない。

また、自己指向的反応（「他人の失敗する姿を見ると、自分はそうなりたくないと思う」「他人の成功を見聞きしているうちに、焦りを感じる人が多い」）が高くなることで、すべての他者操作方略が高くなっていった。自己指向的反応は、共感性のネガティブな側面だと考えられ、実質的には、自己中心的な状態と想定できる（浜崎, 1985; 永井, 2019）。サイコパシー傾向と正の相関が見られるのも（Table 4-1）、必然といえる。

パス解析では、単独投入で本研究はサイコパシー傾向が高い者は、見捨てられ不安が高まると、他者操作を促進する結果を得られた。永井（2019）によると、見捨てられ不安は、MESの個人的苦痛を媒介して、利他的行為を低下させる。個人的苦痛も共感性のネガティブな側面であると考えられる。本研究の結果は、不安定な愛着がそれを媒介して、他者操作につながることを裏付けている。

そして、単独、同時投入共に見捨てられ不安の効果があつたナルシシズムについては、自己優越的感情操作（「感心してもらおうとしてひととは違うところをアピールする」）と自己卑下的感情操作（「心配してもらおうとしてつらそうなふりをする」）に対して、直接効果が見られることが明らかになった。この結果は、研究1における、ナルシシズムは自己優越的感情操作との相関が最も高かったこと（Table 3-2）、下司・小塩（2019）による、ナルシシズムは自己優越的感情操作と唯一、有意な相関をもっていたことと、一致している。日本人のサンプルにおいても、このような相関が見られるかどうかについては、研究3で再検討する。

パス解析では、ナルシシズムが高いほど、見捨てられ不安が高くなることで、すべての他者操作が促進されていた。このことは、ナルシシズムも、愛着の不安定さゆえに他者操作を行っている可能性を示唆している。小西・田中（2011）が、自己愛人格傾向が高い人は、「高い自己肯定感と低い自尊心の不安定な共存から、自尊心が低下した場合の回復手

段として、他者からのケアを求める自己卑下行動操作または自己卑下感情操作を行う可能性」を指摘したことを裏付けている。マキャベリアニズムにも同じような関連があった。

また、サイコパシー傾向に関しては、サイコパシーの拒絶型愛着（dismissive attachment すなわち親密性回避が高く、見捨てられ不安は低いタイプ）は略奪的暴力の起因になるという指摘や（Meloy, 2002）、愛着不安が恋愛関係における間接的暴力加害を増大させるという報告もある（金政・荒井, 2018）。DTの愛着問題は、暴力行為や反社会的行動の原因の1つであると考えられる。

研究2では、中国人のサンプルにおいて、DTの他者操作方略に至るメカニズムとして、愛着の不安定さと共感性の低さを検討した。また、ナルシシズムと他者操作の相関も、研究1に続いて、確認できた。研究3では、これを日本人のサンプルにおいて再検討する。そして、DTの他者操作方略のメカニズムについて、さらに検討する。

第五章 研究3 Dark Triad、孤独感と他者操作方略の関連

第1節 問題と目的

第五章では、サイコパシー傾向の高い者が他者を操作する理由（メカニズム）について、さらに考えてみたい。ここでは、孤独感についての仮説を取り上げる。

研究2の結果、サイコパシー傾向は親密性回避 ($r = .364$) と見捨てられ不安 ($r = .171$) と正の相関をもっていた (Table 4-1)。しかし、サイコパシー傾向の高い人は、利己的と言われながらも、社会から孤立することなく暮らしている。それはサイコパシー傾向だけではなく、DT全体に見られる現象である。

その理由の一つとして、彼らが対人関係を積極的に利用していることがあげられる。例えば、ナルシシズムの高い者は、自らの相対的な地位を高めるために、社会経済的地位の低い友人をもつ傾向があるという (田崎・中島・浦, 2019)。また、さまざまな場面を想像してどれくらい幸せかを尋ねる調査では、マキャベリアニズムとナルシシズムが高いほど、新しい友人を作ることを幸せだと回答した (Jonason & Tome, 2019)。これらは、DTの高い人たちが、社会適応的な人間関係を作ろうとしている側面といえる。そして、前文で述べたように、サイコパシー傾向者は孤独感を感じ、親和欲求があると報告されている。

サイコパシー傾向の高い者は、孤独感が喚起したときに、何らかの対処行動を取ると思われる。それが他者操作方略かもしれない。例えば、自己卑下的操作（「心配してもらおうとしてつらそうなふりをする」「相手に仕事を代わってもらおうとして調子悪そうなふりをする」）は、他者から実際のケアを引き出すことに役立つだろう。

すなわち、サイコパシー傾向、ナルシシズム、マキャベリアニズムの高い人は、孤独感が高まりやすく、それを解消するべく、他者とつながる（他者からケアを引き出す）手段として、他者操作を行っている可能性がある。

そこで研究3では、まず、研究1で検討したDTと他者操作方略の関連を、日本人のサンプルで追試する。次に、DTの高い者が他者を操作する理由（メカニズム）として、孤独感の媒介効果を検討する。

特に、研究2 (Figure 4-1) の結果（サイコパシー傾向が高いほど、親密性回避が高くなり、自己卑下的な操作「心配してもらおうとしてつらそうなふりをする」「相手に仕事を代わってもらおうとして調子悪そうなふりをする」を促進する）をふまえて、サイコパシー傾向が高いほど、孤独感が高く、孤独感が高いほど自己卑下的な操作を行う、という媒介モデルに注目する。

第2節 方法

参加者 一般の成人 200 名（男性 100 名, $M = 54.0$ 歳, $SD = 12.0$, 範囲 = 28~77 歳, 女性 100 名, $M = 48.2$ 歳, $SD = 11.6$, 範囲 = 27~83 歳）が参加した。実施時期は 2020 年 1 月であった。

質問紙 ①日本語版 Dark Triad Dirty Dozen（田村・小塩・田中・増井・Jonason, 2015）12 項目。サイコパシー傾向 4 項目（「私は、あまり自分のあやまちを認めることがない」）、ナルシズム 4 項目（「私は、他の人から立派な人物だと思われたいほうだ」）、マキャベリアニズム 4 項目（「私には他の人をあやつっても自分の思い通りにするところがある」）を実施した。「全くあてはまらない」=1, 「非常にあてはまる」=5 とする 5 件法で回答した。

②他者操作方略尺度（寺島・小玉, 2004）21 項目。自己優越的感情操作 6 項目（「感心してもらおうとしてひととは違うところをアピールする」）、自己優越的行動操作 5 項目（「頼みごとをことわりなくくさせようとして相手への昔の貸しをもちだす」）、自己卑下的感情操作 5 項目（「心配してもらおうとしてつらそうなふりをする」）、自己卑下的行動操作 5 項目（「相手に仕事を代わってもらおうとして調子悪そうなふりをする」）を実施した。「1=全くしない」～「5=よくする」の 5 件法で回答した。

③UCLA 孤独感尺度短縮版（Igarashi, 2019）3 項目。「ほとんどない」=1, 「たまにある」=2, 「よくある」=3 とする 3 件法で回答した。項目は「あなたは、自分に仲間付き合いがないと感じることがありますか」「あなたは、疎外されていると感じることがありますか」「あなたは、他の人から孤立していると感じることがありますか」であった。

手続き まず、大学生 35 名（学部ゼミ生）を対象に予備調査を実施し、使用する尺度を確定した。その後、調査会社（株式会社アイブリッジ）に依頼し、任意の参加に同意を得たうえで、オンライン上の回答フォームに回答してもらった。指定の人数（200 名）に達するまで先着順で回答し、参加者には調査会社から報酬としてポイントが付与されるしくみであった。なお本研究は、著者の所属する部署の倫理審査を受け、承認を得た。

第3節 結果

まず、各尺度の記述統計量と α 係数 ω 係数を Table 5-1 に、尺度間の相関係数を Table 5-2 に示した。

Table 5-1 各尺度の平均値と標準偏差 (N = 200)

	α	ω	全体		男性 n = 100		女性 n = 100		性差 p
			M	SD	M	SD	M	SD	
1. マキャベリアニズム	.91	.91	8.1	3.7	8.4	3.7	7.9	3.6	.322
2. 自己愛傾向	.88	.88	9.0	3.6	9.6	3.5	8.4	3.7	.018
3. サイコパシー傾向	.83	.83	9.6	3.5	10.0	3.3	9.2	3.6	.122
4. 自己優越的感情操作	.97	.97	13.9	6.9	14.3	6.8	13.6	7.0	.445
5. 自己卑下の感情操作	.96	.96	11.1	5.8	11.5	5.7	10.8	6.0	.375
6. 自己優越的行動操作	.95	.95	10.5	5.6	11.3	5.6	9.6	5.5	.040
7. 自己卑下の行動操作	.96	.96	10.7	5.6	11.4	5.6	10.1	5.7	.098
8. 孤独感	.84	.85	5.2	1.8	5.0	1.8	5.3	1.8	.256

Table 5-2 各尺度の Spearman 順位相関係数 (N = 200)

	1	2	3	4	5	6	7
1. マキャベリアニズム							
2. 自己愛傾向	.733 ***						
3. サイコパシー傾向	.690 ***	.564 ***					
4. 自己優越的感情操作	.700 ***	.730 ***	.498 ***				
5. 自己卑下の感情操作	.753 ***	.698 ***	.609 ***	.856 ***			
6. 自己優越的行動操作	.748 ***	.684 ***	.587 ***	.809 ***	.892 ***		
7. 自己卑下の感情操作	.720 ***	.662 ***	.568 ***	.815 ***	.873 ***	.892 ***	
8. 孤独感	.277 ***	.302 ***	.348 ***	.323 ***	.317 ***	.246 ***	.270 ***

注. *** $p < .001$

次に、下司・小塩 (2019) にならって、DT の各特性が、他の 2 特性を統制したうえで、他者操作方略とどのように関連するのかを検討するために、重回帰分析を行なった。その結果を Table 5-3 に示した。

Table 5-3 Dark Triad から他者操作方略への重回帰分析

	自己優越的感情操作		自己卑下の感情操作		自己優越的行動操作		自己卑下の行動操作	
	β	95%CI	β	95%CI	β	95%CI	β	95%CI
1. マキャベリアニズム	.366 ***	.222, .511	.440 ***	.299, .582	.460 ***	.318, .603	.420 ***	.268, .572
2. 自己愛傾向	.462 ***	.332, .593	.309 ***	.182, .436	.328 ***	.200, .457	.342 ***	.205, .479
3. サイコパシー傾向	-.007	-.132, .116	.119	-.001, .241	.100	-.021, .223	.079	-.051, .210
4. 孤独感	.102 *	.012, .193	.069	-.019, .157	.006	-.082, .096	.049	-.045, .144
adjusted R^2	.661 ***		.676 ***		.670 ***		.626 ***	

注. *** $p < .001$, * $p < .05$

続いて、DT が高いほど孤独感が高く、孤独感が高いほど他者操作を行う、という媒介モデルを検討した。その結果を Table 5-4 に示した。すべての DT は、孤独感を媒介して他者操作に影響していた。特に、マキャベリアニズム、ナルシシズム、サイコパシー傾向が

ら自己優越的感情操作・自己卑下の感情操作へ向かうパスは、いずれも孤独感を媒介する間接効果が有意であった。

Table 5-4 孤独感を媒介変数とする媒介モデルの検討

予測変数	目的変数	間接効果	95%CI		Z	p	媒介%
マキャベリアニズム	自己優越的感情操作	0.096	0.027	0.166	2.74	.006	6.92
	自己卑下の感情操作	1.181	1.040	1.322	16.47	<.001	5.42
	自己優越的行動操作	0.033	-0.011	0.079	1.45	.147	2.83
	自己卑下の行動操作	0.053	0.002	0.105	2.05	.041	4.64
自己愛傾向	自己優越的感情操作	0.081	0.012	0.151	2.30	.021	5.58
	自己卑下の感情操作	0.067	0.005	0.129	2.15	.032	5.61
	自己優越的行動操作	0.028	-0.027	0.083	0.99	.319	2.46
	自己卑下の行動操作	0.048	-0.010	0.108	1.61	.106	4.29
サイコパシー傾向	自己優越的感情操作	0.136	0.031	0.242	2.54	.011	11.60
	自己卑下の感情操作	0.081	0.000	0.163	1.98	.048	7.34
	自己優越的行動操作	0.039	-0.037	0.116	1.00	.315	3.79
	自己卑下の行動操作	0.068	-0.012	0.149	1.65	.100	6.75

注. 予測変数から目的変数への直接効果は、すべて $p < .001$ で有意

第4節 考察

まず、重回帰分析の結果、DTのうち、マキャベリアニズムとナルシシズムが他者操作方略に関連していた。これは、下司・小塩(2019)の結果と異なる。下司・小塩(2019)では、ナルシシズムではなく、むしろサイコパシー傾向が関連していた。

これについては、下司・小塩(2019)で用いられた日本語版 Short Dark Triad (SD3-J)(下司・小塩, 2017)のサイコパシー傾向の項目が、敵対心を中心とした項目群(「私は目上の人に仕返しや報復をしたいと思うことがある」「報復は、即座に、冷酷に行うものだ」「私は他人からよく手に負えないと言われる」「私は他人につらく当たっても平気だというのが実際のところだ」「私をからかう者はいつまでもその行為を後悔することになる」)であったために、他者操作に関連しやすかったことが考えられる。

一方、この研究3で使用した日本語版 Dark Triad Dirty Dozen (DTDD-J)は、非道徳性や冷淡さを中心とする項目群であったため(項目については「方法」を参照)、他者操作に関連しにくかったと考えられる。

第二に、相関分析によると、マキャベリアニズム、ナルシシズム、サイコパシー傾向と孤独感の相関係数は、それぞれ、 $r_s = .277, .302, .348$ であり(Table 5-2)、Zhang, Zou, Wang, & Finy (2015) ($r_s = .30, -.05, .24$)、Masui (2019) ($r_s = .04, -.15, .41$)に比べて、中程度の相関となった。これは、DTが高いほど孤独を感じやすいことを示唆している。もしかしたら、DTの高い者は、社会からの孤立を避ける必要があるため、孤独に敏感なのかもしれない。

第三に、孤独感の媒介効果は、すべてのDTにおいて確認された。すなわち、DTが高いほど孤独感が高く、孤独感が高いほど他者操作をしていた。ただし、媒介効果の割合は小さかった(4.64~11.60%, Table 5-4)。

特にDTから自己優越的感情操作(「感心してもらおうとしてひととは違うところをアピールする」)、自己卑下的感情操作(「心配してもらおうとしてつらそうふりをする」)へ向かうパスには、すべて、孤独感が媒介していることが明らかになった。すなわち、DTの高い人は、孤独を感じると、他者の気持ちを惹こうとして、他者操作を行うのであろう。

第四に、重回帰分析の結果から、他者操作方略を促進するのは、DTのうちマキャベリアニズムが最も大きいことが明らかになった。これは、下司・小塩(2019)の重回帰分析においても、同様であった。マキャベリアニズムは操作的定義上、他者操作を含むので(項目については「方法」を参照)、必然の結果といえるだろう。

最後に、サイコパシー傾向と自己卑下的な操作について、考察する。下司・小塩(2019)に戻ると、サイコパシー傾向と自己卑下的感情操作の相関係数($r = .19$)は有意であったものの、自己卑下的感情操作を目的変数とし、DTを説明変数とする重回帰分析においては、サイコパシー傾向の標準化偏回帰係数は有意でなかった。この研究3の相関分析でも、サイコパシー傾向と自己卑下的感情操作の相関係数($r = .609$)は有意であったが、自己卑下的感情操作を目的変数とする重回帰分析においては(他の他者操作方略においても)、サイコ

パシー傾向の標準化偏回帰係数は有意でなかった。自己卑下的感情操作は、「相手に“そんなことないよ”と否定してもらおうとして自分を卑下する」など、自分の弱みを見せたり、謙遜することである。サイコパシー傾向の高い人には、似合わない言動といえるだろう。

研究2においても、サイコパシー傾向は、親密性回避が高くなることで、自己卑下的な操作（「心配してもらおうとしてつらそうなふりをする」「相手に仕事を代わってもらおうとして調子悪そうなふりをする」）を促進していた。この研究3においても、サイコパシー傾向は、孤独感が高くなることで、自己優越的感情操作（「感心してもらおうとしてひととは違うところをアピールする」）、自己卑下的感情操作（「心配してもらおうとしてつらそうなふりをする」）を促進していた。サイコパシー傾向の高い人は、愛着スタイルの不安定さや孤独感の高まりといった条件のもとで、自己卑下的な操作を行うことがある。

近年、DTの高い人が対人スキルをもち、一定の社会適応性を備えていることが注目されている。実際に、サイコパシー傾向が高いほど共感特性（Interpersonal Reactivity Index で測定）は低い（ $r = -.20 \sim -.50$ ）、実際の共感能力（Multifaceted Empathy Test で測定）はそれほど低くなかった（負の相関ではなかった $r = .05$ ）という報告もある（Kajonius & Björkman, 2019）。

研究3の結果は、DTの高い人が、他者操作方略を使うことによって、人間関係を維持し、社会から孤立するのを防いでいる可能性を示唆している。ただし、孤独感の媒介効果の割合は小さく（4.64～11.60%）、すなわち直接効果の方が大きいことから、DTの他者操作の多くは、その冷淡さゆえに行われていると考えられる。

研究4と研究5では、冷淡さゆえに他者を操るDTと対照的に、共感性が高いほど、他者操作方略が減少するかどうかを検討する。

第六章 研究 4・研究 5 感覚処理感受性、共感性と他者操作方略の関連

第一節 研究 4 感覚処理感受性と共感性の関連（予備調査）

1. 問題と目的

研究 2 において、DT の 3 つのパーソナリティと多次元共感性尺度の相関を検討した。相関係数が.20 以上のものを再掲すると、被影響性（項目例「自分の感情はまわりの人の影響を受けやすい」）は、ナルシシズムと正の相関があった。他者指向的反応（項目例「悲しんでいる人を見ると、なぐさめてあげたくなる」）は、マキャベリアニズム・サイコパシー傾向と負の相関があった。想像性（項目例「空想することが好きだ」）は、ナルシシズムと正の相関があった。視点取得（項目例「常に人の立場に立って、相手を理解するようにしている」）は、サイコパシー傾向と負の相関があった。そして、自己指向的反応（項目例「他人の成功を素直に喜べないことがある」）は、マキャベリアニズム・サイコパシー傾向・ナルシシズムと正の相関があった。

同じく研究 2 のパス解析の結果、サイコパシー傾向から他者操作方略への影響は、多次元共感性尺度の自己指向的反応を媒介していた。研究 2 で考察したように、自己指向的反応は、共感性のネガティブな側面だと考えられ、実質的には、自己中心的な状態と想定できる（浜崎, 1985; 永井, 2019）。サイコパシー傾向は定義上、冷淡さと衝動性の特徴をもつので（Levenson, Kiehl, & Fitzpatrick, 1995）、サイコパシー傾向と自己指向的反応に正の相関が見られるのは、必然といえる。

また、研究 2 においては、多次元共感性尺度と他者操作方略尺度の相関も検討した。相関係数が.20 以上のものを再掲すると、被影響性（項目例「自分の感情はまわりの人に影響を受けやすい」）は、自己優越感情操作・自己卑下的感情操作と正の相関があった。他者指向的反応（項目例「悲しんでいる人を見ると、なぐさめてあげたくなる」）は、いずれも相関なしであった。想像性（項目例「空想することが好きだ」）は、自己優越的感情操作と正の相関があった。視点取得（項目例「常に人の立場に立って、相手を理解するよ

うにしている」)は、いずれも相関なしであった。自己指向的反応(項目例「他人の成功を素直に喜べないことがある」)は、すべての他者操作(自己卑下的行動操作・自己優越感情操作・自己卑下的感情操作)と正の相関があった。このように、多次元共感性尺度(被影響性や自己指向的反応のように、自己中心的な状態)においては、むしろ他者操作を促進するといえるだろう。

これをふまえて、第六章では、他者操作を抑制する要因としての共感性を、再び検討する。すなわち、共感性が高いほど他者操作方略が減少するかどうかを、共感性に関連する別の尺度を併用しながら検討する。

ここでは、その共感性に関連する要因として、感覚処理感受性に注目したい。

感覚処理感受性は、音や匂いなど環境刺激に対する反応の個人差である(岐部・平野, 2019)。高い感覚処理感受性をもつ人を高敏感者(highly sensitive person: HSP)という。提唱者のAron, E. N. (1996)によると、HSPは環境刺激に敏感だけでなく、人に対する感受性が高く、共感性も高いという。例えば、HSP尺度得点が高いほど、配偶者の悲しい顔を見ているときに(見知らぬ人の顔に比べて)、島皮質(共感・痛みの脳部位)が活性化していた(Acevedo et al., 2014)。

とはいえ、HSP尺度と共感性尺度の相関を直接検討した研究は少ない。例えば、HSP尺度は、対人反応性指標の個人的苦痛との間に正の相関($r = .563$)をもつが(Gerry, 2017)、その他の因子との値は記載されていない。また、飯村(2016)によると、感覚処理感受性の高い(上位1SD)の中学生は(それ以外に比べて)、多次元共感性尺度の合計点が高かったが(Hedges's $g = 0.46$)、下位尺度に関する結果は明らかではない。

共感は、感情的な側面と認知的な側面から構成される複合的な概念である(日道他, 2017)。感覚処理感受性が、共感性のどの側面と関連があるかを検討することは、感覚処理感受性の基礎的データとして重要だろう。

そこで研究4では、他者操作の抑制要因としての共感性を再検討する予備調査として、共感性尺度として最も使用される対人反応性指標、そして情動伝染尺度を実施し、HSP尺度との関連を検討する。

研究4では、HSP尺度がよく実施されている若い世代を対象に調査を行う。

2. 方法

参加者 20代の300名 ($M = 25.5$ 歳, $SD = 2.8$, 範囲=20~29 歳) が参加した (男性 150 名[うち学生 25 名], $M = 25.4$ 歳, $SD = 2.8$, 女性 150 名[うち学生 19 名], $M = 25.6$ 歳, $SD = 2.8$)。実施時期は 2020 年 4 月であった。

質問紙 ①感覚処理感受性 (Highly Sensitive Person Scale: HSPS-J19 高橋, 2016)。低感覚 閾 7 項目 (項目例「大きな音や雑然とした光景のような強い刺激がわずらわしいですか」)、易興奮性 8 項目 (「短時間にしなければならぬことが多いとオロオロしますか」)、美的感受性 4 項目 (「微細で繊細な香り・味・音・芸術作品などを好みますか」) の 3 因子であった。「1=全くあてはまらない」～「7=非常にあてはまる」の 7 件法で回答した。

②日本語版対人反応性指標 (Interpersonal Reactivity Index: IRI-J, 日道他, 2017)。個人的苦痛 7 項目 (「非常事態では, 不安で落ち着かなくなる」)、共感的関心 7 項目 (「自分より不運な人たちを心配し, 気にかけることが多い」)、視点取得 7 項目 (「何かを決める前には, 自分と意見が異なる立場のすべてに目を向けるようにしている」)、想像性 7 項目 (「自分の身に起こりそうな出来事について, 空想にふけることが多い」) の 4 因子であった。「1=全くあてはまらない」～「5=非常によくあてはまる」の 5 件法で回答した。

③情動伝染 Carré, Stefaniak, D'ambrosio, Bensalah, & Besche-Richard (2013) の Basic Empathy Scale から emotional contagion 因子の 5 項目であった (注 1)。「1=全くあてはまらない」～「5=非常によくあてはまる」の 5 件法で回答した。

手続き 調査会社 (株式会社アイブリッジ) に、20 代の男女を 150 名ずつ調査することを依頼した。参加者は、任意の参加であることに同意したうえで、オンラインの回答フォーム (Freeasy) に回答した。指定の人数に達するまで先着順で回答し、参加者には調査会社から報酬としてポイントが付与されるしくみであった。なお本研究は、著者の所属する部署の倫理審査を受け、承認を得た。

3. 結果

各尺度の α 係数を確認したところ、IRI の各尺度は $\alpha < .7$ であったため、日道他 (2017) の考察を参考に、逆転項目を除いて合計した。次に、各尺度の性差を Welch 検定したところ、易興奮性・個人的苦痛・情動伝染の得点は、女性が男性に比べて高かった (順に $t = -2.27, df = 298, p = .024, d = -.26; t = -2.24, df = 298, p = .025, d = -.26, t = -2.20, df = 298; p = .028, d = -.25$)。そこで、男女別に、各尺度間の Spearman 順位相関係数を算出した。

その結果、男性においては、HSP 各尺度は、IRI 各尺度及び情動伝染との間に中程度の相関があった (Table 6-1)。女性においては、個人的苦痛と中程度の相関があったものの、共感的関心・視点取得・想像性との相関は弱い値にとどまった (Table 6-2)。

Table 6-1 各尺度のSpearman順位相関係数 (男性 $n = 150$)

	α	M	SD	1	2	3	4	5	6	7
1. 低感覚閾 7項目	.90	28.7	10.1							
2. 易興奮性 8項目	.90	31.2	10.4	.76 ***						
3. 美的感受性 4項目	.83	15.4	5.2	.32 ***	.32 ***					
4. 個人的苦痛 5項目	.90	14.6	4.8	.60 ***	.74 ***	.24 **				
5. 共感的関心 4項目	.80	12.1	3.3	.41 ***	.36 ***	.56 ***	.38 ***			
6. 視点取得 5項目	.80	15.0	3.9	.38 ***	.42 ***	.51 ***	.33 ***	.55 ***		
7. 想像性 5項目	.87	14.9	4.5	.44 ***	.53 ***	.52 ***	.46 ***	.58 ***	.50 ***	
8. 情動伝染 5項目	.87	14.3	4.4	.42 ***	.55 ***	.44 ***	.59 ***	.58 ***	.46 ***	.58 ***

Note. ** $p < .01$, *** $p < .001$

Table 6-2 各尺度のSpearman順位相関係数 (女性 $n = 150$)

	α	M	SD	1	2	3	4	5	6	7
1. 低感覚閾 7項目	.89	30.4	9.2							
2. 易興奮性 8項目	.89	33.9	10.2	.77 ***						
3. 美的感受性 4項目	.74	15.8	4.6	.20 *	.24 **					
4. 個人的苦痛 5項目	.88	15.9	4.6	.65 ***	.72 ***	.14				
5. 共感的関心 4項目	.78	12.7	3.0	.20 *	.21 **	.45 ***	.28 ***			
6. 視点取得 5項目	.78	15.5	3.6	.17 *	.15	.23 **	.18 *	.33 ***		
7. 想像性 5項目	.83	15.8	4.3	.26 **	.27 ***	.21 **	.35 ***	.40 ***	.42 ***	
8. 情動伝染 5項目	.85	15.4	4.0	.19 *	.32 ***	.28 ***	.43 ***	.48 ***	.31 ***	.56 ***

Note. * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

4. 考察

研究4は、20代の男女300人を対象に調査を行い、男女ともに、HSPは共感性との間に正の相関が見られた。そのうち、男性においては、HSP尺度はIRIのすべての尺度に相関していた。また、女性においては、相関係数.20以上のものを再掲すると、低感覚閾は、個人的苦痛、共感的関心・想像性と、易興奮性は、個人的苦痛、共感的関心・想像性、情動伝染と、美的感受性は、共感的関心・視点取得、想像性、情動伝染との間に正の相関があった。

先行研究によると、HSP尺度が高いほど特性不安が高く（飯村, 2016; 高橋・熊野, 2019）、特性不安が高いほど個人的苦痛が高く、視点取得は低い。研究4の結果、HSPの易興奮性と個人的苦痛は、女性が男性より高かった。考えられる仮説として、女性はHSP尺度が高いほど不安になりやすく、それが共感性を妨げている可能性はある。不安の項目を含めた再調査が必要だろう。

そして、研究4の結果は、HSPのもつ共感性の高さとその性差の存在を示唆していた。男性において、感覚処理感受性は、認知的共感（視点取得・想像性）と情動的共感（個人的苦痛・共感的関心・情動伝染）どちらにも関連していた（ただし女性においては、弱い係数にとどまっている）。HSP尺度は、共感性に関連する別の尺度として併用できるだろう。

なお、研究4では20代の若者を調査したが、感覚処理感受性は加齢に伴って変化する（Ueno, Takahashi, & Oshio, 2019）。他の年齢においてもデータを蓄積しながら、感覚処理感受性と共感性の関連を議論することが期待される。

第二節 研究 5 感覚処理感受性、共感性と他者操作方略 の関連

1. 問題と目的

研究 4 では、他者操作の抑制要因としての共感性を再検討するため、その予備調査として、共感性に関連する別の尺度として、HSP 尺度（感覚処理感受性を測定する尺度）に注目し、対人反応性指標との相関を検討した。

研究 5 では、HSP 尺度・対人反応性指標・他者操作方略尺度を同時に実施することで、研究 4 の再現を試み、他者操作の抑制要因を明らかにする。

すなわち、研究 5 では、HSP 尺度、共感性の諸尺度（対人反応性指標、情動伝染尺度、多次元共感性尺度の被影響性のみ）を実施し、他者操作方略の各下位尺度との関連を検討する。被影響性のみを採用した理由は、多次元共感性尺度の他の因子は、対人反応性指標と重なっているためである。

HSP 尺度のなかでも、特に美的感受性（aesthetic sensitivity）に注目する。美的感受性は、「微細で繊細な香り・味・音・芸術作品などを好む」「自分に対して誠実である」「美術や音楽に深く感動する」「豊かな内面生活を送っている」という項目で構成され、ポジティブな環境刺激に対して、ポジティブに反応する特性である。他者操作を抑制する要因として期待できる。

なお、研究 5 も研究 4 と同様、HSP 尺度がよく実施されている若い世代を対象に調査を行う。

2. 方法

参加者 20代の200名 ($M = 25.18$ 歳, $SD = 3.01$, 範囲 = 20~29 歳) が参加した (男性 100 名, $M = 24.82$ 歳, $SD = 3.11$, 女性 100 名 $M = 25.53$ 歳, $SD = 2.87$)。実施時期は 2020 年 6 月であった。

質問紙 ①感覚処理感受性 (Highly Sensitive Person Scale: HSPS-J19; 高橋, 2016)。

②日本語版対人反応性指標 (Interpersonal Reactivity Index: IRI-J, 日道他, 2017)。

③情動伝染 Carré et al. (2013) の Basic Empathy Scale から emotional contagion 因子の 5 項目を実施した (注 1)

④多次元共感性尺度 (Multidimensional Empathy Scale: MES; 鈴木・木野, 2008) から被影響性 5 項目を実施した (注 2)。「1=全くあてはまらない」～「5=非常によくあてはまる」の 5 件法で回答した。

⑤他者操作方略尺度 (寺島・小玉, 2007)。

手続き 調査会社 (株式会社アイブリッジ) に、20 代の男女を 100 名ずつ調査することを依頼した。参加者は、任意の参加であることに同意したうえで、オンラインの回答フォーム (Freeasy) に回答した。指定の人数に達するまで先着順で回答し、参加者には調査会社から報酬としてポイントが付与されるしくみであった。なお本研究は、著者の所属する部署の倫理審査を受け、承認を得た。

3. 結果

各尺度の α 係数を確認したところ、すべての尺度において $\alpha > .7$ であった。

最初に、各尺度間の Spearman 順位相関係数を算出した (Table 6-3、拡大した図を別紙で添付)。その結果、HSP 尺度と共感性の諸尺度の関連について、相関係数.20 以上のものを再掲すると、低感覚閾は、すべての尺度 (個人的苦痛、共感的関心・視点取得・想像性・情動伝染・被影響性) と正の相関があった。易興奮性も、すべての尺度 (個人的苦痛、共感的関心・視点取得・想像性・情動伝染・被影響性) と正の相関があった。美的感受性は、共感的関心・視点取得、想像性、情動伝染との間に正の相関が見られた。

また、HSP 尺度と他者操作方略尺度の関連について、相関係数.20 以上のものを再掲すると、低感覚閾は、いずれの他者操作との間にも、相関が見られなかった。易興奮性は、自己卑下的行動操作、自己卑下的感情操作と正の相関があった。美的感受性は、自己優越的行動操作、自己卑下的行動操作、自己卑下的感情操作と正の相関が見られた。

そして、共感性の諸尺度と他者操作方略尺度の関連について、相関係数.20 以上のものを再掲すると、個人的苦痛 (項目例「非常事態では、不安で落ち着かなくなる」) は、すべての他者操作と正の相関があった。共感的関心 (項目例「自分より不運な人たちを心配し、気にかけることが多い」) も、すべての他者操作と正の相関があった。視点取得 (項目例「何かを決める前には、自分と意見が異なる立場のすべてに目を向けるようにしている」) は、自己卑下的感情操作と正の相関があった。想像性 (項目例「自分の身に起こりそうな出来事について、空想にふけることが多い」) は、自己卑下的行動操作・自己優越的感情操作・自己卑下的感情操作と正の相関があった。情動伝染 (項目例「何かで悲しくなっている友だちと一緒にいたあと、私はいつも悲しい気持ちになる」) も、すべての他者操作と正の相関があった。被影響性 (項目例「自分の感情はまわりの人の影響を受けやすい」) も、すべての他者操作と正の相関が見られた。

Table 6-3 各尺度のSpearman順位相関係数 ($n = 200$)

	α	M	SD	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1. 低認覚関7項目	0.895	31.080	8.891													
2. 高興奮性8項目	0.888	34.590	9.485	0.725	***											
3. 美的感受性4項目	0.715	15.940	4.283	0.270	***	0.483	***									
4.HSP	0.821	81.620	19.252	0.889	***	0.196	***	0.653	***							
5. 個人的苦痛5項目	0.877	15.740	4.437	0.547	***	0.732	***	0.374	***	0.347						
6. 社会的関心4項目	0.729	12.620	3.005	0.284	***	0.398	***	0.377	***	0.349	0.451					
7. 系集取得5項目	0.891	15.270	3.748	0.284	***	0.403	***	0.377	***	0.451	0.45					
8. 情緒不安定5項目	0.866	17.710	4.789	0.442	***	0.521	***	0.447	***	0.494	0.374	0.374				
9. 情緒不安定5項目	0.866	15.590	4.089	0.359	***	0.523	***	0.487	***	0.494	0.374	0.374	0.491			
10. 情緒不安定5項目	0.786	9.980	2.653	0.329	***	0.713	***	0.387	***	0.354	0.278	0.279	0.288	0.288		
11. 情緒不安定5項目	0.884	13.140	5.662	0.080	0.139	0.269	***	0.151	*	0.187	0.19	0.279	0.288	0.288		
12. 低下性行動操作	0.823	13.510	6.001	0.134	0.25	0.217	***	0.342	***	0.185	0.24	0.254	0.338	0.338	0.738	***
13. 情緒不安定5項目	0.888	11.710	4.776	0.117	0.166	*	0.188	*	0.274	0.184	0.217	0.267	0.327	0.327	0.684	***
14. 低下性認覚操作	0.828	11.360	4.806	0.195	0.341	***	0.314	***	0.271	0.209	0.266	0.267	0.319	0.319	0.77	***

Note. * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

次に、階層的なモデル（感覚処理感受性から対人反応性指標など共感性の諸尺度を経て他者操作方略に影響するモデル）を想定し、パス解析で検討した。適合度は GFI = .943, AGFI = .878, RMR = 1.017, RMSEA = .063 であった。その結果を Figure 6-1 に示す。

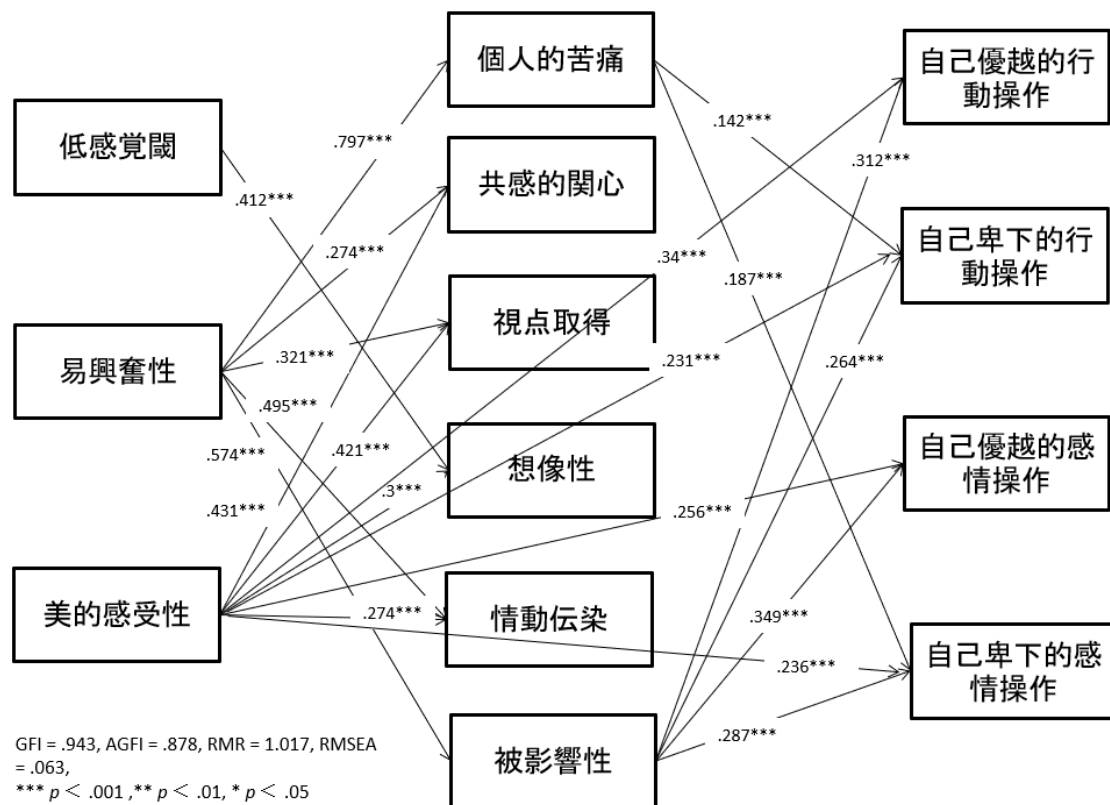


Figure 6-1 HSPと他者操作方略のモデル

次の3つの特徴が明らかになった。

まず、易興奮性（項目例「短時間にしなければならないことが多いとオロオロしますか」）が高いほど、被影響性が高くなり（ $\beta = .574$ ）、すべての他者操作方略が高くなっていった（自己優越的行動操作 $\beta = .312$, 自己卑下の行動操作 $\beta = .264$, 自己優越的行動操作 $\beta = .312$, 自己卑下の感情操作 $\beta = .287$ ）。

また、易興奮性が高いほど個人的苦痛が高くなり（ $\beta = .797$ ）、自己卑下の行動操作（ $\beta = .142$ ）と自己卑下の感情操作（ $\beta = .187$ ）が高くなっていった。

そして、美的感受性はすべての他者操作方略を直接高めていた（自己優越的行動操作 $\beta = .34$, 自己卑下の行動操作 $\beta = .231$, 自己優越的感情操作 $\beta = .256$, 自己卑下の感情操作 $\beta = .236$ ）。

4. 考察

研究5では、まず研究4の再現、すなわちHSP尺度と共感性の諸尺度との相関を検討した。その結果、いずれも正の相関をもつことが明らかになり、研究4の結果を再現できた。

次に、HSP尺度と他者操作方略の関連について、易興奮性は、自己卑下的行動操作（「調子悪そうふりをして相手に仕事を代わってもらおう」）、自己卑下的感情操作（「自分の不運をぼやいて相手になぐさめてもらう」）と正の相関が見られた。また、パス解析においては、易興奮性が高いほど、被影響性や個人的苦痛が高くなることで、自己卑下的な操作を行いやすいことが示唆された。

寺島・小玉（2004）は、自己卑下的な操作は、相手からのケアを「引き出す」という側面が強いと述べている。易興奮性は、入ってくる情報が多すぎてパニックになりやすい特性である。それは不安に陥りやすく、被影響性（「自分の感情はまわりの人の影響を受けやすい」）や個人的苦痛（項目例「非常事態では、不安で落ち着かなくなる」）が高くなりやすい。そして、その不安を解消するために、相手からケアを引き出そうとして、自己卑下的な操作につながると考えられる。

このことは、研究2で報告したように、DTと他者操作方略の間に、見捨てられ不安や自己指向的反応の高まりがあること、あるいは研究3で考察したように、DTが高いほど孤独を感じやすく、それを解消するために、他者の気持ちを惹こうとして、感情的な他者操作（自己優越的感情操作・自己卑下的感情操作）につながることと、よく似ている。他者操作方略のある種の社会適応的な機能であると考えられる。ここでは、これを「他者操作の不安・孤独低減説」と呼んでおく。

さらに、美的感受性は、仮説に反して、自己優越的行動操作、自己卑下的行動操作、自己卑下的感情操作との間に正の相関が見られた。パス解析においては、すべての他者操作と直接のパスが有意であった。美的感受性は、「美術や音楽に深く感動する」などの項目のように、ポジティブな刺激に対してポジティブに反応する特性である。それゆえに、他者操作と促進するという結果は、意外であった。

じつは、美的感受性は不安と正の相関をもつことがある。Liss, Mailloux, & Erchull（2008）によると、HSP尺度の美的感受性は不安（Beck Anxiety Inventory）と正の相関（ $r = .24$ ）をもつ。それゆえ、美的感受性と他者操作の関連も、不安・孤独低減説で説明できるかもしれない。

しかし、Smolewska, McCabe, & Woody（2006）の報告では、美的感受性は（不安とも相関の強い）行動抑制系（Behavioral Inhibition System）とほとんど相関しない（ $r = .15$ ）。高橋・熊野（2019）においては、美的感受性は特性不安（State-Trait Anxiety Inventory）と負の相関（ $r = -.27$ ）をもつという。これらの線に沿うなら、美的感受性と他者操作の関連を、不安・孤独低減説で説明するのは難しい。

もう一つ考えられることは、美的感受性はポジティブな経験であるが、それが高くなりすぎると、いわゆる「気持ちが大きく」(grandiose) になって、他者操作のほうに傾いてしまう可能性である。研究1、研究2、研究3で報告したように、ナルシシズム(項目例「私は、他の人からの特別な好意を期待しがちだ」「私は、他の人から立派な人物だと思われたいほうだ」)は一貫して、他者操作方略(特に自己優越的感情操作、項目例「感心してもらおうとしてひととは違うところをアピールする」)と正の相関をもつ。

美的感受性とナルシシズムが、類似の性質をもつかどうかは、現在のところ、美的感受性とナルシシズムの相関係数のデータがないのでわからない。もし類似の性質をもつとしても、「気持ちが大きく」になって、他者操作をするかどうかは、別途、検証する必要があるだろう。研究3で述べたように、ナルシシズムと他者操作の関連は、不安・孤独低減説で説明できるかもしれない。とはいえ、孤独感の媒介効果は5パーセントほどなので、他の要因によって他者操作が促進されている可能性も十分にある。

このように、美的感受性と他者操作の関連については、さまざまな検討が必要であり、今後の課題としたい。

そして、研究5の冒頭では、HSP尺度や共感性の諸尺度(対人反応性指標、情動伝染尺度、被影響性)のなかに、他者操作を抑制する要因があると予想していた。しかし、予想に反して、共感的関心(「自分より不運な人たちを心配し、気にかけることが多い」)も、視点取得(「何かを決める前には、自分と意見が異なる立場のすべてに目を向けるようにしている」)も、情動伝染(項目例「何かで悲しくなっている友だちと一緒にいたあと、私はいつも悲しい気持ちになる」)も、むしろ他者操作と正の相関をもっていた。これら(共感的関心、視点取得、情動伝染)は、共感性のポジティブな側面であると考えられるため、他者操作と促進するという結果は、意外であった。

この結果は、再現性も含めて検討しなければならない。一方で、もし、これが頑健な結果であるなら、(DTのようなネガティブな感情状態だけでなく)、ポジティブな感情状態も、他者操作を促す可能性をもつことになるだろう。第一章、第二章で述べたように、他者操作は人間関係の暗黒面(dark side)として研究されてきた。

しかし、他者操作を説得的コミュニケーションや自己呈示まで含めるなら、日常的に行われていることであり、他者操作はヒトの社会性を考えるうえで欠かせない要素である。このような他者操作とは何かについては、第七章の総合考察で考えてみたい。

最後に、HSP尺度とDTの関連が未検討という課題が残っている。サイコパシーは嫌悪条件づけが障害されるという指摘や、不快な出来事(悪臭)に対して、心拍数と皮膚電気反応が有意に変化しなかったという報告がある(Flor, Birbaumer, Hermann, Ziegler, & Patrick, 2002)。したがって、HSP尺度とサイコパシー傾向は、負の相関をもつと予想できる。HSP尺度とナルシシズム、マキャベリアニズムの関連はどうかを検討する必要がある。

注

1 Basic Empathy Scale は日本語版がないため、試訳した次の 5 項目を実施した。

「何かで悲しくなっている友だちと一緒にいたあと、私はいつも悲しい気持ちになる」

「私は、ほかの人の気持ちに引っ張られやすい」

「私はテレビや映画で悲しい場面を観ると、しばしば悲しくなる」

「怖がっている友だちと一緒にいると、私も恐怖を感じやすい」

「私はときどき、友だちと同じ気持ちで心がいっぱいになる」

なお、原版 (Carré et al., 2013) は、対人反応性指標 (IRI) の個人的苦痛・共感的関心・想像性と相関する ($r_s = .50, .44, .48$)。研究 4 の結果も同様であった。

2 被影響性は次の 5 項目であった。

「まわりの人がそうだとすれば、自分もそうだと思えてくる」

「自分の信念や意見は、友人の意見によって左右されることはない」(逆転項目)

「物事を、まわりの人の影響を受けずに自分一人で決めるのが苦手だ」

「自分の感情はまわりの人の影響を受けやすい」

「他人の感情に流されてしまうことはない」(逆転項目)

第三部 総合考察

第七章 考察と展望

第1節 研究1～研究5のまとめ

最初に、研究1～研究5をふりかえってまとめておきたい。

研究1では、中国人31,049名を対象に、Dark Triad Dirty Dozen (DTDD; Geng, 2015) と他者操作方略尺度(寺島・小玉, 2007)を実施し、両者の間に正の相関があることを報告した。

研究2では、中国人319名を対象に、Dark Triad Dirty Dozen (DTDD; Geng, 2015)、他者操作方略尺度(寺島・小玉, 2007)、多次元共感性尺度(Multidimensional Empathy Scale, MES; 鈴木・木野, 2008)、Experiences in Close Relationship Inventory (ECR; Li & Kato, 2006)を実施し、DTと他者操作方略の間に(媒介して)、見捨てられ不安や自己指向的反応の高まりがあることを報告した。

研究3では、日本人200名を対象に、日本語版Dark Triad Dirty Dozen(田村・小塩・田中・増井・Jonason, 2015)、他者操作方略尺度(寺島・小玉, 2004)、UCLA孤独感尺度短縮版(Igarashi, 2019)を実施し、DTと他者操作方略(特に自己優越的感情操作・自己卑下的感情操作)の間に(媒介して)、孤独感の高まりがあることを報告した。

研究4では、研究5の予備調査として、日本人300名を対象に、感覚処理感受性(Highly Sensitive Person Scale: HSPS-J19 高橋, 2016)、日本語版対人反応性指標(Interpersonal Reactivity Index: IRI-J, 日道他, 2017)、情動伝染(Basic Empathy Scale; Carré, Stefaniak, D'ambrosio, Bensalah, & Besche-Richard, 2013)を実施し、感覚処理感受性が、対人反応性指標・情動伝染と正の相関をもつことを報告した。

研究5では、日本人200名を対象に、感覚処理感受性(Highly Sensitive Person Scale: HSPS-J19 高橋, 2016)、日本語版対人反応性指標(Interpersonal Reactivity Index: IRI-J, 日道他, 2017)、情動伝染(Basic Empathy Scale; Carré, Stefaniak, D'ambrosio, Bensalah, & Besche-Richard, 2013)、被影響性(Multidimensional Empathy Scale: MES; 鈴木・木野, 2008)を実施し、(感覚処理感受性の)美的感受性と他者操作方略の間に正の相関があることを報告した。また、(感覚処理感受性の)易興奮性と他者操作方略(自己卑下的行動操作・自己卑下的感情操作)の間に(媒介して)、被影響性や個人的苦痛の高まりがあることを報告した。

第2節 他者操作の特徴

1. 自己優越的感情操作

自己優越的感情操作は、自分が相手よりも上の立場にたって自らの優越性をアピールすることで、他者に何らかの感情を喚起させようとする操作であり、「すごいねと言ってもらおうとして自分のすごいと思うところをアピールする」などの項目で示される。

自己優越的感情操作は（他の操作に比べて）、ナルシズムの影響が強い（研究1）。したがって、自己優越的感情操作は、自己の誇大的な（grandiose）側面によって生じると考えられる。また、自己優越的感情操作は、孤独感の高まりによって生じることも示唆された（研究3）。

2. 自己卑下の感情操作

自己卑下の感情操作は、自分が相手よりも下の立場にたって自らの能力や状況を低く見積もったものをアピールすることで、他者に何らかの感情を喚起させようとする操作であり、「相手になぐさめてもらおうとして自分の不運を大げさにぼやく」などの項目で示される。

自己卑下の感情操作は、見捨てられ不安、自己指向的反応（研究2）、孤独感（研究3）、被影響性・個人的苦痛（研究5）によって生じることが示唆された。これらの結果は、自己卑下の感情操作が（他の操作に比べて）、「不安・孤独低減説」（後述）でもっとも説明しやすい操作であることを意味している。すなわち、不安や孤独を解消するために、他者の気持ちを惹こうとして、相手からケアを引き出そうとして操作する。社会適応的な機能をもつ操作である。

3. 自己優越的行動操作

自己優越的行動操作は、自分が相手よりも上の立場にたって自分の優越性をアピールすることで何かをしてもらおうとする操作であり、「頼みごとをことわりなくくさせようとして相手への昔の貸しをもちだす」などの項目で示される。

自己優越的行動操作は（他の操作に比べて）、サイコパシー傾向やマキャベリアニズムの影響が強く、コミュニケーションの暗黒面としての「The 操作」といえる（研究1）。逆に、自己優越的行動操作は（他の操作に比べて）、孤独感の媒介率をもっとも低い（研究3）、「不安・孤独低減説」でもっとも説明しにくい操作である。

4. 自己卑下の行動操作

自己卑下的行動操作は自分が相手よりも下の立場にたつて自らの能力や状況を低く見積もったものをアピールすることで何かをしてもらおうとする操作であり、「自分の仕事を手伝ってもらおうとしていかにも困っているふりをする」などの項目で示される。

自己卑下的行動操作は、サイコパシー傾向やマキャベリアニズムの影響が（ナルシズムに比べて）強く、やはりコミュニケーションの暗黒面としての「操作」に近い（研究2）。一方で、被影響性・個人的苦痛が高まりで、生じやすくなることも示唆された（研究5）。すなわち、自己卑下的行動操作は、他者操作の暗黒説と不安・孤独低減説の両方によって説明できるだろう。

第3節 他者操作の暗黒説

上述したように、筆者は、他者操作方略を引き起こす要因（メカニズム）として、「暗黒説」と「不安・孤独感低減説」をあげた。本節では暗黒説とはなにか、また、暗黒説に含まれる要素について考察する。

暗黒説を一言で言うと、実質的な利益を最大化するための利己的な操作である。具体的には、「自己優越的行動操作」と「自己卑下的行動操作」が相当する。寺島・小玉

（2004）の尺度においては、「利己的で高圧的に他者をコントロールして自分の利益を得ようとする行動」と定義され、「何らかの行動を行わせようとする操作」として、「相手に貸しを作って頼みごとをことわりなくくさせる」「調子悪そうなふりをして相手に仕事を代わってもらう」のような項目が含まれている。

自己優越的行動操作と自己卑下的行動操作が、利己的な側面が強いことは、DTのうち、サイコパシー傾向とマキャベリアニズムが強く相関することからも、そのようにいえるだろう。

そもそも、サイコパシー傾向のマキャベリアニズムの相関は高い（研究2において $r = .47$ 、研究3において $r = .69$ ）。また、Jones & Neria（2015）によるDTと攻撃性の研究において、サイコパシー傾向とマキャベリアニズムは、身体的な攻撃（ $r = .58, .39$ ）、言語的な攻撃（ $r = .41, .26$ ）、怒り（ $r = .42, .29$ ）、敵意（ $r = .32, .29$ ）との間に正の相関があった。つまり、サイコパシー傾向やマキャベリアニズムは、利己的な操作が強い特性といえる。

サイコパシー傾向やマキャベリアニズムは、極端な対人認知（印象形成）をするという報告もある。増井・浦（2018）によると、「マキャベリアニズムやサイコパシーの高い人は、他者に対して、それまで良い印象を抱いていたとしても、その人物のネガティブな特徴を示した途端に印象を極端に悪くしていた。その一方で、彼ら・彼女らは最初に悪い印象を抱いた場合、途中から良い特性を聞いたとしても初めに抱いた悪い印象をあま

り変えなかった」(p.335)。これらの結果を受けて、「ダークな」人たちは、他者に対して極端で、アンバランスな印象を抱きやすいと結論している。

このように、サイコパシー傾向やマキャベリアニズムの高い人は、他者に対してマイナスなイメージを抱きやすいことから、自分の利益のために他者と交流せざるをえない場合は、コミュニケーションの方法として操作を利用し、自分の利益を最大化にする可能性がある。コミュニケーションの暗黒面は、サイコパシー傾向とマキャベリアニズムの特性から生み出されたものだと考えられる。

しかし、サイコパシーとマキャベリアニズムは異なるパーソナリティでもある。例えば、マキャベリアニズムは神経症傾向と正の相関でありながら (Vernon, Villani, Vickers, & Harris, 2008)、サイコパシー傾向は負の相関を示している (Paulhus & Williams, 2002)。本研究では、マキャベリアニズムとサイコパシー傾向を暗黒面としてまとめたが、この2つのパーソナリティは、操作に至るまでのプロセスは全く同じではない可能性がある。また、研究4と5に取り入れたHSPも、神経症傾向と正の相関がある報告があった(高橋, 2016)。神経症傾向は境界性パーソナリティ障害と正の関連がある (Distel, 2009)。他者操作方略は、境界性パーソナリティ障害の行為に由来する部分もあるため(寺島・小玉, 2004)、マキャベリアニズムとHSPの他者操作のプロセスは、ほかの要素を含めて、再検討する必要がある。

前文で述べたように、行動的な操作は、時にはコミュニケーションの暗黒面として、利益を最大化するための手段になる。「自己優越的行動操作」の項目(「相手に貸しを作って頼みごとをことわりなくくさせる」)を改めて振り返ると、取引の性質があることがわかる。

例えば、「相手に物をあげたりおごったりして自分のいうことをきかせる」の項目は、操作者は収益を見込んで、先に被操作者へ投資して、報酬を要求する形になっている。また、「以前の約束をたてにその約束を果たすことを相手にせまる」は、被操作者を縛り付けて、被操作者の人柄のよさを利用し、行動を要求する。田崎・中島・浦(2019)のDTの友人関係を調べる研究では、DTが高いほど、社会経済的地位の低い友人を持つ結果があった。サイコパシー傾向とマキャベリアニズムは操作するターゲットを選んで操作を行う可能性がある。

さらに、行動的な操作を使って、他者から物質的な利益を得ようとする過程には、利己的で自己中心的な思考が働いている。操作は、説得と脅迫の間の支配力があるという

(Faden & Beauchamp, 1986)。資源や利益を得るために、リスクとコストが高い攻撃、脅迫より、安全な操作を選んだほうが、便利で長期的な利益がある。ある程度、社会適応するためには、長期的な利益を思考できる必要性がある。ただし、サイコパシー傾向は長期的な思考ができず、短期的な利益を得る傾向があるという説もある (Rilling et al., 2007; 増井・浦, 2018)。本研究は一般人を対象とした研究であるため、ある程度の社会適応ができるゆえ、犯罪を起こした群より長期的な視野を持てるかもしれない。

本研究の結果から、行動操作の暗黒面について2つの特徴が考えられる。1つ目は、マキャベリアニズムとサイコパシー傾向は他者の感情を理解することが難しく、他者の感情や言葉に利益を感じない可能性がある。また、自身の感情は冷淡で、共感能力も低い。逆に言うと、実質的な利益を得られない感情操作（「がんばっている自分をアピールしてほめてもらう」「自分の欠点を大げさに言って同情をさそう」）には関心が低い。

2つ目に、暗黒面の操作は利益を最大化する手段であり、操作を行う前に収益を見込み、見込みのない操作はあまり行われぬ。「相手に貸しを作って頼みごとをことわりなくくさせる」「相手に物をあげたりおごったりして自分のいうことをきかせる」のように、相手に投資し、その相手から収益を得られることを見込んで、操作を行うしたたかさがある。

他者操作方略は、日常生活において頻繁に起こる行為の1つである。操作は目的と結果によって、他者を傷付け、損をもたらすこともある（Buss, S., 2005; Coons & Weber, 2014）。時に犯罪に繋がることもある。例えばサイコパシー傾向は、DTの中でも犯罪率の高いパーソナリティと言われる（Hare, McPherson, & Forth, 1988）。柳田・荒井・藤

（2018）は、サイコパシー特性と非道徳行動の関係を調べて、サイコパシーの一次性サイコパシー（primary psychopathy）の対人操作は、対人非道徳的意図に対して正の影響を及ぼし、二次性サイコパシー（secondary psychopathy）の不安定な生活様式と反社会性は、対人非道徳的行動に対して正の影響があることを報告した。彼らは他者を巧みに操作する。口達者なサイコパシーが、どういう場面で、そのような目的を持って犯罪を行うかを解明することは、犯罪防止に役立つだろう。

消費者庁「若者の消費者被害の心理的要因からの分析に係る検討会」の報告書（2008）によると、勧誘を受けた際の心境として「これに取り組むことで、知人・友人・家族等を見返せると思った」「相手に何らかの恩や負い目を感じていた」などの、他者操作方略を受けていると思われる内容が含まれていた。被害者の意見を通して、加害者側のプロセスを明らかにすることで、犯罪防止に役立つと期待する。

第4節 他者操作の不安・孤独低減説

ここで、上記にしばしば登場した、「他者操作の不安・孤独低減説」について、まとめておきたい。不安・孤独低減説は、研究2、研究3、研究5の考察から導かれた、他者操作の社会適応的な機能を指す。

DTが高いほど、不安（見捨てられ不安、自己指向的反応、被影響性、個人的苦痛）あるいは孤独を感じやすく、それを解消するために、他者の気持ちを惹こうとして、相手からケアを引き出そうとして操作する。よく使われる操作は、上述のように、自己卑下の感

情操作と自己卑下的行動操作である。他者操作方略のある種の社会適応的な機能であると考えられる。ただし上述のように、自己卑下的行動操作は、暗黒説としての側面ももつ。

ここで考えてみたいことは、不安・孤独感を感じるものが、なぜ卑下の立場を選ぶことになるのだろうか？

自己卑下的操作は、寺島・小玉（2004）の尺度においては、「他者からのケアを引き出すようとする行動」と定義され、「ひととは違うところをアピールして感心させる」「忙しいことをアピールして自分の仕事を手伝ってもらおう」のような項目が含まれている。自己優越や自己卑下は、自分と他者の上下関係を位置付けた上で、自分の情報をさらけ出すという点で、自己呈示のスタイルの違いと考えられる。

また、自己呈示は、意識的あるいは無意識に、他者からの承認を得る（または否認を避ける）行動として定義されている（Schneider, 1969）。自己呈示自体が操作的な意味合いを持っている可能性がある。吉澤（2020）の自己卑下的呈示と評価への恐れに関する研究によると、自己卑下呈示は、肯定的な評価を得たいと同時に、否定的評価を避けたいという背景があった。著者は、否定的な評価を恐れる背景に、自信のなさや、他者からの期待が高まることを恐れているから、自己卑下呈示を行うことによってリスクを回避し、否定的な評価を避けるという、複雑なメカニズムを考察している。不安と孤独感を感じるからこそ、これ以上に他者に拒絶されることを恐れ、他者からの評価を気にして、あえて卑下的な立場を選んで、リスクを避けているのかもしれない。今後は、自己呈示の観点から他者操作方略を見直す必要がある。

第5節 DV（依存）関係と卑下操作・感情操作

人間関係において重要な立ち位置である操作は、時には不健全な人間関係と結びつくことがある。木川（2016）のレビューでは、ストーカー行為やDV、虐待のような不適応的な行為においては、自己優越的な操作だけではなく、自己卑下的な操作も用いられることがあるため、マキャベリアニズムだから自己優越的な技法を使う、というような単純な話ではないと指摘している。

本研究の結果もそれを支持した。自己卑下的行動操作はまさに両者（暗黒説と不安・孤独低減説）の融合であった。共依存関係によくある「こんなダメな自分を受け入れてくれる人はこの人しかいない」というパターンは、自己卑下的行動操作を引き出す（疲れたふりをして「休んでいいよ」と言ってもらおう）ことと似たような表現であると、筆者は感じる。寺島・小玉（2007b）によると、依存欲求はすべての他者操作方略に正の影響を与えており、そのなかでも自己卑下的行動操作に対して最も高い相関があった。また、共依存者の人格傾向は境界性パーソナリティ障害を含んでいるという説もある（前田・長友・田中・三浦, 2007）。市川・望月（2011）は、境界性・依存性・回避性パーソナリティは、自

分に自信がなく、他者の目を気にするあまりに自分を抑えてしまう点で、慢性的な空虚感や不安定な自己観と重なっていると指摘した。以上のことから、DV（依存）関係などの不健全な人間関係は、自己卑下的な自己呈示、不安や孤独感を媒介して、境界性パーソナリティ障害に由来する他者操作方略に重なっていると考えられる。今後の更なる検証を期待する。

第6節 他者操作研究のこれから

1. 日常生活における他者操作を研究することの意義

本研究は、犯罪の理解だけではなく、日常生活における他者操作を理解する意義があるだろう。研究1の大規模調査の結果から、DTの得点が高い人が、一定数いることが明らかになった。このことは、DTの（暗黒面としての）他者操作は、社会問題にもある程度、繋がっている可能性がある。例えば、サイコパシーは性的な逸脱という一面も持つ。喜入・越智（2016）によると、一次性サイコパシー（操作性の高さを特徴とする）が高いほど、女性蔑視傾向が高かった。世界中で広がっている女性蔑視、差別問題の一端に、DTな性質が関与しているかもしれない。また、柳田・荒井・藤（2018）によると、友人・恋人・家族のサポートによって、不道德的な行為を防ぐ効果があった。このことは、DTの周囲への被害を最低限に抑えることに役立つだろう。

一方で、操作は、人間関係において、コミュニケーションの重要な一環である。人間は社会的動物である。操作する・操作されることは、生きていく上でどうしても避けられない。親は飴と鞭を駆使して子を育てる。学生同士の交流においても、社会に出てからビジネスでお金を稼ぐにしても、人は生涯、操作から離れられない。操作の研究は、心理学だけでなく、社会学、経済学、政治、法律など、生活に関わるすべての学問にかかわる。操作の研究を通して、人間関係のコミュニケーションを捉え直すことが可能だろう。

2. 今後の研究課題

本研究の結果、DTが高い人は不安・孤独感を感じていることが判明した。しかし、感情の冷淡さ、操作性、自己中心的なパーソナリティは、なぜ不安・孤独感を感じやすいのだろうか？

孤独感は、自己への目覚めと他者意識の高まりによって、自己と他者を対極のものとして分離し、両者の間で心理的な距離を感じた際に生じる主観的な体験であると定義される（伊藤, 1995）。孤独感は理解・共感と個別性への気付きの2軸で、4つに分類された。「A型：他人との融合状態での孤独感」、「B型：理解者の欠如態としての孤独感」、「C型：他

人からの孤絶状態での孤独感」、「D：独立態としての孤独感」であった（伊藤, 1995）。そのうち、B・C型は閉鎖的で、利己的で、人間同士理解しあえないと思っているため、他者との親密な人間関係を失い、孤独感を生み出されたのである（落合, 1974）。DTは犯罪にも繋がるような、ダークな性質を持っているパーソナリティであるため、独特である。例えば、筆者が行った探索的なインタビュー調査では、サイコパシー得点が高い方は「他者を理解できないけど困らない、現状は自由だと認識している」、「感情的な交流はしない、共有するのは良くないと思っている」などの報告があった（黄, 2019）。ナルシシズムにも、共感性が低い人格の未熟性のC型と関連するという説もある（伊藤, 1995）。DTが感じる孤独感の背後にある要因、プロセスを更なる検証の必要がある。

次に、DTの愛着問題に関する先行研究では、自己愛と愛着スタイルの関連は本研究と同じような報告がある（福井, 2007）。また、愛着不安と自己愛はそれぞれ配偶者に対する間接的な暴力の加害に影響を及ぼしている（金政・浅野・古村, 2017）。DTの反社会的行動のプロセスを研究する際に、愛着を視野に入れることは重要だと考えられる。

次に、HSPに関しては、HSPが操作的であるという意外な結果を得られた。考えられる理由として、HSPは不安が高く、相手の感情を過大・過小見積もりする傾向があり（串崎, 2019）、不安やネガティブの感情を経験しやすいゆえに、人に対して距離を置くのかもしれない。また、HSPと境界性パーソナリティ障害の共通点として、特異な体験や神秘体験が多いという（串崎, 2018）。自己と他者の境界が、他者操作に及ぼす影響を検討する必要があるだろう。

そして、他者操作方略を用いるメカニズムとして、本研究では「暗黒説」と「不安・孤独低減説」という2つを提唱した。これを、操作する・操作されるという関係性から捉え直してみよう。例えば、木川・今城（2020）では、操作対象者の地位と性別を調べて、結果戦略的（嘘）操作は（地位）上位の対象に使われていること、また戦略的（嘘）操作は地位別で性差があることを確認した。寺島・小玉（2008b）では、操作行為が多く見られる操作的な関係性は、相手との距離が近く、境界が曖昧な関係性であると考察された。

おそらく、操作する側は、相手から好かれないが自分から近づきたくないという、相手に一方的な期待を抱いている。同時に、操作される側は、相手と積極的に仲良くなりたいという、相手に近づきたいという双方向の関係性を求めている。このような関係性のときに、他者操作は生じやすくなるのではないだろうか。

本研究では、他者操作に関わる様々な要因を検討した。繰り返しになるが、操作は他者との交流があるからこそ成立するものであり、社会的動物である人類にとって、必要不可欠な生活の一環である。私たちは他者操作によって、資源や利益を得たり、感情を満足させたりしながら、社会で生きてゆく。そこには、操作によって社会的に適応できる側面もあるだろう。本研究は、そういった複雑なコミュニケーションを理解するために、一つのモデルを構築した基礎研究である。

引用文献

- Acevedo, B. P., Aron, E. N., Aron, A., Sangster, M. D., Collins, N., & Brown, L. L. (2014). The highly sensitive brain: An fMRI study of sensory processing sensitivity and response to others' emotions. *Brain and Behavior, 4*, 580-594.
- Ainsworth, M. D. S., Blehar, M. C., Waters, E., & Wall, S. N. (2015). *Patterns of attachment: A psychological study of the strange situation*. Psychology Press.
- Aguado, J. F. (2015). Psychological manipulation, hypnosis, and suggestion. *International Journal of Cultic Studies, 6*, 48-59.
- 浜崎 隆司 (1985). 幼児の向社会的行動におよぼす共感性と他者存在の効果 心理学研究, *56*, 103-106.
- American Psychiatric Association (APA) (1994). *Diagnostic and statistical manual of mental disorders (4th ed.) (DSM-IV)*. Washington DC: American Psychiatric Association.
- Aron, E. N. (1996). *The highly sensitive person: How to thrive when the world overwhelms you*. New York: Broadway Books.
- Austin, E. J., Farrelly, D., Black, C., & Moore, H. (2007). Emotional intelligence, machiavellianism and emotional manipulation: Does EI have a dark side? *Personality and Individual Differences, 43*, 179-189.
- Berg, J. M., Lilienfeld, S. O., Reddy, S. D., Latzman, R. D., Roose, A., Craighead, L. W., ... Raison, C. L. (2013). The Inventory of Callous and Unemotional Traits: A construct-validated analysis in an at-risk sample. *Assessment, 20*, 532-544.
- Bowers, L. (2002). *Dangerous and severe personality disorder: Response and role of the psychiatric team*. Psychology Press.
- Braiker, H. B. (2004). *Who's pulling your strings*. McGraw Hill.
- Branjerdporn, G., Meredith, P., Strong, J., & Green, M. (2019). Sensory sensitivity and its relationship with adult attachment and parenting styles. *PloS One, 14*, e0209555
<https://doi.org/10.1371/journal.pone.0209555>
- Brewer, G., & Abell, L. (2015). Machiavellianism in long-term relationships: Competition, mate retention and sexual coercion. *Scandinavian Journal of Psychology, 56*, 357-362.
- Brewer, G., & Abell, L. (2017). Machiavellianism, relationship satisfaction, and romantic relationship quality. *Europe's Journal of Psychology, 13*, 491-502.
- Buss, S. (2005). Valuing autonomy and respecting persons: Manipulation, seduction, and the basis of moral constraints. *Ethics, 115*, 195-235.

- Carré, A., Stefaniak, N., D'ambrosio, F., Bensalah, L., & Besche-Richard, C. (2013). The Basic Empathy Scale in Adults (BES-A): Factor structure of a revised form. *Psychological Assessment, 25*, 679.
- Carton, H., & Egan, V. (2017). The dark triad and intimate partner violence. *Personality and Individual Differences, 105*, 84-88.
- Christie, R., & Geis, F. L. (1970). *Studies in machiavellianism*. Academic Press.
- Coons, C., & Weber, M. (Eds.). (2014). *Manipulation: Theory and practice*. Oxford University Press.
- Danciu, V. (2014). Manipulative marketing: persuasion and manipulation of the consumer through advertising. *Theoretical and Applied Economics, 21*, 19-34.
- Dissanayake, A., & Jayasinghe, N. (2016). The psychological manipulation of advertising in the modern world a discussion of revealing advertising as manipulative or informative. *In proceedings of the 17th Conference on Postgraduate Research, International Postgraduate Research Conference* (Faculty of Graduate Studies, University of Kelaniya, Sri Lanka), 5.
- Distel, M. A., Trull, T. J., Willemsen, G., Vink, J. M., Derom, C. A., Lynskey, M., ... Boomsma, D. I. (2009). The five-factor model of personality and borderline personality disorder: A genetic analysis of comorbidity. *Biological Psychiatry, 66*, 1131-1138.
- Faden, R. R., & Beauchamp, T. L. (1986). *A history and theory of informed consent*. Oxford University Press.
- Flor, H., Birbaumer, N., Hermann, C., Ziegler, S., & Patrick, C. J. (2002). Aversive Pavlovian conditioning in psychopaths: Peripheral and central correlates. *Psychophysiology, 39*, 505-518.
- Foster, J. D., Campbell, W. K., & Twenge, J. M. (2003). Individual differences in narcissism: Inflated self-views across the lifespan and around the world. *Journal of Research in Personality, 37*, 469-486.
- 福井 義一 (2007). 青年期の愛着スタイルと自己愛・自尊感情の関連 日本心理学会 第 71 回大会発表論文集, 3AM137.
- Fukunishi, I., Nakagawa, T., Nakamura, H., Li, K., Hua, Z. Q., & Kratz, T. S. (1996). Relationships between Type A behavior, narcissism, and maternal closeness for college students in Japan, the United States of America, and the People's Republic of China. *Psychological Reports, 78*, 939-944.
- Geng, Y., Sun, Q., Huang, J., Zhu, Y., & Han, X. (2015). Dirty dozen and short Dark Triad: A Chinese validation of two brief measures of the Dark Triad. *Chinese Journal of Clinical Psychology, 23*, 246-250.
- Gerry, L. J. (2017). Paint with me: Stimulating creativity and empathy while painting with a painter in virtual reality. *IEEE transactions on visualization and computer graphics, 23*, 1418-1426.

- Goldberg, A., & Scharf, M. (2020). How do highly sensitive persons parent their adolescent children? The role of sensory processing sensitivity in parenting practices. *Journal of Social and Personal Relationships*, 37, 1825-1842.
- Gough, S. (2016). *Exploring the role of the dark tetrad and self-efficacy in emotional manipulation*. (Doctoral dissertation). University of Tasmania.
- Gremillion, H. (2003). *Feeding anorexia: Gender and power at a treatment center*. Duke University Press.
- Grieve, R., March, E., & Van Doorn, G. (2019). Masculinity might be more toxic than we think: The influence of gender roles on trait emotional manipulation. *Personality and Individual Differences*, 138, 157-162.
- Grieve, R., & Mahar, D. (2010). The emotional manipulation–psychopathy nexus: Relationships with emotional intelligence, alexithymia and ethical position. *Personality and Individual Differences*, 48, 945-950.
- 郭 伟伟 (2017) 黑暗三联征与人际关系和攻击行为的相关研究 郑州大学 硕士学位论文.
- 飯村 周平 (2016). 中学生用感覚感受性尺度 (SSSI) 作成の試み パーソナリティ研究, 25, 154-157.
- 韩 晓红 (2016) 黑暗三联征与恋爱宽恕：移情和人际安全感的作用 郑州大学 硕士学位论文.
- Hare, R. D., McPherson, L. M., & Forth, A. E. (1988). Male psychopaths and their criminal careers. *Journal of consulting and clinical psychology*, 56, 710.
- Hepper, E. G., Hart, C. M., & Sedikides, C. (2014). Moving narcissus can narcissists be empathic? *Personality and Social Psychology Bulletin*, 40, 1079-1091.
- Hofer, P. (1989). The role of manipulation in the antisocial personality. *International Journal of Offender Therapy and Comparative Criminology*, 33, 91-101.
- 黄 夢荷 (2017) サイコパシーは悲しい表情をすると共感的になるか 関西大学大学院心理学研究科修士論文 (未公刊)
- 黄 夢荷 (2019) .サイコパシー傾向の高い人はどのように他者操作方略を使うのか？—Dark Triad の項目を用いた半構造化面接— 関西大学大学院心理学叢誌, 19, 1-6.
- Hyde, J., & Grieve, R. (2014). Able and willing: Refining the measurement of emotional manipulation. *Personality and Individual Differences*, 64, 131-134.
- Hyde, J., & Grieve, R. (2018). The dark side of emotion at work: Emotional manipulation in everyday and work place contexts. *Personality and Individual Differences*, 129, 108-113.
- 伊藤 美奈子 (1995). 孤独感類型の変化から見た個人志向性・社会志向性の発達過程心理学研究, 66, 10-15.
- Igarashi, T. (2019). Development of the Japanese version of the Three-Item Loneliness Scale.

- BMC Psychology*, 7, 20.
- Ináncsi, T., Láng, A., & Bereczkei, T. (2015). Machiavellianism and adult attachment in general interpersonal relationships and close relationships. *Europe's Journal of Psychology*, 11, 139-154.
- 市川 玲子・望月 聡 (2011). 依存性・境界性・回避性パーソナリティにおける重なりとそれぞれの独自性 日本心理学会第 75 回大会発表論文集, 1EV030.
- Jonason, P. K., Baughman, H. M., Carter, G. L., & Parker, P. (2015). Dorian Gray without his portrait: Psychological, social, and physical health costs associated with the Dark Triad. *Personality and Individual Differences*, 78, 5-13.
- Jonason, P. K., & Krause, L. (2013). The emotional deficits associated with the Dark Triad traits: Cognitive empathy, affective empathy, and alexithymia. *Personality and Individual Differences*, 55, 532-537.
- Jonason, P. K., & Kroll, C. H. (2015). A multidimensional view of the relationship between empathy and the dark triad. *Journal of Individual Differences*, 36, 150.
- Jonason, P. K., & Tome, J. (2019). How happiness expectations relate to the Dark Triad traits. *The Journal of Social Psychology*, 159, 371-382.
- Jones, D. N., & Paulhus, D. L. (2009). Machiavellianism. In M. R. Leary & R. H. Hoyle (Eds.), *Handbook of individual differences in social behavior* (p. 93-108). The Guilford Press.
- Jones, D. N., & Neria, A. L. (2015). The Dark Triad and dispositional aggression. *Personality and Individual Differences*, 86, 360-364.
- Kajonius, P. J., & Björkman, T. (2020). Individuals with dark traits have the ability but not the disposition to empathize. *Personality and Individual Differences*, 155, 109716.
- 嘉瀬 貴祥・上野 雄己・下司 忠大 (2019). Dark Triad のライフスキルに対する関連——反社会的な性格特性の適応的, 不適応的側面に関する探索的検討 パーソナリティ研究, 27, 266-269.
- 金政 祐司・浅野 良輔・古村 健太郎 (2017). 愛着不安と自己愛傾向は適応性を阻害するのか? 周囲の他者やパートナーからの被受容感ならびに被拒絶感を媒介要因として 社会心理学研究, 33, 1-15.
- 金政 祐司・荒井 崇史 (2018). パーソナリティと関係性が恋愛関係の間接的暴力に及ぼす影響 日本心理学会大会第 82 回発表論文集, 2AM-015.
- Karpman, B. (1948). The myth of the psychopathic personality. *American Journal of Psychiatry*, 104, 523-534.
- 岐部 智恵子・平野 真理 (2019). 日本語版青年前期用敏感性尺度 (HSCS-A) の作成 パーソナリティ研究, 28, 108-118.
- 木川 智美 (2016). 他者を操作することの心理学的研究の動向と展望 心理学評論, 59, 387-396.

- 木川 智美・今城 周造 (2018a). 大学生を対象とした日常生活にみられる他者操作の把握の試み—共起ネットワーク分析を用いた仮説の生成— 昭和女子大学大学院生活機構研究科紀要, 27, 31-41.
- 木川 智美・今城 周造 (2018b). 大学生を対象とした日常生活における他者操作方略尺度の作成と他の変数との関連 (1) —尺度作成と因子分析— 日本パーソナリティ心理学会第 27 回大会発表論文集, PC07.
- 木川 智美・今城 周造 (2018c). 女子大学生の他者操作方略に関連する諸変数の検討—パーソナリティ, ストレス, 人生満足感との関連性— 日本心理学会第 82 回大会発表論文集, 1AM-026.
- 木川 智美・今城 周造 (2020). 操作対象者の地位と性別が他者操作方略の選択におよぼす影響—女子大学生を操作者とした実験的研究— 昭和女子大学大学院生活機構研究科紀要, 29, 15-24.
- 喜入 暁・越智 啓太 (2016). サイコパシーは女性をモノだと思っている 日本認知心理学会第 14 回大会発表論文集, 145.
- 小西 瑞穂・田中 祐衣 (2011). 自己愛人格傾向の高い者の他者操作行動が友人からの評価に与える影響 東海学院大学紀要, 4, 167-172.
- 小西 瑞穂・大川 匡子・橋本 宰 (2006). 自己愛人格傾向尺度 (NPI-35) の作成の試み パーソナリティ研究, 14, 214-226.
- 小塩 真司 (1998). 自己愛傾向に関する一研究 —性役割観との関連— 名古屋大学教育学部紀要 (心理学), 45, 45-53.
- 串崎 真志 (2018). 高い感性をもつ子ども (Highly Sensitive Child) の理解—自閉症・高敏感者・エンパス・不登校— 関西大学人権問題研究室紀要, 76, 27-55.
- 串崎 真志 (2019). 感覚処理感受性が共感の正確性と動作の模倣に及ぼす効果 関西大学心理学研究, 10, 1-9.
- Levenson, M. R., Kiehl, K. A., & Fitzpatrick, C. M. (1995). Assessing psychopathic attributes in a noninstitutionalized population. *Journal of Personality and Social Psychology*, 68, 151-158.
- 李 同归・加藤 和生 (2006). 成人依戀的測量:親密关系经历量表(ecr)中文版 心理学报, 38, 399-399.
- Linehan, M. M., Comtois, K. A., Murray, A. M., Brown, M. Z., Gallop, R. J., Heard, H. L., ... Lindenboim, N. (2006). Two-year randomized controlled trial and follow-up of dialectical behavior therapy vs therapy by experts for suicidal behaviors and borderline personality disorder. *Archives of General Psychiatry*, 63, 757-766.
- Liss, M., Mailloux, J., & Erchull, M. J. (2008). The relationships between sensory processing sensitivity, alexithymia, autism, depression, and anxiety. *Personality and Individual Differences*, 45, 255-259.

- Lubid, R. H. (2018). Borderline personality disorder. *Medscape*. Retrieved from <https://emedicine.medscape.com/article/913575> (May 8, 2021)
- 前田 直樹・長友 真実・田中 陽子・三浦 宏子 (2007). 福祉系大学生における共依存と心理的健康 九州保健福祉大学研究紀要, 8, 79-87.
- Masui, K. (2019). Loneliness moderates the relationship between Dark Tetrad personality traits and internet trolling. *Personality and Individual Differences*, 150, 109475.
- 松見 俊 (2007). いわゆる「境界性人格障害」の人々への牧会 西南学院大学神学論集, 64, 111-131.
- Meloy, J. R. (2002). The “polymorphously perverse” psychopath: Understanding a strong empirical relationship. *Bulletin of the Menninger Clinic*. 66. 273-89.
- 永井 智 (2019). 成人の愛着と利他的行動の関連における共感性の媒介効果 パーソナリティ研究, 28, 253-255.
- 中村 研一 (2007). テロリズムの定義と行動様式 日本比較政治学会年報, 9, 131-152.
- 中村 敏健・平石 界・小田 亮・齋藤 慈子・坂口 菊恵・五百部 裕 ...長谷川 寿一 (2012). マキャベリアニズム尺度日本語版の作成とその信頼性・妥当性の検討 パーソナリティ研究, 20, 233-235.
- Neumann, C. S., Hare, R. D., & Newman, J. P. (2007). The super-ordinate nature of the Psychopathy Checklist-Revised. *Journal of Personality Disorders*, 21, 102-117.
- 日道 俊之・小山内 秀和・後藤 崇志他 (2017). 日本語版対人反応性指標の作成 心理学研究, 88, 61-71.
- Noggle, R. (2018). *The ethics of manipulation*. Stanford encyclopedia of philosophy. Retrieved from <https://plato.stanford.edu>(May 8, 2021)
- Paulhus, D. L., & Williams, K. M. (2002). The Dark Triad of personality: Narcissism, Machiavellianism, and psychopathy. *Journal of Research in Personality*, 36, 556-563.
- Peleschshyn, A., Holub, I., & Holub, Z. (2017). Formal model and key features of an online community fundamental for detecting informational and psychological manipulation. *In 2017 12th International Scientific and Technical Conference on Computer Sciences and Information Technologies*, 1, 101-104.
- Peleschshyn, A., Holub, Z., & Holub, I. (2018). The preliminary stage of the algorithm for detecting information and psychological manipulation in online communities. *In 2018 IEEE 13th International Scientific and Technical Conference on Computer Sciences and Information Technologies*, 2, 30-33.
- Peplau, L. A., & Perlman, D. (1979). Blueprint for a social psychological theory of loneliness. In *Love and attraction: An interpersonal conference*. New York: Pergamon Press, 101-110.
- Potter, N. N. (2006). What is manipulative behavior, anyway? *Journal of Personality Disorders*,

- 20, 139-156.
- Rada, F. M., de Lucas Taracena, M. T., & Rodriguez, M. M. (2004). Assessment of Machiavellian intelligence in antisocial disorder with the MACH-IV Scale. *Actas Españolas de Psiquiatría*, 32, 65-70.
- 落合 良行 (1974). 現代青年における孤独感の構造 (I) 教育心理学研究, 22, 162-170.
- 落合 良行 (1982). 孤独感の内包的構造に関する仮説. 教育心理学研究, 30, 233-238.
- Raskin, R., & Terry, H. (1988). A principal-components analysis of the Narcissistic personality inventory and further evidence of its construct validity. *Journal of Personality and Social Psychology*, 54, 890-902.
- Rilling, J. K., Glenn, A. L., Jairam, M. R., Pagnoni, G., Goldsmith, D. R., Elfenbein, H. A., & Lilienfeld, S. O. (2007). Neural correlates of social cooperation and non-cooperation as a function of psychopathy. *Biological psychiatry*, 61, 1260-1271.
- 増井 啓太・浦 光博 (2018). 「ダークな」人たちの適応戦略 心理学評論, 61, 330-343.
- Sanders, J. D., Smith, T. W., & Alexander, J. F. (1991). Type A behavior and marital interaction: Hostile-dominant responses during conflict. *Journal of Behavioral Medicine*, 14, 567-580.
- Schimmenti, A., Passanisi, A., Pace, U., Manzella, S., Di Carlo, G., & Caretti, V. (2014). The relationship between attachment and psychopathy: A study with a sample of violent offenders. *Current Psychology*, 33, 256-270.
- Schneider, D. J. (1969). Tactical self-presentation after success and failure. *Journal of Personality and Social Psychology*, 13, 262-268.
- 芝崎 良典 (2019) 孤独を感じやすいひととはどんなひとか 日本心理学会第 83 回大会発表論文, 3D-068.
- 下司 忠大・橋本 泰央・小塩 真司 (2015). 日本語版 Short Dark Triad (SD3-J)の更なる妥当性検証—対人円環, Big Five との関連を通して— 日本心理学会第 79 回大会発表論文, 2EV-008.
- 下司 忠大・小塩 真司 (2015). Dark Triad と他者操作方略の関連—Dark Triad の「裏切り者戦略」仮説の検証— 日本パーソナリティ心理学会第 24 回大会ポスター発表論文集, PE14.
- 下司 忠大・小塩 真司 (2017). 日本語版 Short Dark Triad (SD3-J) の作成 パーソナリティ研究, 26, 12-22.
- 下司 忠大・小塩 真司 (2019). Dark Triad と他者操作方略との関連 パーソナリティ研究, 28, 119-127.
- Singh, A. P. (2019). *Dynamics of persuasion in advertising: An analysis of apple commercials*. (Master thesis). West Texas A&M University.

- Smolewska, K. A., McCabe, S. B., & Woody, E. Z. (2006). A psychometric evaluation of the Highly Sensitive Person Scale: The components of sensory-processing sensitivity and their relation to the BIS/BAS and “Big Five”. *Personality and Individual Differences, 40*, 1269-1279.
- Soloff, P. H., & Chiappetta, L. (2012). Prospective predictors of suicidal behavior in borderline personality disorder at 6-year follow-up. *American Journal of Psychiatry, 169*, 484-490.
- Soloff, P. H., & Fabio, A. (2008). Prospective predictors of suicide attempts in borderline personality disorder at one, two, and two-to-five year follow-up. *Journal of Personality Disorders, 22*, 123-134.
- Sulzer, S. H. (2015). Does “difficult patient” status contribute to de facto demedicalization? The case of borderline personality disorder. *Social Science & Medicine, 142*, 82-89.
- 鈴木 有美, 木野 和代, 出口 智子, 遠山 孝司, 出口 拓彦, 伊田 勝憲, ... & 野田 勝子 (2000). 多次元共感性尺度作成の試み 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要心理発達科学, *47*, 269-279.
- 鈴木 有美・木野 和代 (2008). 多次元共感性尺度 (MES) の作成 教育心理学研究, *56*, 487-497.
- 高橋 亜希 (2016). Highly Sensitive Person Scale 日本版(HSPS-J19)の作成 感情心理学研究, *23*, 68-77.
- 高橋 徹・熊野 宏昭 (2019). 日本在住の青年における感覚処理感受性と心身の不適応の関連—重回帰分析による感覚処理感受性の下位因子ごとの検討— 人間科学研究, *32*, 235-243.
- 田村 和子・井上 果子 (2009). 境界性人格障害の特異性について 心理学研究, *79*, 506-513.
- 田村紋女・小塩真司・田中圭介・増井啓太 (2015). 日本語版 Dark Triad Dirty Dozen (DTDD-J) 作成の試み パーソナリティ研究, *24*, 26-37.
- 谷口 弘一・西谷 正太 (2012) 成人愛着スタイルにおける遺伝・環境要因の検討(2) 日本心理学会第 76 回大会発表論文集, 2EVC15.
- 田崎 優里・中島 健一郎・浦 光博 (2019). Dark Triad の高い人は貧しく孤独な人を友人に選ぶのか? パーソナリティ研究, *28*, 179-181.
- 寺島 瞳・小玉 正博 (2004). 他者操作方略尺度作成の試み 筑波大学心理学研究, *28*, 89-95.
- 寺島 瞳・小玉 正博 (2006a). 他者操作方略に至るまでの過程の検討—認知傾向と精神的健康から— 筑波大学心理学研究, *32*, 101-108.
- 寺島 瞳・小玉 正博 (2006b). 他者を操作する傾向と友達との付き合い方との関連 日本心理学会第 70 回大会発表論文集, 2PM015.
- 寺島 瞳・小玉 正博 (2007a). 他者を操作する傾向と精神的健康・対人ストレスとの関

- 連 日本心理学会第 71 回大会発表論文集, 2EV015.
- 寺島 瞳・小玉 正博 (2007b). 他者を操作することに影響を及ぼす個人内要因の検討
パーソナリティ研究, 15, 313-322.
- 寺島 瞳・小玉 正博 (2008a). 他者を操作する方略と心身の健康との関連 健康心理学研
究, 21, 39-46.
- 寺島 瞳・小玉 正博 (2008b). 操作的な関係性とはどのようなものか —操作と被操作に
影響する友人とのつきあい方の相違点— 日本心理学会第 72 回大会発表論文
集, 2PM171.
- Truhan, T. E., Wilson, P., Möttus, R., & Papageorgiou, K. A. (2020). The many faces of dark
personalities: An examination of the Dark Triad structure using psychometric network
analysis. *Personality and Individual Differences, 171*, 110502.
- Ueno, Y., Takahashi, A., & Oshio, A. (2019). Relationship between sensory-processing sensitivity
and age in a large cross-sectional Japanese sample. *Heliyon, 5*, e02508.
- 上野 雄己・高橋 亜希・小塩 真司 (2018). 日本人成人における感覚処理感受性と年齢
の関連 日本健康心理学会第 31 回大会発表論文集, 34.
- Vernon, P. A., Villani, V. C., Vickers, L. C., & Harris, J. A. (2008). A behavioral genetic
investigation of the Dark Triad and the Big 5. *Personality and Individual Differences, 44*,
445-452.
- Viding, E., & McCrory, E. (2019). Towards understanding atypical social affiliation in
psychopathy. *Lancet Psychiatry, 6*, 437-444.
- Wai, M., & Tiliopoulos, N. (2012). The affective and cognitive empathic nature of the dark triad
of personality. *Personality and Individual Differences, 52*, 794-799.
- 柳田 宗孝・荒井 崇史・藤 桂 (2018). サイコパシー特性と非道徳的行動の関係に
対するサポートの調整効果 心理学研究, 89, 1-11.
- 吉澤 英里 (2020). 自己卑下的呈示と評価への恐れとの関連について パーソナリテ
ィ研究, 29, 147-149.
- Zeigler-Hill, V., Southard, A. C., & Besser, A. (2014). Resource control strategies and
personality traits. *Personality and individual differences, 66*, 118-123.
- Zhang, W., Zou, H., Wang, M., & Finy, M. S. (2015). The role of the Dark Triad traits and two
constructs of emotional intelligence on loneliness in adolescents. *Personality and Individual
Differences, 75*, 74-79.

謝辞

この度博士学位論文を完成できることにあたり、たくさんの方に支えていただきました。

まずは、修士時代からずっとお世話になった関西大学文学部教授申崎真志先生に厚く御礼申し上げます。約7年間に渡って、申崎先生に研修全般をご指導・助言を頂きました。修士に入って、研究の熱意だけがあって、それ以外あまりできていない私を、ここまで育てていただきました。壁にぶつかったときに新しい方向性を私に示して、ミスしたときにも丁寧に優しく指摘をいただきました。休日や深夜にもメールの返信をいただきました。この7年間で数えきれないほど、たくさん助けていただきました。もし、申崎先生がいなければ、この論文はなかったし、私も博士論文を提出できなかったと思います。謝辞では語りきれないほどの感謝を伝えたいのですが、言葉だけじゃ薄い！と、何より行動が一番だと思いました。いつか必ず先生に恩返しをし、コロナが終わった後にまた一緒にお茶をしたいです。もし先生がよろしければの話ですが。

また、本論文を完成するあたり、2名の先生に副審査をお願いして、ご助言をいただきました。博士論文だけではなく、ほかの研究にもたくさん助けていただいた関西大学社会学部准教授守谷順先生には、今回の博士論文にも熱心にご指導・ご助言をいただいたおかげで、本論文がより論理的で、分かりやすくなりました。細かい部分の指摘もいただきまして、凄く助かりました。関西大学社会学部教授阿部晋吾先生からは、全体的なアドバイスと、細かな指摘をいただきました。お二方のおかげで、いままで気付かなかったものを発見でき、自分の勉強不足を体感しながら、論文をここまで仕上げることができました。心より感謝申し上げます。

そして、大学時代の指導教員である追手門学院大学心理学部准教授吉村晋平先生にも、心から感謝を申し上げます。吉村先生のおかげで、大学院に進学することを決意し、サイコパシー関連の研究を始めたのです。厚く御礼申し上げます。

さらに、ゼミの方々、心理学研究科の方々に感謝です。皆の支えがあるからこそ、ここまでやってきました！いつかみなにも恩返しをしたいです。卒業式の時にまたお会いして、感謝の気持ちを伝えたいです。そして、アンケートと実験に参加していただいた方々にも感謝を申し上げます。

最後に、採用していただいた今の会社、株式会社モルフォに厚く感謝します。自分の研究を役に立てるように精進します。この7年間に支えてくれた友人に心から感謝します。育てていただき、長年の留学を許してくれた親にも感謝です！親孝行をこれからいっぱいします！

附錄

調查 1（2017 年 11 月～12 月）

人格与人际关系的调查

这是一项关于人格和人际关系的调查研究，整个问卷预计将花费您 2 分钟左右的时间。

本调查所取得的数据只用来进行电脑计算，并且有完善的保密措施，不会泄露您的个人信息。研究结果只会被用于学术研究，不会对您造成任何困扰。您也可以在中途放弃作答。

- 完全不同意
- 部分不同意
- 略微不同意
- 不确定
- 略微同意
- 部分同意
- 完全同意

2. 我不太关心自己的行为是否符合道德规范。[单选题] *
3. 我希望别人关注我。[单选题] *
4. 我缺乏悔恨之心。[单选题] *
5. 我愤世嫉俗。[单选题] *
6. 我期望从别人那里获得特殊礼遇。[单选题] *
7. 我冷酷、麻木。[单选题] *
8. 我倾向于操纵别人以达到自己的目的。[单选题] *
9. 我习惯于奉承别人以达到自己的目的。[单选题] *
10. 我追求名誉地位。[单选题] *
11. 我习惯于欺骗别人以达到自己的目的。[单选题] *
12. 我倾向于利用别人以达到自己的目的。[单选题] *

- 完全不会
- 基本不会
- 一般不会
- 偶尔会
- 经常会
- 会

14. 我会要求对方达成以前的约定[单选题] *
15. 我会通过夸大自己的缺点来得到别人的同情[单选题] *
16. 我会通过送礼物或者请客来让对方顺从于我[单选题] *
17. 我会说自己遇到的不顺心的事来让对方安慰我[单选题] *
18. 我会说自己失败经验来获取同情[单选题] *
19. 会让他/她亏欠于我，让他/她无法拒绝你[单选题] *
20. 我会自我贬低，来让对方来安慰我“并没有那回事”[单选题] *
21. 我会用“他/她都能为我做到”之类的说辞，来让别人帮我[单选题] *
22. 我会先说“这不好吧？”来让对方难以拒绝[单选题] *
23. 我会故意装作状态不好，来让对方帮助我[单选题] *
24. 我会夸大描述事情，来让对方惊叹[单选题] *
25. 我会和别人说现在很忙，来让对方帮助我做事[单选题] *
26. 我会假装累了，来让对方劝我“你去休息吧”[单选题] *
27. 我会特意表现出在努力的样子，来让对方夸奖我[单选题] *
28. 我会特意说自己的特殊经历，来让对方感到“真厉害”[单选题] *
29. 我会假装自己做不到，来让对方帮我做事[单选题] *
30. 我会假装十分困扰，来让对方帮我做事[单选题] *
31. 我会故意说自己与众不同的地方，来让对方佩服我[单选题] *

調查 2 (2019 年 6 月)

这是一份调查人格和人际关系的调查问卷。整个问卷预计将花费您 2 分钟左右的时间。

本调查所取得的数据只用来进行电脑计算，并且有完善的保密措施，不会泄露您的个人信息。研究结果只会被用于学术研究，不会对您造成任何困扰。您也可以在中途放弃作答。

用 7 点评定表示你在多大程度上同意下面的说法，

- 完全不同意
- 部分不同意
- 略微不同意
- 不确定
- 略微同意
- 部分同意
- 完全同意

我不太关心自己的行为是否符合道德规范。[单选题] *

我希望别人关注我。[单选题] *

我缺乏悔恨之心。[单选题] *

我愤世嫉俗。[单选题] *

我期望从别人那里获得特殊礼遇。[单选题] *

我冷酷、麻木。[单选题] *

我倾向于操纵别人以达到自己的目的。[单选题] *

我习惯于奉承别人以达到自己的目的。[单选题] *

我追求名誉地位。[单选题] *

我习惯于欺骗别人以达到自己的目的。[单选题] *

我倾向于利用别人以达到自己的目的。[单选题] *

- 完全不符合
- 不符合
- 不确定
- 符合

○ 完全符合

如果周围人这么说的话，我也会觉得事情确实如此。

自己的信念和意见，是不会被朋友的意见左右的。

不擅长于不受他人印象自己决定做决定。

自己的感情容易被周围人影响。

从来没被他人的感情所影响过。

看到悲伤的人，会想去安慰他/她。

就算朋友有烦恼，也无法为朋友分担。

别人失败了，也不会想同情他/她。

看到或者听说别人努力的事迹的话，就算和自己没关系也会想要为他/她加油。

如果周围有正在困扰的人，就会希望这个问题能快点解决。

在看有趣的故事或者小说的时候，会幻想如果故事里的事情发生在自己身上的情况。

小说里的内容，从来不觉得和自己有关系。

喜欢幻想。

会反复想象，幻想会发生在自己身上的事。

看了让人感动的电影之后，会一直沉浸在那氛围中。

在和有与自己不同观点的人说话事，会思考对方是如何才会这么想的。

就算和他人对立了，也会努力站在对方的立场。

听别人说话的时候，会边听边思考对方到底要表达什么。

总是能站在对方的立场，去理解对方。

批判他人的时候，会无法站在对方的立场思考。

看到他人失败的样子，会想不希望自己变成这样。

看到他人陷于痛苦的境地之时，会在心里庆幸这种事没发生在自己身上。

看到他人成功的时候，会感到焦急。

有时候无法为他人的成功而感到喜悦。

下面给出了许多句子，都是描述恋爱关系中的每个人可能有的感觉。在你的恋爱关系中，你自己的一般的体验，与每个句子描述的情况有多大相似的地方？

请在下面的每个句子右边的评价栏中，选择最适合的数值，1 表示非常不同意，7 表示非常同意。记住，这里并不仅仅是现在的恋爱经历，而是指在你所有的恋爱经历中常常体验到的感觉。

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7

当恋人希望跟我非常亲近时，我会觉得不自在。[单选题] *

总的来说，我不喜欢让恋人知道自己内心深处的感觉。[单选题] *

我跟恋人什么事情都讲。[单选题] *

在需要的时候，我向恋人求助，是很有用的。[单选题] *

我经常与恋人讨论我所遇到的问题以及我关心的事情。[单选题] *

当恋人开始要跟我亲近时，我发现我自己在退缩。[单选题] *

我倾向于不跟恋人过分亲密。[单选题] *

我试图避免与恋人变得太亲近。[单选题] *

我有点担心会失去恋人。[单选题] *

我觉得自己在要求恋人把更多的感觉，以及对恋爱关系的投入程度表现出来。[单选题] *

我发现恋人并不愿意象我所想的那样跟我亲近。[单选题] *

如果我无法得到恋人的注意和关心，我会心烦意乱或者生气。[单选题] *

我并不是常常担心被恋人抛弃。[单选题] *

我担心我会被抛弃。[单选题] *

我担心恋人不会象我关心他(/ 她)那样地关心我。[单选题] *

我愿意把我内心的想法和感觉告诉恋人，我觉得这是一件自在的事情。[单选题] *

我并不在意从恋人那里寻找安慰，听取劝告，得到帮助。[单选题] *

我会在很多事情上向恋人求助，包括寻求安慰和得到承诺[单选题] *

我觉得对恋人开诚布公，不是一件很舒服的事情。[单选题] *

我觉得依赖恋人是件很自在的事情。[单选题] *

我常常想与恋人形影不离，但有时这样会把恋人吓跑。[单选题] *

我担心一个人独处。[单选题] *

我很担心我的恋爱关系。[单选题] *

- 我想跟恋人非常亲密的愿望，有时会把恋人吓跑。[单选题] *
- 如果在我需要的时候，恋人却不在我身边，我会感到沮丧。[单选题] *
- 我需要我的恋人一再地保证他/她是爱我的。[单选题] *
- 当恋人跟我过分亲密的时候，我会感到内心紧张。[单选题] *
- 我想与恋人亲近，但我又总是会退缩不前。[单选题] *
- 我觉得跟恋人亲近是一件惬意的事情。[单选题] *
- 我发现让我依赖恋人，是一件困难的事情。[单选题] *
- 我觉得我比较容易与恋人亲近。[单选题] *
- 如果我还没有恋人的话，我会感到有点焦虑和不安。[单选题] *
- 我常常希望恋人对我的感情和我对恋人的感情一样强烈。[单选题] *
- 当恋人不花时间和我在一起时，我会感到怨恨。[单选题] *
- 当恋人不赞同我时，我觉得确实是我不好。[单选题] *
- 如果恋人不能象我所希望的那样在我身边时，我会感到灰心丧气。[单选题] *

你和他人交往中，您会进行以下的行动吗。

请在“完全不会”，“基本不会”，“一般不会”，“偶尔会”，“经常会”，“会”五个选项中选择一個。

- 完全不会
- 基本不会
- 一般不会
- 偶尔会
- 经常会
- 会

- 我会要求对方达成以前的约定。[单选题] *
- 我会让他/她亏欠于我，让他/她无法拒绝你。[单选题] *
- 我会故意说自己与众不同的地方，来让对方佩服我。[单选题] *
- 我会特意说自己厉害的地方，来让对方感到“真厉害”。[单选题] *
- 我会和别人说现在很忙，来让对方帮我做事。[单选题] *
- 我会通过送礼物或者请客来让对方顺从于我。[单选题] *
- 我会用“他/她都能为我做到”之类的说辞，来让别人帮我。[单选题] *
- 我会先说“这不好吧？”来让对方难以拒绝。[单选题] *

- 我会假装自己做不到来让对方帮我做事。[单选题] *
- 我会通过夸大自己的缺点来获取同情。[单选题] *
- 我会说自己经历过的失败来获取同情。[单选题] *
- 我会说自己遇到的不顺心的事来让对方安慰我。[单选题] *
- 我会假装十分困扰，来让对方帮我做事。[单选题] *
- 我会特意表现出在努力的样子，来让对方夸我。[单选题] *
- 我会故意装作状态不好，来让我对方帮助我。[单选题] *
- 我会假装累了，来让对方劝我“你去休息吧”。[单选题] *
- 我会夸大描述事情，来让对方惊叹。[单选题] *
- 我会自我贬低，来让对方来安慰我“并没有那回事”。[单选题] *

調査 3 (2020 年 1 月)

【設問 A】 あなたのふだんの自分の様子について、以下の各項目がどれくらい当てはまるかを 1 から 5 点の範囲で考えて、数字をチェックしてください。全部で 12 項目

全くあてはまらない 1

2

3

4

非常にあてはまる 5

1. 私には他の人をあやつっても自分の思い通りにするところがある
2. 私は、あまり自分のあやまちを認めることがない
3. 私は、他の人から立派な人物だと思われたいほうだ
4. 私には他の人をだましたり嘘をついても自分の思い通りにするところがある
5. 私は、自分の行動の善悪にはあまり関心がない
6. 私は、他の人から注目してほしいと思いがちだ
7. 私には他の人にお世辞を言っても自分の思い通りにするところがある
8. 私は、どちらかというと冷淡で人の気持ちを気にしない
9. 私は、高い身分や名声を手に入れたいと思いがちだ
10. 私には自分の目的のために他の人を利用するところがある
11. 私は、どちらかというときい深くひねくれた人間である
12. 私は、他の人からの特別な好意を期待しがちだ

【設問 B】 あなたは人という時に、以下の項目にあるような行動をどの程度しようとしたことがありますか。当てはまる程度を 1 から 6 点の範囲で考えて、数字をチェックしてください。全部で 21 項目

全くしない 1

2

3

4

5

よくする 6

1. 「すごいね」と言ってもらおうとして自分のすごいと思うところをアピールする
2. ほめてもらおうとしてがんばっている自分をアピールする
3. 感心してもらおうとしてひととは違うところをアピールする
4. 感心してもらおうとしてわざと相手の知らないことを言う
5. ほめてもらおうとして自分の成功した話を大げさに言う
6. 驚かせようとして自分の体験を大げさに言う
7. 相手になぐさめてもらおうとして自分の不運を大げさにはぼやく
8. 同情してもらおうとして自分の失敗談を大げさに話す
9. 心配してもらおうとしてつらそうなふりをする
10. 同情してもらおうとして自分の欠点を大げさに言う
11. 相手に「そんなことないよ」と否定してもらおうとして自分を卑下する
12. 頼みごとをことわりなくくさせようとして相手への昔の貸しをもちだす
13. 自分が気のすすまない仕事をやってもらおうとして過去に相手に着せた恩をもちだす
14. ことわりなくくさせようとして都合がよいことを確認した後に顔み事をする
15. 仕事をしてもらおうとして「～はやってくれたのに」と別の友人をひきあいに出す
16. 仕事をしてもらおうとして相手にとって都合のよい交換条件を出す
17. 自分の仕事を手伝ってもらおうとしていかにも困っているふりをする
18. 相手に仕事を代わってもらおうとして「自分にはできない」というふりをする
19. 相手に仕事を代わってもらおうとして調子悪そうなふりをする
20. 「休んでていいよ」と言ってもらおうとして疲れたふりをする
21. 自分の仕事を手伝ってもらおうとして忙しいことをアピールする

調査 4 (2020 年 4 月)

【設問 A】 あなたのふだんの自分の様子について、以下の各項目がどれくらい当てはまるかを 1 から 7 点の範囲で考えて、数字をチェックしてください。全部で 19 項目

全くあてはまらない 1

2

3

4

5

6

非常にあてはまる 7

- A1. 一度にたくさんの事が起こっていると不快になりますか?
- A2. 忙しい日々が続くと、ベッドや暗くした部屋などプライバシーが得られ、刺激の少ない場所に逃げ込みたくなりますか?
- A3. 明るい光や強いにおい、ごわごわした布地、近くのサイレンの音などにゾッとしやすいですか?
- A4. 短時間にしなければならないことが多いとオロオロしますか?
- A5. 生活に変化があると混乱しますか?
- A6. 大きな音や雑然とした光景のような強い刺激がわずらわしいですか?
- A7. 他人の気分に左右されますか?
- A8. 大きな音で不快になりますか?
- A9. 一度にたくさんのことを頼まれるとイライラしますか?
- A10. いろいろなことが自分の周りで起きていると、不快な気分が高まりますか?
- A11. 競争場面や見られていると、緊張や動揺のあまり、いつもの力を発揮できなくなりますか?
- A12. 強い刺激に圧倒されやすいですか?
- A13. 痛みに敏感になることがありますか?
- A14. 豊かな内面生活を送っていますか?
- A15. 美術や音楽に深く感動しますか?
- A16. 自分に対して誠実ですか?
- A17. ビクッとしやすいですか?
- A18. 微細で繊細な香り・味・音・芸術作品などを好みますか?

A19. 子供の頃、親や教師はあなたのことを「敏感だ」とか「内気だ」と見ていましたか？

【設問 B～設問 F】 あなたのふだんの自分の様子について、以下の各項目がどれくらい当てはまるかを 1 から 5 点の範囲で考えて、数字をチェックしてください。全部で 33 項目。

まったく当てはまらない 1

2

3

4

非常によく当てはまる 5

B1. 非常事態では、不安で落ち着かなくなる

B2. 激しく感情的になっている場面では、何をしたらいいか分からなくなることがある

B3. 気持ちが張り詰めた状況にいると、恐ろしくなってしまう

B4. 切迫した状況では、自分をコントロールできなくなる方だ

B5. 差し迫った助けが必要な人を見ると、混乱してどうしたらいいかわからなくなる

B6. 誰かが傷つけられているのを見たとき、落ち着いていられる方だ

B7. 緊急事態には、たいていはうまく対処できる

C1. 自分より不運な人たちを心配し、気にかけることが多い

C2. 誰かがいいように利用されているのをみると、その人を守ってあげたいような気持ちになる

C3. 自分が見聞きした出来事に、心を強く動かされることが多い

C4. 自分は思いやりの気持ちが強い人だと思う

C5. 他の人たちが困っているのを見て、気の毒に思わないことがある

C6. 他の人たちが不運な目にあっているのはたいてい、それほど気にならない

C7. 誰かが不公平な扱いをされているのをみたときに、そんなにかわいそうだと思わないことがある

D1. 何かを決める前には、自分と意見が異なる立場のすべてに目を向けるようにしている

D2. 友達のことをよく知ろうとして、その人からどのように物事がみえているか想像する

D3. すべての問題点には 2 つの立場があると思っており、その両者に目を向けるようにしている

D4. 誰かにいらいらしているときにはたいてい、しばらくその人の身になって考えるようにしている

D5. 誰かを批判する前には、自分が批判される相手の立場だったらどう感じるか想像しようとする

- D6. 他の人の視点から物事を見るのは難しいと感ずることがある
- D7. 自分が正しいと思える時には、他の人の言い分を聞くようなことには時間を使わない
- E1. 自分の身に起こりそうな出来事について、空想にふけることが多い
- E2. 小説に登場する人物の気持ちに深く入り込んでしまう
- E3. 演劇や映画を観た後は、自分が登場人物のひとりになりきっている感じがする
- E4. よい映画をみるとき、自分を物語の中心人物に置き換えることができる
- E5. 面白い物語や小説を読んでいると、その話の出来事がもし自分の身に起こったらどんな気持ちになるだろうと想像する
- E6. 映画や劇をみるときはたいてい、引き込まれてしまうことはなく、客観的である
- E7. よい本や映画にすっかり入り込んでしまうことはめったにない
- F1. 何かで悲しくなっている友だちと一緒にいたあと、私はいつも悲しい気持ちになる
- F2. 私は、ほかの人の気持ちに引っ張られやすい
- F3. 私はテレビや映画で悲しい場面を観ると、しばしば悲しくなる
- F4. 怖がっている友だちと一緒にいると、私も恐怖を感じやすい
- F5. 私はときどき、友だちと同じ気持ちで心がいっぱいになる

調査 5 (2020 年 6 月)

【設問 A】 あなたのふだんの自分の様子について、以下の各項目がどれくらい当てはまるかを 1 から 7 点の範囲で考えて、数字をチェックしてください。全部で 19 項目

全くあてはまらない 1

2

3

4

5

6

非常にあてはまる 7

- A1. 一度にたくさんの事が起こっていると不快になりますか?
- A2. 忙しい日々が続くと、ベッドや暗くした部屋などプライバシーが得られ、刺激の少ない場所に逃げ込みたくなりますか?
- A3. 明るい光や強いにおい、ごわごわした布地、近くのサイレンの音などにゾッとしやすいですか?
- A4. 短時間にしなければならないことが多いとオロオロしますか?
- A5. 生活に変化があると混乱しますか?
- A6. 大きな音や雑然とした光景のような強い刺激がわずらわしいですか?
- A7. 他人の気分に左右されますか?
- A8. 大きな音で不快になりますか?
- A9. 一度にたくさんのことを頼まれるとイライラしますか?
- A10. いろいろなことが自分の周りで起きていると、不快な気分が高まりますか?
- A11. 競争場面や見られていると、緊張や動揺のあまり、いつもの力を発揮できなくなりますか?
- A12. 強い刺激に圧倒されやすいですか?
- A13. 痛みに敏感になることがありますか?
- A14. 豊かな内面生活を送っていますか?
- A15. 美術や音楽に深く感動しますか?
- A16. 自分に対して誠実ですか?
- A17. ビクッとしやすいですか?
- A18. 微細で繊細な香り・味・音・芸術作品などを好みますか?

A19. 子供の頃、親や教師はあなたのことを「敏感だ」とか「内気だ」と見ていましたか？

【設問 B～設問 G】 あなたのふだんの自分の様子について、以下の各項目がどれくらい当てはまるかを 1 から 5 点の範囲で考えて、数字をチェックしてください。全部で 38 項目。

まったく当てはまらない 1

2

3

4

非常によく当てはまる 5

B1. 非常事態では、不安で落ち着かなくなる

B2. 激しく感情的になっている場面では、何をしたらいいかわからなくなることがある

B3. 気持ちが張り詰めた状況にいると、恐ろしくなってしまう

B4. 切迫した状況では、自分をコントロールできなくなる方だ

B5. 差し迫った助けが必要な人を見ると、混乱してどうしたらいいかわからなくなる

B6. 誰かが傷つけられているのを見たとき、落ち着いていられる方だ [R]

B7. 緊急事態には、たいていはうまく対処できる [R]

C1. 自分より不運な人たちを心配し、気にかけることが多い

C2. 誰かがいいように利用されているのをみると、その人を守ってあげたいような気持ちになる

C3. 自分が見聞きした出来事に、心を強く動かされることが多い

C4. 自分は思いやりの気持ちが強い人だと思う

C5. 他の人たちが困っているのを見て、気の毒に思わないことがある [R]

C6. 他の人たちが不運な目にあっているのはたいてい、それほど気にならない [R]

C7. 誰かが不公平な扱いをされているのをみたときに、そんなにかわいそうだと思わないことがある [R]

D1. 何かを決める前には、自分と意見が異なる立場のすべてに目を向けるようにしている

D2. 友達のことをよく知ろうとして、その人からどのように物事がみえているか想像する

D3. すべての問題点には 2 つの立場があると思っており、その両者に目を向けるようにしている

D4. 誰かにいらいらしているときにはたいてい、しばらくその人の身になって考えるようにしている

D5. 誰かを批判する前には、自分が批判される相手の立場だったらどう感じるか想像しようとする

- D6. 他の人の視点から物事を見るのは難しいと感ずることがある [R]
- D7. 自分が正しいと思える時には、他の人の言い分を聞くようなことには時間を使わない [R]
- E1. 自分の身に起こりそうな出来事について、空想にふけることが多い
- E2. 小説に登場する人物の気持ちに深く入り込んでしまう
- E3. 演劇や映画を観た後は、自分が登場人物のひとりになりきっている感じがする
- E4. よい映画をみるとき、自分を物語の中心人物に置き換えることが簡単にできる
- E5. 面白い物語や小説を読んでいると、その話の出来事がもし自分の身に起こったらどんな気持ちになるだろうと想像する
- E6. 映画や劇をみるときはたいてい、引き込まれてしまうことはなく、客観的である [R]
- E7. よい本や映画にすっかり入り込んでしまうことはめったにない [R]
- F1. 何かで悲しくなっている友だちと一緒にいたあと、私はいつも悲しい気持ちになる
- F2. 私は、ほかの人の気持ちに引っ張られやすい
- F3. 私はテレビや映画で悲しい場面を観ると、しばしば悲しくなる
- F4. 怖がっている友だちと一緒にいると、私も恐怖を感じやすい
- F5. 私はときどき、友だちと同じ気持ちで心がいっぱいになる
- G1. まわりの人がそうだとすれば、自分もそうだと思えてくる。
- G2. 自分の信念や意見は、友人の意見によって左右されることはない。 [R]
- G3. 物事を、まわりの人の影響を受けずに自分一人で決めるのが苦手だ。
- G4. 自分の感情はまわりの人の影響を受けやすい。
- G5. 他人の感情に流されてしまうことはない。 [R]

【設問 H】 あなたのふだんのふるまいについてお尋ねします。あなたは人という時に、以下の項目にあるような行動を、どの程度することがありますか。1 から 6 点の範囲で考えて、数字をチェックしてください。全部で 18 項目。

- まったくしない 1
- めったにしない 2
- あまりしない 3
- たまにする 4
- しばしばする 5
- よくする 6

- H1. 以前の約束をたてにその約束を果たすことを相手にせまる。
- H2. 相手に貸しを作って頼みごとをことわりにくくさせる。
- H3. 相手に物をあげたりおごったりして自分のいうことをきかせる。

- H4. 「〇〇はやってくれたのに」と別の友人をひきあいに出してやってもらう。
- H5. 「無理だよね?」と聞いて「無理」と言わせにくくし引き受けてもらう。
- H6. 調子悪そうなふりをして相手に仕事を代わってもらう。
- H7. 疲れたふりをして「休んでいいよ」と言ってもらう。
- H8. 忙しいことをアピールして自分の仕事を手伝ってもらう。
- H9. 「自分にはできない」というふりをして相手に仕事を代わってもらう。
- H10. いかにも困っているふりをして自分の仕事を手伝ってもらう。
- H11. がんばっている自分をアピールしてほめてもらう。
- H12. ひととは違うところをアピールして感心させる。
- H13. 自分のすごいと思うところをアピールして「すごいね」と言ってもらう。
- H14. 自分の体験を大げさに言って驚かせる。
- H15. 自分の欠点を大げさに言って同情をさそう。
- H16. 自分の失敗談を大げさに話して同情してもらう。
- H17. 自分の不運をぼやいて相手になぐさめてもらう。
- H18. 自分を卑下して相手に「そんなことはないよ」と否定してもらう。